

平成 26 年度佐賀県小・中学校学習状況調査（4 月調査）
結果報告

平成 26 年 7 月 31 日（木）

佐賀県教育委員会

目 次

1	調査の実施概要	1
2	教科に関する調査の概要	4
3	教科ごとの調査結果	
	◎国語	
	(1) 全体的な傾向及び観点別の正答率	5
	(2) 地域別の正答率	7
	(3) 設問ごとの正答率及び解答の状況	8
	(4) 成果と課題	13
	(5) 改善のポイント	16
	◎算数・数学	
	(1) 全体的な傾向及び観点別の正答率	17
	(2) 地域別の正答率	19
	(3) 設問ごとの正答率及び解答の状況	20
	(4) 成果と課題	25
	(5) 改善のポイント	26
4	児童生徒意識調査（小学5年、中学1、2年）、児童生徒質問紙 （小学6年、中学3年）、学校質問紙調査及び教師意識調査の概要	
	(1) 授業への関心・理解度について	27
	(2) 学習活動に関する意識について	38
	(3) 家庭での学習について	43
	(4) 学校生活、家庭生活に係る児童生徒の意識について	49
	(5) 地域別の状況	59
	(6) 児童生徒意識調査からの指導改善のポイント	77

1 調査の実施概要

(1) 趣旨

学習指導要領に示されている目標や内容の実現状況、学習に対する意識・態度や生活習慣及び教師の指導に関する意識を把握し、教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

各学校は、児童生徒一人一人の調査結果を踏まえた指導改善を行うとともに、教育委員会は、課題解決に向けた施策の見直しや充実を図る。

なお、調査に当たっては、市町教育委員会と県教育委員会が協力し、一体となって実施する。

学力は、知識や技能に加えて、自ら学び、判断・行動し、問題解決する資質や能力等までを含めたものです。今回の調査結果は、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面を示すものです。

(2) 調査実施日

小・中学校とも平成 26 年 4 月 22 日（火）

(3) 調査内容

- ① 各教科の目標や内容の実現状況に関する「教科に関する調査」
 - ・小 5、小 6 国語、算数
 - ・中 1、中 2、中 3 国語、数学
- ② 学習に対する意識や生活習慣等に関する「児童生徒意識調査」
- ③ 学習指導法等に関する「教師意識調査」
- ※ 小 6 年及び中 3 年は、全国学力・学習状況調査の「教科に関する調査」「生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査」を活用

(4) 調査方法

- ① 教科に関する調査（小 5、小 6、中 1、中 2、中 3）
- ② 児童生徒意識調査（小 5、小 6、中 1、中 2、中 3）
- ③ 教師意識調査（対象学年の対象教科担当教職員：平成 26 年 2 月実施）

(5) 調査の成果指標

① 教科に関する調査

学習指導要領の目標や内容の実現状況を到達基準〔注 1, 2〕として、「おおむね達成」と「十分達成」の 2 つの基準値を設定し、全学年・全教科において「十分達成」を超えることを目指している。

② 児童生徒や教師に対する意識調査

学習への意識・態度、生活習慣、指導方法などの実態把握を行い、教科に関する調査の結果と関連させて、授業における指導法や家庭学習等の改善と向上を目指している。

(6) 調査対象及び調査人数

	学校数	学年	人数
小学校	164	第5学年	7,773
		第6学年	7,981
中学校	91	第1学年（県立学校を含む）	8,056
		第2学年（県立学校を含む）	8,006
		第3学年（県立学校を含む）	7,923
特別支援学校	6	小学部第5学年	2
		小学部第6学年	1
		中学部第1学年	5
		中学部第2学年	6
		中学部第3学年	6
計			39,759

〔注1〕 到達基準について

佐賀県では、平成19年度調査から、学習指導要領の目標や内容に照らして、児童生徒に求められる正答率の目標値を「到達基準」として設定している。これにより、同じ指標による経年比較が可能となる。

「到達基準」は、修正エーベル法の考え方に沿って、小問毎に「期待正答率」を設定し、それを集約して設定している。「期待正答率」とは、問題の特性や難易度に応じて判断した、受検した児童生徒のうち正答することが期待される者の人数の割合であり、小問毎に「十分達成」「おおむね達成」という2つの基準値を設定している。

- 「十分達成」は、学習内容の習得が十分であると判断される基準
- 「おおむね達成」は、最低限これを上回ることが必要であると判断される基準

このように、事前に設定した「到達基準」と調査結果を比較することにより、到達度を測ることができる。

また、この到達基準を基に、各学校においては、調査結果に基づいて自校の取組を検証し、課題に応じた重点目標を設定し、解決に向けた指導の工夫・改善に取り組む。

〔注2〕 修正エーベル法

- 1972年にエーベルが提唱したエーベル法に橋本重治が修正を加えて考案した到達基準の設定方法で、個々の小問の判断に基づくエーベル法をより簡略化して利用できるようにしたもの。
- 各小問を、関連性と困難度のマトリックスにおいて分類する。
- 関連性は、「基礎的・基本的」（後の学習への関連性が高く、その学年でぜひとも身に付けさせたい目標を測る問題）と「発展的・応用的」（比較的高度で、後の学習への関連性がそれほど高くないが、その学年で身に付けることが望ましい目標を測る問題）の2区分である。
- 困難度は次の分類表のとおり、「平易」「普通」「困難」の3区分。ただし、「基礎的・基本的」に分類される「困難」な問題は妥当ではないので、分類から除外する。全ての小問が、(A)(B)(C)(D)(E)のいずれかに割り振られる。

■修正エーベル法における問題の分類表

	平易	普通	困難
基礎的・基本的	(A)	(B)	
発展的・応用的	(C)	(D)	(E)

- 本調査では、過去の調査結果の傾向を踏まえて、次の表のように小・中学校別に期待正答率を設定している。

■小・中学校別期待正答率

(注) 上の数字は「十分達成」、下の数字は「おおむね達成」の場合を示している。

		平易	普通	困難
小学校	基礎的・基本的	(A) 0.85(85%) 0.65(65%)	(B) 0.80(80%) 0.60(60%)	
	発展的・応用的	(C) 0.75(75%) 0.55(55%)	(D) 0.70(70%) 0.50(50%)	(E) 0.65(65%) 0.45(45%)
中学校	基礎的・基本的	(A) 0.75(75%) 0.55(55%)	(B) 0.70(70%) 0.50(50%)	
	発展的・応用的	(C) 0.65(65%) 0.45(45%)	(D) 0.60(60%) 0.40(40%)	(E) 0.55(55%) 0.35(35%)

2 教科に関する調査の概要

- 平成 26 年度の到達状況を見ると、県で設定した「到達基準」(P2 [注 1] 参照) に対して「おおむね達成」の基準を上回ったものは、10 教科中 9 教科であり、本県児童生徒の学習内容の習得状況はおおむね良好であった。[表 1]
- このうち、中学 3 年国語のみが「十分達成」の基準と同程度であったが、他の教科については、下回っている。[グラフ 1]

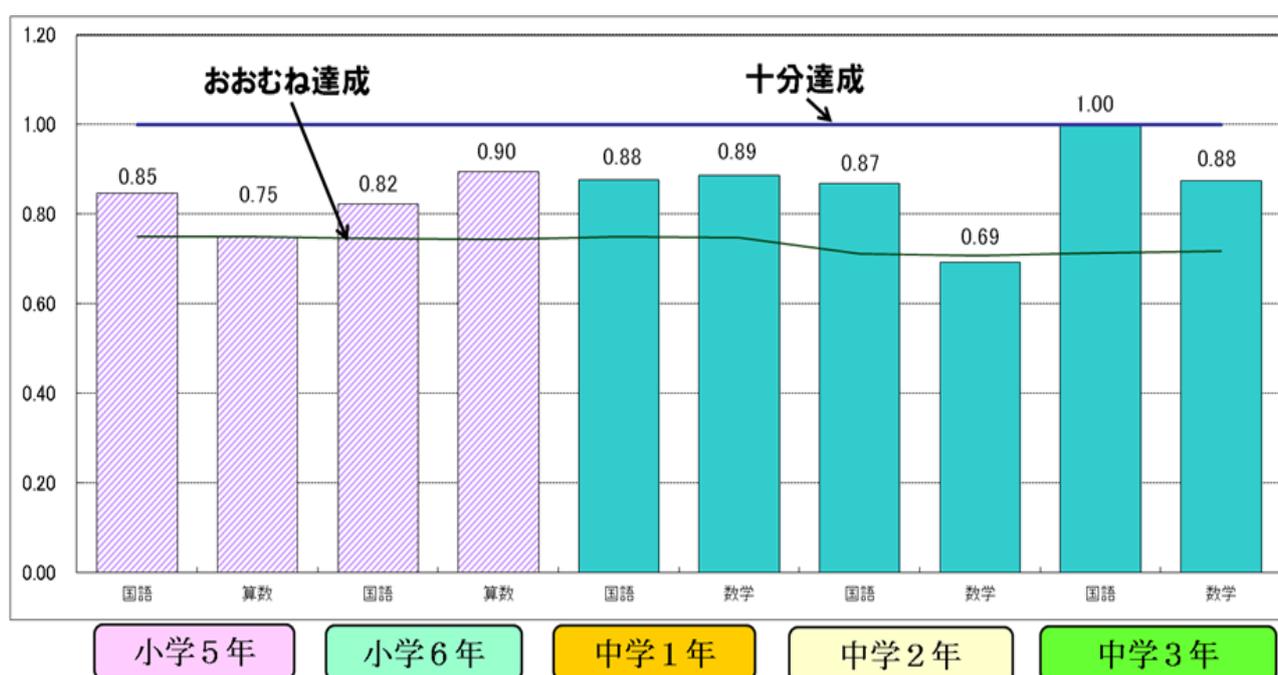
[表 1] 各学年・教科の到達状況

教科	平成26年度の到達状況				(参考)平成25年度の到達状況			
	県正答率(A)	到達基準		「十分達成」に対する割合(A/B)	県正答率(A)	到達基準		「十分達成」に対する割合(A/B)
		十分達成(B)	おおむね達成			十分達成(B)	おおむね達成	
小5国語	67.6	79.8	59.8	0.85	59.3	80.2	60.2	0.74
小5算数	59.7	79.6	59.6	0.75	66.6	79.1	59.1	0.84
小6国語	64.5	78.4	58.4	0.82	53.7	77.5	57.5	0.69
小6算数	69.9	78.0	58.0	0.90	70.2	78.8	58.8	0.89
中1国語	70.1	80.0	60.0	0.88	68.5	80.8	60.8	0.85
中1数学	70.5	79.5	59.5	0.89	72.7	78.9	58.9	0.92
中2国語	60.4	69.5	49.5	0.87	61.6	69.8	49.8	0.88
中2数学	47.3	68.4	48.4	0.69	53.8	69.4	49.4	0.78
中3国語	70.0	69.9	49.9	1.00	73.5	70.9	50.9	1.04
中3数学	61.8	70.6	50.6	0.88	56.1	69.7	49.7	0.80

※1 網掛けについては「十分達成」に対する割合が 1.0 を上回っている教科を示している。

[グラフ1] 平成 26 年度 各学年・教科正答率の「十分達成」に対する割合

(十分達成=1.00)

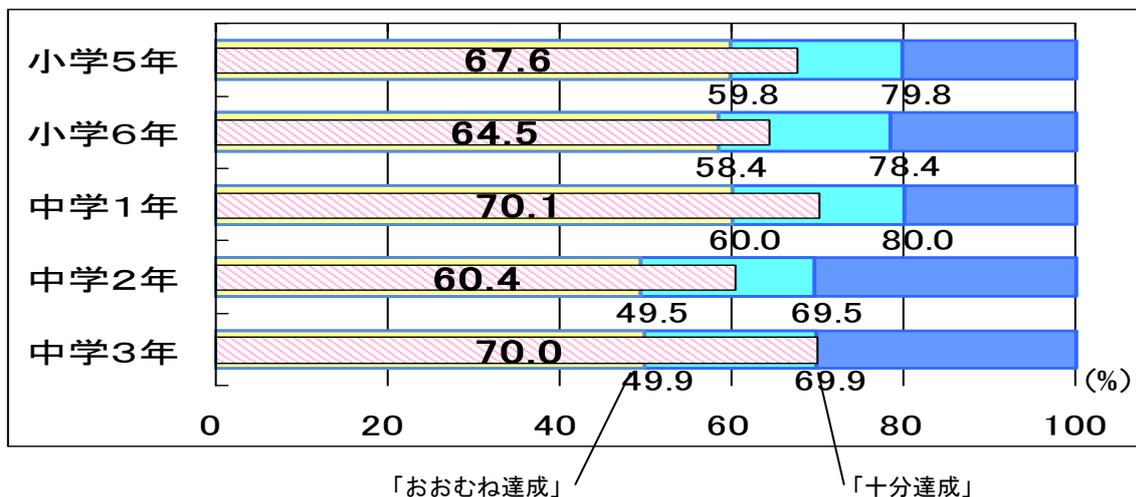


3 教科ごとの調査結果 ◎ 国語（小学5年～中学3年）

(1) 全体的な傾向及び観点別の正答率

- 学年別正答率では、全ての学年で、「おおむね達成」の基準に到達していた。
[グラフ2]
- 話す・聞く能力については、小中学校ともに、おおむね良好であるが、話し合いの中で発言の共通点・相違点を捉えながら、話し合いの観点を整理することに課題がみられる。[グラフ3、表3～7]
- 書く能力については、小学校は、無解答率が減っている。中学校は、一部正答率の低下がみられるものの、おおむねよくできていた。
文章や資料を読んだあとに、条件に応じて自分の考えを書くことに課題がみられる。複合的な力が求められる。[グラフ4、表3～7]
- 読む能力については、小学校では、一部を除いて、正答率が上がっている。中学校では、全体的に正答率が低下している。
文章を読んで、「要旨を捉える」「要約する」力に課題がみられる。また、何を書かれてあるのかは、読めていても、どのように書かれてあるのかを捉える力が十分ではない。[グラフ5、表3～7]
- 言語についての知識・理解・技能の能力については、小中学校ともに、文脈に即した漢字の読み・書きは、おおむね良好である。[グラフ6、表3～7]
- 「読むこと」「書くこと」を関連させ考えをまとめるなど、複合的な操作を伴って解答を出すことに課題がみられる。

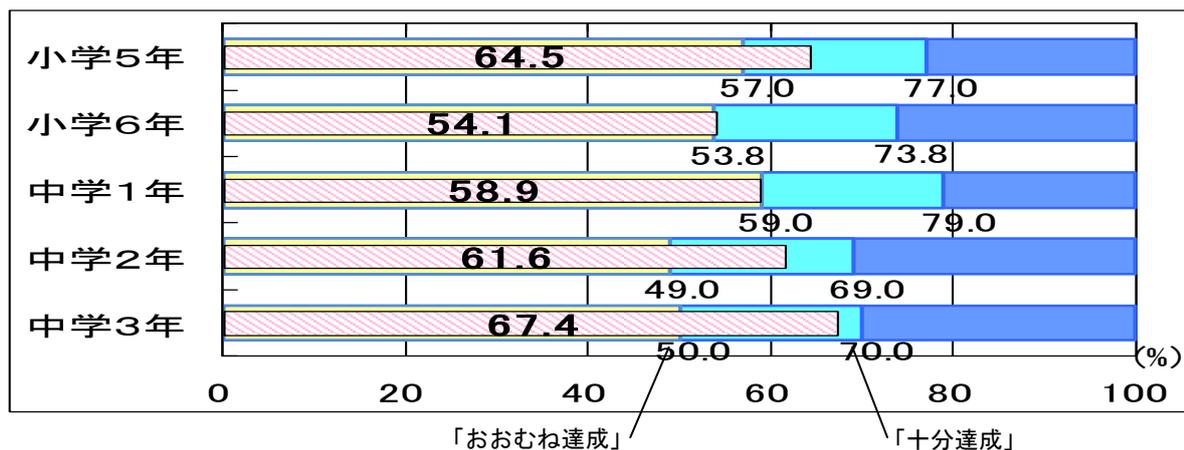
[グラフ2] H26 小・中学校国語 学年別全体正答率



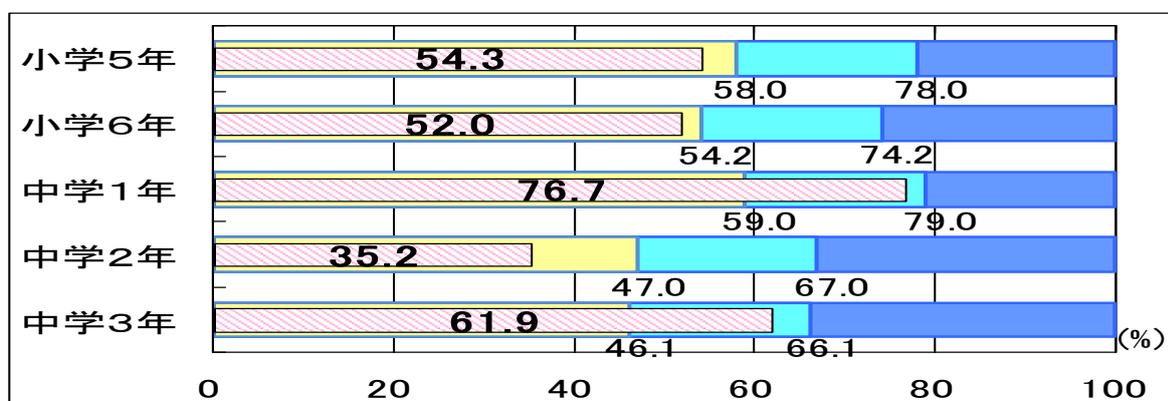
★ 全体的な傾向

- ・ 小・中学校ともに読んだ内容を基にして自分の考えを書くことに課題がある。文章の内容を読みとって、自分の考えを書く力が十分ではない。「読むこと」「書くこと」を関連させ複合的な操作を伴って解答を出すことに課題がある。(事項以降資料参照)

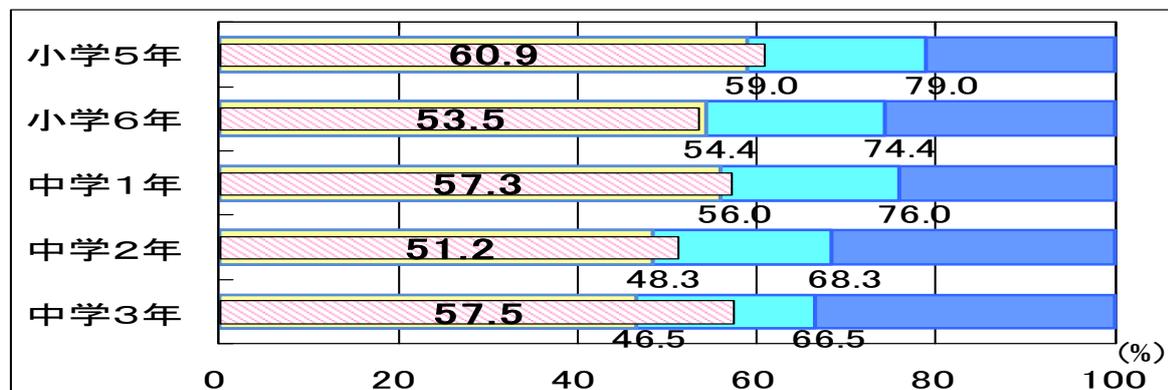
[グラフ3] H26 小・中学校国語「話す・聞く能力」の観点の正答率



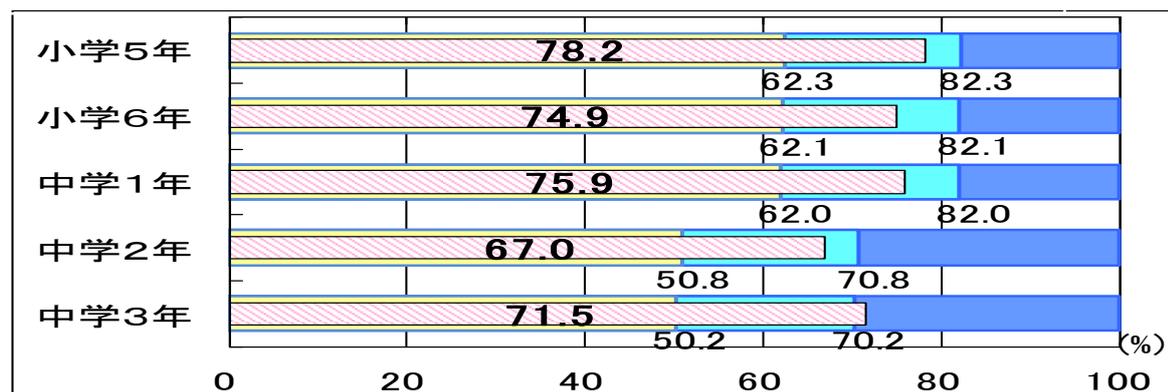
[グラフ4] H25・26 小・中学校国語「書く能力」の観点の正答率国語



[グラフ5] H25・26 小・中学校国語「読む能力」の観点の正答率



[グラフ6] H25・26 小・中学校国語「言語についての知識・理解・技能」の観点の正答率



(2) 地域別の正答率

- 県内5地域の国語の平均正答率は[表2]のとおりで、依然として地域間の学力差がみられる状況にあり、5学年中3学年で、昨年度と比べて地域差が拡大している。
- 教科別平均正答率の「十分達成」に対する状況は、5地域とも、小・中学校全ての学年で「おおむね達成」の基準に到達している。[グラフ7]

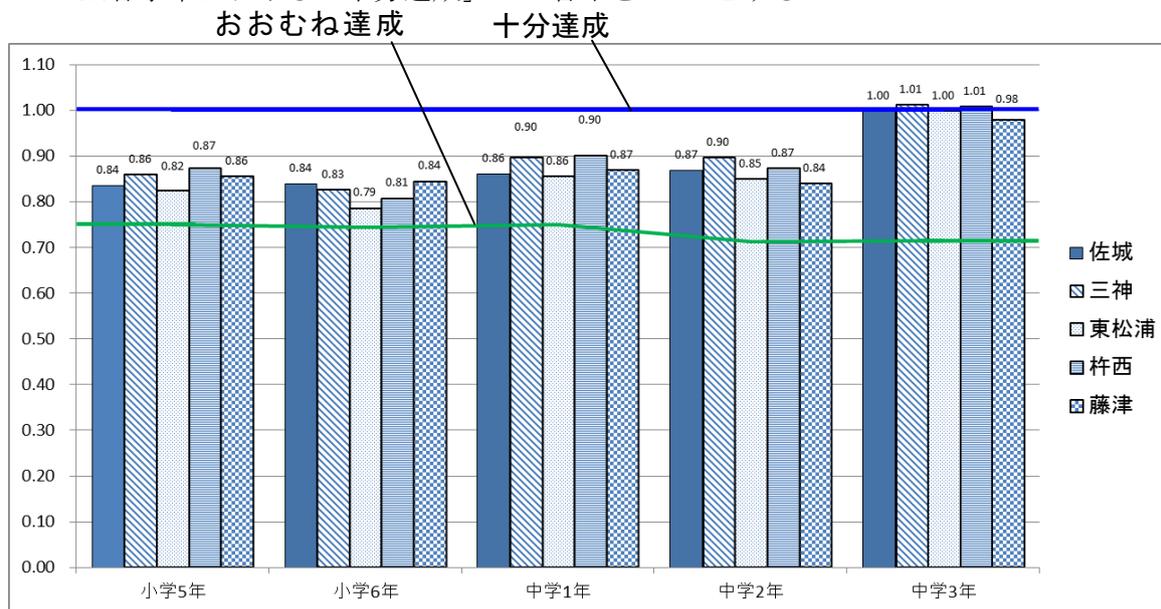
[表2] 県内5地域における学年別平均正答率（国語）

※「地域差」は、地域別平均正答率の最大値と最小値の差を表す

学年・教科	実施年度	県平均正答率(%)	地域別平均正答率(%)					地域差	
			佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学5年	国語	H26	67.6	66.7	68.5	65.7	69.6	68.3	3.9
		H25	59.3	58.7	61.0	58.4	59.0	60.1	2.6
小学6年	国語	H26	64.5	65.8	64.8	61.6	63.3	66.2	4.6
		H25	53.7	52.9	54.8	52.5	55.3	52.9	2.8
中学1年	国語	H26	70.1	68.9	71.7	68.4	72.0	69.5	3.6
		H25	68.5	68.6	69.3	67.8	69.0	66.3	3.0
中学2年	国語	H26	60.4	60.4	62.3	59.0	60.7	58.3	4.0
		H25	61.6	61.2	63.6	61.2	61.9	57.8	5.8
中学3年	国語	H26	70.0	69.7	70.7	69.8	70.4	68.4	2.3
		H25	73.5	73.5	74.1	71.9	74.4	72.8	2.5

[グラフ7] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※各学年における「十分達成」の正答率を1.00とする



※地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

(3) 設問ごとの正答率及び解答の状況

[表3] 小学5年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

問題番号	出題の趣旨	評価の観点					問題形式		活用に関する問題	79.8 59.8			
		話す・聞く能力	書く能力	読む能力	識・理解・技能	言語についての知識	選択式	短答式		記述式	十分達成	おおむね達成	正答率
1	一	互いの考えの共通点や相違点を考え、進行に沿って話し合う	○				○			85	65	78.6	0.5
1	二	相手や目的に応じ、場に応じた適切な言葉遣いで話す	○					○		80	60	74.6	2.0
1	三①	司会の役割を理解し、話し合いを進める	○				○			75	55	59.4	1.1
1	三②	司会の役割を理解し、話し合いを進める	○				○			75	55	47.7	5.9
1	四	聞いた事柄を基に自分の意見を述べる	○					○	○	70	50	62.1	5.7
2	一	目的に応じ、伝えたい事柄を分かりやすく書く		○			○			80	60	69.6	1.2
2	二	段落相互の関係に注意して文章を構成する		○			○			85	65	59.5	1.8
2	三	文と文との意味のつながりを考え、接続語を使って書く		○			○			80	60	59.9	1.7
2	四	目的に応じ、適切な表現に書き直す		○				○		75	55	51.1	10.8
2	五	自分の考えを理由や事例を挙げて書く		○				○	○	70	50	31.6	14.0
3	一	叙述を基に登場人物の心情を捉える			○		○			80	60	51.4	4.7
3	二	各場面の様子に気を付けながら場面と場面を関係付けて読む			○			○		80	60	57.4	4.9
4	一	段落相互の関係を読み取る			○		○			80	60	70.1	7.1
4	二1	中心となる大事な事柄を読み取る			○			○		80	60	68.3	10.4
4	二2	中心となる大事な事柄を読み取る			○			○		75	55	57.4	11.7
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「芽」				○		○		85	65	92.6	3.8
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「胃腸」				○		○		85	65	93.5	4.3
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「果たす」				○		○		80	60	93.2	4.3
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「面積」				○		○		80	60	77.6	6.6
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「首輪」				○		○		80	60	55.5	9.6
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「喜ぶ」				○		○		80	60	81.6	7.6
5	三①	ことわざの意味を理解する「さるも木から落ちる」				○	○			85	65	89.3	5.6
5	三②	ことわざの意味を理解する「かわいい子には旅をさせよ」				○	○			85	65	79.9	6.1
5	四①	接続語を使って一文を二文にする				○		○		80	60	64.3	9.6
5	四②	接続語を使って二文を一文にする				○		○		80	60	68.0	11.9
5	五	指示語の役割を理解する				○	○			85	65	64.7	11.5

- 「十分達成」の基準を上回っている主な設問は、次のとおり。
- ・ 「言語についての知識・理解・技能」一文脈に即して漢字を正しく読む設問「芽」、「胃腸」、「果たす」(問5一(1)～(3))
 - ・ 「」一文脈に即して漢字を正しく書く設問「喜ぶ」(問5二(3))
 - ・ 「」ことわざの意味を選択する設問「さるも木から落ちる」(問5三①)
- ▲ 「おおむね達成」の基準を下回っている主な設問は、次のとおり。
- ・ 「話す・聞く」司会の役割を理解し、話し合いの進め方を問う設問(問1三②)
 - ・ 「書く」段落相互の関係に注意して文章を構成する設問(問2二)
 - ・ 「」一文と文との意味のつながりを考え、接続語を使って書く設問(問2三)
 - ・ 「」一目的に応じ、適切な表現に書き直す設問(問2四)
 - ・ 「」一自分の考えを理由や事例を挙げて書く設問(問2五)
 - ・ 「読む」一叙述を基に登場人物の心情を捉える設問(問3一)
 - ・ 「」一各場面の様子に気を付けながら場面と場面を関係付けて読む設問(問3二)

[表4] 小学6年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

問題番号	出題の趣旨	評価の観点				問題形式			「活用」に関する問題			
		話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	78.4 十分達成	58.4 おおむね達成	正答率	無解答率
A1	(1) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む「標識」			○		○			85	65	93.2	0.5
A1	(2) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む「街灯」			○		○			85	65	88.6	1.0
A1	(3) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む「勢いよく」			○		○			85	65	79.2	0.6
A1	(1) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く「皿」				○		○		85	65	98.4	0.2
A1	(2) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く「祝う」				○		○		85	65	66.9	2.2
A1	(3) 学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく書く「予防する」				○		○		85	65	81.3	2.4
A2	一 故事成語の意味と使い方を理解する「五十歩百歩」				○	○			80	60	53.9	0.1
A2	二 故事成語の意味と使い方を理解する「百聞は一見にしかず」				○	○			80	60	54.8	0.1
A3	情景描写の効果を捉える		○		○	○			80	60	53.9	0.1
A4	新聞の投書を読み、表現の仕方を捉える			○		○			80	60	68.7	0.2
A5	物語の登場人物の相互関係を捉える			○		○			80	60	64.5	0.3
A6	一 複数の事柄を並列の関係で書く（～たり、～たりという表現に直して書く）		○		○	○			85	65	86.0	2.5
A6	二 仮定の表現として、適切なものを捉える		○		○	○			80	60	83.1	0.9
A7	話合いの観点に基づいて情報を関係付ける	○				○			80	60	71.5	1.2
A8	国語辞典を使って、言葉の意味と使い方を理解する				○	○			80	60	73.6	1.4
B1	一 目的に応じて、話合いの観点を整理する（発言内容をまとめて書く）	○				○	○		70	50	54.6	5.2
B1	二 質問の意図を捉える（質問の狙いとして適切なものを選択する）	○				○		○	75	55	58.5	2.1
B1	三 立場を明確にして、質問や意見を述べる	○	○				○	○	70	50	31.8	4.7
B2	一 付箋に書かれた内容を関係付けながら、最初にもった疑問を捉える			○		○		○	70	50	43.9	5.1
B2	二 分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く		○	○			○	○	65	45	26.0	5.6
B2	三 課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む			○		○		○	80	60	63.0	3.8
B3	(1) 二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える			○	○	○			80	60	77.3	3.8
B3	(2) 二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える			○	○	○			75	55	58.2	5.0
B3	二 詩の解釈における着眼点の違いを捉える			○		○			75	55	49.2	15.9
B3	三 二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く		○	○			○	○	65	45	31.0	22.7

- 「十分達成」の基準を上回っている主な設問は、次のとおり。
- ・ 「言語についての知識・理解・技能」－学年別漢字配当表に示されている漢字を正しく読む設問「標識」、「街灯」、「勢いよく」、「皿」（問A 1－(1)～(4)）
 - ・ 「書く」－複数の事柄を並列の関係で書く設問（～たり、～たりという表現に直して書く）（A問6一）
 - ・ 「」－仮定の表現として、適切なものを捉える設問（問A 6二）
- ▲ 「おおむね達成」の基準を下回っている主な設問は、次のとおり。
- ・ 「言語についての知識・理解・技能」－故事成語の意味と使い方を問う設問「五十歩百歩」、「百聞は一見にしかず」（問A 2一、二）
 - ・ 「」－情景描写の効果を捉える設問（問A 3）
 - ・ 「書く」－立場を明確にして、質問や意見を述べる設問（問B 1三）
 - ・ 「読む」－付箋に書かれた内容を関係付けながら、最初にもった疑問を捉える設問（問B 2一）
 - ・ 「書く」、「読む」－分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く設問（問B 2二）
 - ・ 「読む」－詩の解釈における着眼点の違いを捉える設問（問B 3二）
 - ・ 「書く」、「読む」－二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く設問（問B 3三）

[表5] 中学1年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

問題番号	出題の趣旨	評価の観点			問題形式			「活用」に関する問題				
		話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	80.0 十分達成	60.0 おおむね達成	正答率	無解答率
1	一	目的や意図に応じて、事柄が明確に伝わるように話の内容を工夫する	○			○			80	60	78.2	0.1
1	二	目的や意図に応じた適切な話し方で話す	○			○			85	65	77.7	0.2
1	三	目的に応じて、情報を収集し関係付ける	○			○			80	60	56.8	0.4
1	四	話し手の意図を捉えながら聞く	○			○			80	60	39.8	0.4
1	五	目的や意図に応じ、事柄が明確に伝わるように話す	○				○	○	70	50	42	3.4
2	一	書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する		○		○			85	65	85.7	0.2
2	二	目的や意図に応じ、自分の考えが伝わるように書く		○		○			85	65	81.2	0.2
2	三	文章をよりよい表現に書き直す		○		○			80	60	86	0.2
2	四	自分の考えを明確に伝えるための資料を用いる		○		○			80	60	87	0.4
2	五	目的や意図に応じ、事実と感想、意見を区別して書く		○			○	○	65	45	43.5	4.7
3	一	人物の相互関係について捉える			○		○		80	60	49.6	2.8
3	二	場面についての描写を捉える（比喩表現の工夫）			○		○		80	60	47.8	8.4
3	三	叙述を基に登場人物の心情を捉える			○		○		75	55	77.1	1.4
4	一	事実と感想、意見などとの関係を押さえ、文章全体の構成を読み取る			○		○		75	55	74.1	1.7
4	二	文章の要旨を捉え、条件に応じて自分の考えをまとめる			○			○	70	50	37.7	4.5
5	一1	文脈に即して漢字を正しく読む「率いる」				○	○		85	65	95.6	2.4
5	一2	文脈に即して漢字を正しく読む「築く」				○	○		80	60	87.3	2.6
5	一3	文脈に即して漢字を正しく読む「栄える」				○	○		80	60	81	4.5
5	一4	文脈に即して漢字を正しく読む「混雑」				○	○		85	65	94.5	1.9
5	一5	文脈に即して漢字を正しく読む「眼鏡」				○	○		85	65	89.2	1.8
5	二1	文脈に即して漢字を正しく書く「祝う」				○	○		85	65	59.5	11.5
5	二2	文脈に即して漢字を正しく書く「危ない」				○	○		80	60	82.4	7.3
5	二3	文脈に即して漢字を正しく書く「難しい」				○	○		80	60	76.2	5.9
5	二4	文脈に即して漢字を正しく書く「貿易」				○	○		80	60	67.8	10.2
5	二5	文脈に即して漢字を正しく書く「延期」				○	○		80	60	54.3	16.9
5	三1	文や文章を書く際に同訓異義語「はかる」のもつ意味を考えながら正しく使う「測る」				○	○		80	60	57.8	2.9
5	三2	文や文章を書く際に同訓異義語「はかる」のもつ意味を考えながら正しく使う「計る」				○	○		80	60	65.6	3.0
5	四	相手や場面に応じ、適切に敬語を使う				○	○		85	65	74.8	3.2
5	五	熟語の構成について理解する				○	○		80	60	70.3	3.7
5	六	古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る				○	○		85	65	82.4	4.0

- 「十分達成」の基準を上回っている主な設問は、次のとおり。
- ・ 「書く」－書く事柄を収集し、全体を見通して事柄を整理する設問（問2一）
 - ・ 〃 －文章をよりよい表現に書き直す設問（問2三）
 - ・ 〃 －自分の考えを明確に伝えるための資料を用いる設問（問2四）
 - ・ 「言語についての知識・理解・技能」－文脈に即して漢字を正しく読む設問「率いる」、「築く」、「栄える」、「混雑」、「眼鏡」（問5一1～5）
 - ・ 〃 －文脈に即して正しく漢字を書く設問「危ない」（問5二2）
- ▲ 「おおむね達成」の基準を下回っている主な設問は、次のとおり。
- ・ 「話す・聞く」－目的に応じて、情報を収集し関連付ける設問（問1三）
 - ・ 〃 －話し手の意図を捉えながら聞く設問（問1四）
 - ・ 〃 －目的や意図に応じ、事柄が明確に伝わるように話す設問（問1五）
 - ・ 「書く」－目的や意図に応じ、自分の考えが伝わるように書く設問（問2四）
 - ・ 「読む」－人物の相互関係について捉える設問（問3一）
 - ・ 〃 －場面についての描写を捉える設問（比喩表現の工夫）（問3二）
 - ・ 「言語についての知識・理解・技能」－文や文章を書く際に同訓異義語「はかる」のもつ意味を考えながら正しく使う設問「測る」（問5三1）

[表6] 中学2年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

問題番号	出題の趣旨	評価の観点				問題形式			「活用」に関する問題				
		話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	69.5 十分達成	49.5 おおむね達成	正答率	無解答率	
1	一	話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす	○				○			75	55	61.1	0.2
1	二	全体と部分との関係に注意して、話を構成して話す	○					○	○	60	40	28.6	21.6
1	三	相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話す	○					○		75	55	81.8	3.0
2	一	相手や場に応じた話し方の知識を生かして話す	○				○			70	50	95.3	0.4
2	二	話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをまとめる	○					○	○	65	45	41.3	11.3
3	一	図表などを読み取り、説明を書く		○				○		70	50	43.3	14.5
3	二	目的や意図に応じて事柄を的確に書く		○				○		60	40	37.7	24.7
3	三	書いた文章を読み返し、語句の用法を確かめて書く		○				○		70	50	45.6	20.8
4	一	伝えたい事実や事柄について、自分の気持ちや考えを明確にして書く 比喩などの表現の技法を理解している		○		○		○	○	65	45	30.2	18.6
4	二	文章を読み返し、表記や叙述の仕方に留意して、読みやすく分かりやすい文章にする		○				○		70	50	19.3	16.2
5	一	文章の事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要約する			○			○	○	65	45	63.9	12.8
5	二	文章の中心的な部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分け、目的や必要に応じて要旨を捉える			○			○		65	45	49.5	12.0
6	一	場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、内容を理解する			○			○		70	50	56.3	16.5
6	二	文脈の中における語句の意味を的確に捉え、理解する			○			○		75	55	67.2	4.9
6	三	比喩などの表現の技法を理解している			○	○		○		75	55	33.2	6.1
6	四	文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広くする			○			○	○	60	40	37.2	34.6
7	一1	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「幕府」他教科との関連(社会)				○		○		75	55	97.4	1.3
7	一2	文脈に即して漢字を正しく読む(訓読みの漢字)「染まる」				○		○		70	50	98.2	1.2
7	一3	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「縮尺」				○		○		75	55	80.7	3.0
7	一4	文脈に即して漢字を正しく読む(音読みの熟語)「危機」同音の繰り返しによる読みの漢字				○		○		75	55	96.8	1.3
7	一5	文脈に即して漢字を正しく読む(熟字訓「芝生」)				○		○		70	50	92.8	3.5
7	二1	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「裁判」				○		○		70	50	49.4	21.7
7	二2	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「納める」				○		○		70	50	49.5	17.8
7	二3	文脈に即して漢字を正しく書く(同訓異字の書き分け)「着く」				○		○		70	50	74.1	19.0
7	二4	文脈に即して漢字を正しく書く(訓読みの漢字)「専門」				○		○		70	50	47.0	14.5
7	二5	文脈に即して漢字を正しく書く(音読みの熟語)「展示」				○		○		70	50	55.9	17.1
7	三	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(故事成語)				○		○	○	65	45	40.3	25.9
7	四1	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(文節の働き)				○	○			70	50	40.1	4.8
7	四2	文脈の中で語句や語彙を正しく使う(文節の区切り方)				○	○			70	50	82.2	4.0
7	五	字形を整え、配列などを理解して楷書で書く				○		○		70	50	88.1	8.2
7	六1	歴史的仮名遣いについて理解している				○		○		75	55	65.2	11.9
7	六2	古典の作品名について理解している				○		○		70	50	84.3	8.5

- 「十分達成」の基準を上回っている主な設問は、次のとおり。
- ・ 「話す・聞く」－相手や場に応じた言葉遣いなどについての知識を生かして話す設問(問1三)
 - ・ 「話す・聞く」－相手や場に応じた話し方の知識を生かして話す設問(問2一)
 - ・ 「言語についての知識・理解・技能」－文脈に即して漢字を正しく読む設問「幕府」、「染まる」、「縮尺」、「危機」、「芝生」(問7一1～5)
 - ・ 「話す・聞く」－文脈に即して正しく漢字を書く設問「着く」(問7二3)
- ▲ 「おおむね達成」の基準を下回っている主な設問は、次のとおり。
- ・ 「話す・聞く」－全体と部分との関係に注意して、話を構成して話す設問(問1二)
 - ・ 「話す・聞く」－話し合いの話題や方向を捉えて自分の考えをまとめる設問(問2二)
 - ・ 「書く」－図表などを読み取り、説明を書く設問(問3一)
 - ・ 「書く」－目的や意図に応じて事柄を的確に書く設問(問3二)
 - ・ 「書く」－文章を読み返し、表記や叙述の仕方に留意して、読みやすく分かりやすい文章にする設問(問4二)
 - ・ 「読む」－文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分のものの見方や考え方を広くする設問(問6四)

[表7] 中学3年生 国語 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

問題番号	出題の趣旨	評価の観点				問題形式			「活用」に関する問題					
		話す・聞く能力	書く能力	読む能力	言語についての知識・理解・技能	選択式	短答式	記述式	69.9 十分達成	49.9 おおむね達成	正答率	無解答率		
A1	一	目的に応じて、資料を効果的に活用して話す	○				○				75	55	78.6	0.1
A1	二	必要に応じて質問し、足りない情報を聞き出す	○				○				70	50	78.2	0.1
A2	一	心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書き加える		○			○				70	50	89.8	0.2
A2	二	語句や文の使い方に注意して、伝えたい心情にふさわしい言葉に書き換える		○				○			65	45	51.6	11.0
A3	一	登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する			○		○				70	50	90.5	0.2
A3	二	文脈の中における語句の意味を理解する			○		○				75	55	75.8	0.2
A3	三	登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する			○		○				70	50	76.4	0.3
A4	一	集めた材料を分類するなどして整理する		○			○				75	55	93.1	0.4
A4	二	叙述の仕方などを確かめて、適切に書き換える		○				○			70	50	80.4	3.8
A5	一	抽象的な概念を表す語句が示すものについて理解する			○		○				75	55	75.5	0.5
A5	二	文章全体と部分との関係を考え、内容を理解する			○		○				70	50	84.0	0.4
A6	一	目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する	○					○			65	45	38.9	7.7
A6	二	話し合いの方向を捉えて司会の役割を果たす	○					○			70	50	73.9	0.9
A7	一	多様な方法で材料を集めながら考えをまとめる		○			○				75	55	83.9	0.6
A7	二	書いた文章について意見を交流し、文章を書き直す		○			○				70	50	70.5	1.0
A8	一1	文脈に即して漢字を正しく書く「招待する」				○		○			75	55	52.7	13.1
A8	一2	文脈に即して漢字を正しく書く「半径」					○	○			75	55	61.6	2.7
A8	一3	文脈に即して漢字を正しく書く「移す」					○	○			70	50	72.9	10.9
A8	二1	文脈に即して漢字を正しく読む「稚魚」					○	○			70	50	80.1	6.8
A8	二2	文脈に即して漢字を正しく読む「音響」						○	○		75	55	91.1	3.1
A8	二3	文脈に即して漢字を正しく読む「挑む」					○	○			70	50	95.4	0.9
A8	三ア	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う「急がば回れ」					○	○			70	50	59.3	0.9
A8	三イ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う「とりあえず～」						○	○		70	50	96.0	0.6
A8	三ウ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う「～を継承する」						○	○		70	50	83.7	0.7
A8	三エ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う「笑う門には～」						○	○		70	50	89.5	0.6
A8	三オ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う「ご案内します」						○	○		70	50	93.7	0.6
A8	三カ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う「単刀直入」						○	○		70	50	83.4	0.8
A8	三キ	語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使う「羽を伸ばす」						○	○		75	55	91.8	0.9
A8	四	辞書を活用して、語句の意味を適切に書く「英気を養う」					○		○		70	50	37.4	13.1
A8	五1	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読む「まうけて→もうけて」					○		○		75	55	78.8	6.9
A8	五2	古典と昔話とを対応させて内容を捉える					○		○		70	50	70.0	9.3
A8	六	文字の大きさ、配列などに注意して書く					○	○			75	55	79.9	1.2
B1	一	表現の技法について理解する					○	○		○	75	55	65.4	0.2
B1	二	文章に表されているものの見方について、自分の考えをもつ			○		○			○	70	50	55.6	0.3
B1	三	文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く（標語から伝わってくるメッセージ、表現の工夫とその効果を書く）		○	○	○			○	○	55	35	27.5	9.3
B2	一	複数の資料を比較して読み、要旨を捉える			○		○			○	65	45	31.7	0.7
B2	二	複数の資料から必要な情報を読み取る			○		○			○	65	45	56.4	0.7
B2	三	資料から適切な情報を得て、伝えたい事実や事柄が明確に伝わるように書く		○	○				○	○	55	35	33.0	16.2
B3	一	本や文章から、目的に応じて必要な情報を読み取る			○		○			○	70	50	49.3	0.9
B3	二	落語に登場する人物の言動の意味を考え、その姿を想像する			○	○	○			○	65	45	64.4	0.9
B3	三	落語に表されているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書く		○	○	○				○	60	40	27.3	20.6

○ 「十分達成」の基準を上回っている主な設問は、次のとおり。

- ・ 「話す・聞く」－目的に応じて、資料を効果的に活用して話す設問（問A1一）
- ・ 「書く」－心情が相手に効果的に伝わるように、描写を工夫して書き加える設問（問A2一）
- ・ 「読む」－登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する設問（問A3一）

▲ 「おおむね達成」の基準を下回っている主な設問は、次のとおり。

- ・ 「話す・聞く」－目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する設問（問A6一）
- ・ 「書く」、「読む」、「言語についての知識・理解・技能」
 - －文章の構成や表現の仕方などについて、根拠を明確にして自分の考えを書く設問（標語から伝わってくるメッセージ、表現の工夫とその効果を書く）（問B1三）
 - －落語に表されているものの見方や考え方について、根拠を明確にして自分の考えを書く設問（問3三）

(4) 成果と課題

① 小学5年

話すこと・聞くこと

○ 話し合いの場面において、場に応じた適切な言葉遣いで話したり、進行に沿って話し合ったりする設問は「おおむね達成」の基準を上回っている。

● 「出された意見をまとめる」という司会の役割について問う設問では、「おおむね達成」の基準を下回っている。

書くこと

○ 「見出しをつける」など伝えたい事柄を分かりやすく書く設問では、「おおむね達成」の基準を上回っている。

● 目的に応じて適切な表現に書き直したり、理由や事例を挙げて自分の考えを書いたりする設問では「おおむね達成」の基準を下回っていた。

● 調べたことを基に、複数の条件に合わせて自分の考えを書く設問では、「おおむね達成」の基準を18.4ポイント下回っていた。

読むこと

○ 説明的な文章においては、全ての設問において「おおむね達成」の基準を上回っている。

○ 説明的な文章において、段落相互の関係を読み取る設問で「おおむね達成」の基準を10.1ポイント上回っている。

● 文学的な文章において、叙述を基に登場人物の心情を捉える設問で「おおむね達成」の基準を8.6ポイント下回っている。

言語についての知識・理解・技能

○ 漢字の読み・書きに関する設問では、全ての設問で「おおむね達成」の基準を上回っており、中でも漢字の読みに関する設問では、全て「十分達成」の基準を上回っている。

○ 指示語の役割について問う設問では「おおむね達成」の基準を下回っているものの、ことわざの意味、接続語の使い方を問う設問では、「おおむね達成」の基準を上回っている。

② 小学6年

話すこと・聞くこと

○ 話し合いの観点に基づいて情報を関連付ける設問については、おおむね達成である。

● 立場を明確にして、質問や意見を述べる設問では、31.8%であった。ここでも条件に合わせて意見を述べる力が求められている。引用して書くことや立場と内容を合わせて書くことに課題があるのではないかと考えられる。

書くこと

○ 複数の事柄を並列の関係で書く（～たり、・・・たり）という表現に直して書くことは十分で達成である。正答率は、86.0%

● 情景描写の効果を捉える設問では、正答率が53.9%。心情を情景描写として表していることをとらえることができなかつたと考えられる。

● 分かったことや疑問に思ったことを整理し、それらを関係付けながらまとめて書く設問の正答率は、26.0%と一番低かつた。条件に合わせて文章を書く力が十分でないことが考えられる。複数の条件に合わせながら考えをまとめて書くことに課題がある。

読むこと

○ 二つの詩を比べて読み、表現の工夫を捉える設問では、正答率が77.3%であった。

○ 課題を解決するために、目次や索引を活用して、本を効果的に読む設問では、正答率が63.0%であった。完全正答であったのでやや正答率が下がったと思われる。

● 二つの詩を比べて読み、自分の考えを書く設問の正答率が31.0%であった。これも、条件に合わせて自分の考えを書くことに課題があると考えられる。

言語についての知識・理解・技能

○ 漢字の読み、書きに関する設問では、どれも十分達成・おおむね達成である。よくできていた。

○ 国語辞典を使って、言葉の意味を理解する設問に関しては、おおむね達成である。

● ことわざの意味を理解する設問では、正答率はおよそ50%程度。使い方としてふさわしいものを選ぶという設問であったため、正答率が下がったのではないかとと思われる。

③ 中学1年

話すこと・聞くこと

- 漢字の読み、書きに関する設問では、どれも十分達成・おおむね達成である。よくできていた。
- 国語辞典を使って、言葉の意味を理解する設問に関しては、おおむね達成である。
- ことわざの意味を理解する設問では、正答率はおよそ50%程度。使い方としてふさわしいものを選ぶという設問であったため、正答率が下がったのではないと思われる。

書くこと

- 書く事柄を収集し、全体を見通して整理したり、文章を推敲したり、自分の考えを明確に伝えるための資料を用いたりする設問では、「十分達成」の基準を上回っている。
- 資料を用い、複数の条件に合わせて、自分の考えをまとめて書く設問では、「おおむね達成」の基準を下回っている。

読むこと

- 叙述を基に、登場人物の心情を捉える設問では、「十分達成」の基準を上回っている。
- 文章の要旨を捉え、条件に合わせて自分の考えをまとめる設問では、「おおむね達成」の基準を12.3ポイント下回っている。
- 人物の相互関係を捉えたり、場面の描写を捉えたりする設問では、共に「おおむね達成」の基準を下回っている。

言語についての知識・理解・技能

- 漢字の読みに関する設問では、全てにおいて「十分達成」の基準を上回っている。
- 敬語、熟語の構成、古典など言語に関する設問は、「おおむね達成」の基準を上回っている。

④ 中学2年

話すこと・聞くこと

- 相手や場に応じた話し方の知識に関する設問では、正答率95.3と「十分達成」の基準を25.3ポイント上回っている。
- 全体と部分との関係に注意して自分の考えをまとめる設問と話合いの話題や方向を捉えて自分の考えをまとめる設問では、どちらも「おおむね達成」の基準を下回っている。また、「条件」に合わせて書くという記述式であったためか、無解答率もそれぞれ21.6、11.3であった。

書くこと

- レポートの文章が長文であったため、図表と文章を組み合わせる読むことが難解であったのか、全ての設問において「おおむね達成」の基準を下回っている。
- 特に課題が顕著であったのは、文章全体の表記の仕方を把握した上で、読みやすく分かりやすい文章に書き換える設問であり、「おおむね達成」の基準を30.7ポイント下回っている。
- 「条件」に合わせて書く設問においては、どの設問においても無解答率が10.0を上回っており、課題が見られる。

読むこと

- 説明的文章において、文章に何が書かれているかを読み取り、目的や必要に応じて要約したり、要旨を捉えたりする問題は、「おおむね達成」の基準を上回っている。
- 文学的文章においても、書かれている内容を読み取ることは、「おおむね達成」の基準を上回っている。
- 文章に書かれたことを根拠として、自分の考えを「条件」に合わせて述べる設問では、「おおむね達成」の基準を下回っている。無解答率も34.6と他の設問と比べて最も高い結果である。

言語についての知識・理解・技能

- 「漢字の読み」に関しては、正答率93.2で「十分達成」の基準を20.2ポイント上回っている。
- 「漢字の書き」に関しては、正答率55.2と「おおむね達成」の基準を上回っているが、訓読みの漢字を書く設問では、正答率49.5と「おおむね達成」基準を下回っている。また、細かい部分に注意が必要な漢字や似たような形をもつ漢字に関する設問の正答率も「おおむね達成」の基準を下回っている。
- 語句に関する知識を、「条件」に合わせて表現する問題は、正答率が「おおむね達成」の基準を下回った。また、無解答率も25.9と伝統的な言語文化について問う設問の中で最も高かった。

⑤ 中学3年

話すこと・聞くこと

- おおむね良くできているが、1問だけ正答率が低い問題があった。
- 双方向の話をしているもの、司会の役割をはっきりさせることに関しては、できていた。
- 聞くことのみ話すことのみ問題はよくできているが「目的に沿って話し合い、互いの発言を検討する」問題になると、正答率が低かった。

書くこと

- A問題はよくできていたが、B問題は正答率が低かった。
- A問題のように書く能力のみを問う問題の正答率は高かったが、読むことと関連付けた問題になると、正答率が下がった。
- 読むことと関連させた問題については、読み取れなければ書けないため、無答率が上がる傾向がある。
- 目的が明らかになっているものについての書く設問では、「おおむね達成」の基準を満たしているが、目的を判断しながら選んだり、書いたりすると正答率が下がる。自分の考えを形成して書くことに課題がある。

読むこと

- A問題は良好であった。また、A問題の単純な読み取りはよくできている。
- 文章が伝統的な言語文化との関わりのある内容であったため、生徒自身が読み取る背景として基礎が作られていない傾向がある。
- B問題の2一「要旨を捉える」2二「必要な情報を読み取る」のような、読み取りに条件が加わった問題となると、正答率が下がった。
- 文章を評価する読み方には慣れていないのか、主体となつては読めるが、評価して読んだり、自分の考えと照らし合わせて読んだりする力が身につけていない。

言語についての知識・理解・技能

- 文脈に即して漢字を書いたり読んだりすることはできていた。
- 日常生活に密着して使う漢字に関しては、正答率が高かった。
- 語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことは、全体的によくできていた。適切な言葉を選んだり使い分けたりすることはできている。
- 辞書に書かれていることから語句の意味を適切にとらえることに課題がある。文脈を考えずに、それぞれの単語の意味を単純につなげているため、文脈に合う意味を選ぶことができなかった。無回答率も高いことから、書くことについての条件が多いため、条件に応じた書き方ができなかったのではないかとということがうかがえる。

(5) 改善のポイント

《授業改善に向けて》

昨年に引き続き、複数の資料を関連付けながら自分の考えを書くこと（記述形式の設問）に課題があった。読む力との関連を図った指導が必要となる。「読む」「書く」の力を単独ではなく複合的な操作を行いながら活用力に培いたい。

文章の内容について自分の考えをもったり、その考えを書き表したりする学習を仕組むことが必要であろう。また、交流場面を設定するだけでなく、交流の中での発言に対して、根拠をもって自分の発言をするなど更なる言語活動の充実が求められる。

《改善に向けた取り組みのポイント（校種ごと）》

小学校

- ・ グループ討論などで、司会や提案者など互いの立場や意図をはっきりさせながら、計画的に話し合う経験を増やしていくとともに、司会や提案者の役割について取り立てて指導する。
また、討論会だけではなく、立場を明確にして話す機会をいろいろな場面で取り入れていく。その際、書くことと関連させるためメモに書かせるようにする。書くことで思考を整理させる必要がある。
- ・ 学習活動の中では引用して話す、引用して書く機会はあるが、「引用すること」を意識していない。「引用する」という言葉を子どもたちにも学習用語として習得させておく。
- ・ 「話すこと・聞くこと」と「読むこと」との関連を図った指導を工夫する。
- ・ 目的や意図に応じて、事実や意見、感想を区別しながら書いたり、自分の考えを理由や事例を挙げて書いたりする活動を取り入れる。
- ・ 文学的な文章においては、登場人物の行動や会話に即しながら、性格や関係を考えながら読ませたり、場面の移り変わりに注意しながら読ませたりすることが必要である。また、授業の中で「同一作者の作品を読み比べる」「同一テーマの作品を比べて読む」などの言語活動を取り入れる。
- ・ 説明的な文章においては、中心となる事柄を読み取るために、「見出しをつける」「要点をまとめる」など文章を整理したり、事実と意見を区別して読ませたり、想像力を働かせて読ませたりすることが必要である。
- ・ 漢字の読み書きやことわざは、日々の基礎・基本の定着を図る取組を継続していく。

中学校

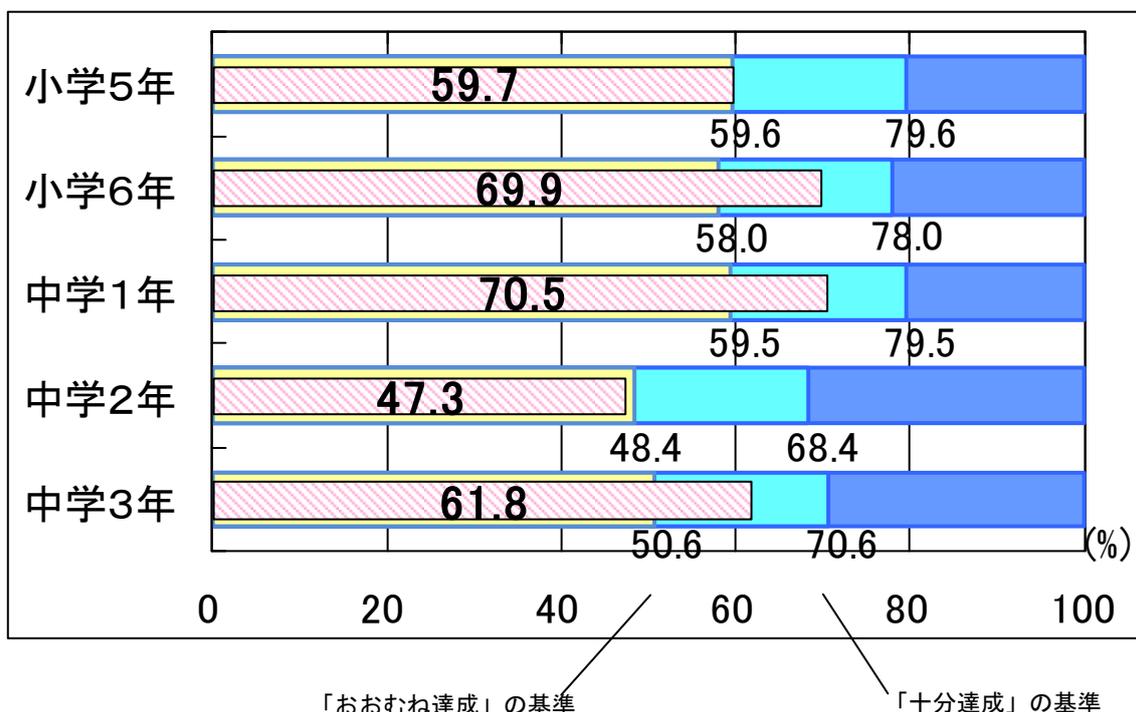
- ・ 理論学習に終わらず、「話す・聞く」に関する学習を行っていく中で、実際に話合いの方向を踏まえた上で自分の考えを述べるという学習活動を繰り返していく必要がある。また、話すこと・聞くことは相互評価をさせる、司会を評価させるなどが効果的である。グループの中で話合いをさせて、教科担任もメンバーも評価する。理論学習に終わらず、実際に体験させてみるのが大切である。
- ・ 「条件」に合わせて書くという学習活動を繰り返し設定する必要がある。また、読むことと関連付けて、作品を読んで、気になる言葉や場面などについて、根拠を明確にして自分の考えを書き、根拠の妥当性について意見を述べ合う学習活動を行うことも効果的である。
- ・ 書くだけではなく、書いた後、文章を読み返し、表記や叙述の仕方に留意して、読みやすく分かりやすい文章にする学習活動を入れていく必要がある。
- ・ 文章に書かれていることを読み取るだけにとどまらず、文章を評価して読んだり、自分の考えと照らし合わせて読んだりする学習活動が必要である。
- ・ 漢字に関しては、漢字のもつ意味と、話や文章の中で実際に使われている意味を踏まえながら学習していく必要がある。
- ・ 語句に関する学習は、知識としてのみでなく、短文を作らせるなど、文脈の中で適切に使う力を身に付ける学習活動を設定していく必要がある。

3 教科ごとの調査結果 ◎ 算数・数学（小学5年～中学3年）

(1) 全体的な傾向及び観点別の正答率

- 中学2年生を除き、「おおむね達成」の基準を上回っているが、小学5年生、小学6年生、中学1年生については、やや昨年度より正答率が低下している。[グラフ8、表9～13]
- 提示された条件を整理し、問題の解答方法を式や言葉で説明することなど、数学的な見方や考え方については、引き続き課題が見られた。中学校では、関数において表、式、グラフを関連付けて理解することに課題がある。また、小学校では、図を基に式を作ることに課題がある。[グラフ9、表9～13]
- 小中学校ともに、「数と計算」の四則演算の計算の設問は、正答率が高くなっている。ドリル学習等の成果がみられたものとする。[グラフ10、表9～13]
- 算数、数学に係る基礎的な知識など、基礎的・基本的な事項の定着はおおむね良好であった。[グラフ11、表9～13]
- 領域別にみると、小学校においては、それほど領域間の差はみられないが、中学校においては、比例・反比例の式やグラフなどの「関数」の領域で、昨年度に引き続き課題がみられる。[グラフ12～16、表9～13]

[グラフ8] H25・26小・中学校算数・数学 学年別全体正答率

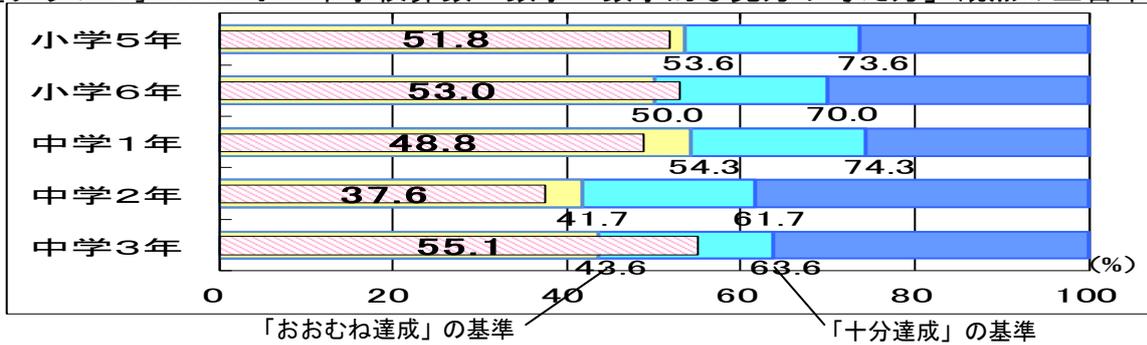


★ 全体的な傾向

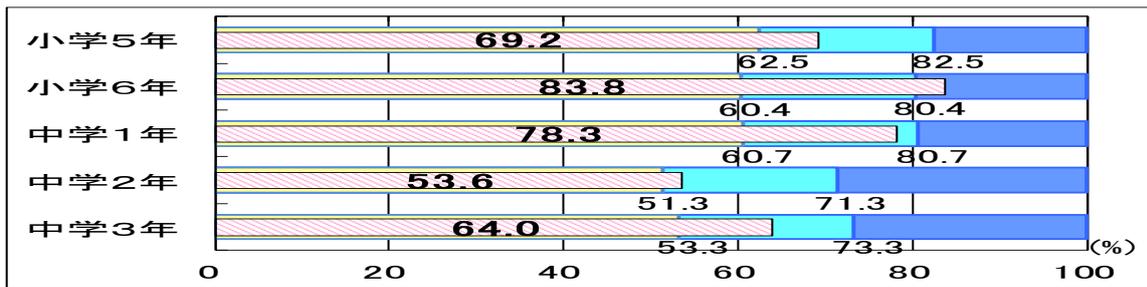
「数と計算」「数と式」の正答率が一番高くなっており、各学校における基礎的・基本的な事項の定着のための手立てが有効であったと考える。しかし、記述式の問題においては、数学的な表現を用いて理由を説明することに引き続き課題がみられた。

また、小学校では、無解答率が減少傾向にある。(事項以降資料参照)

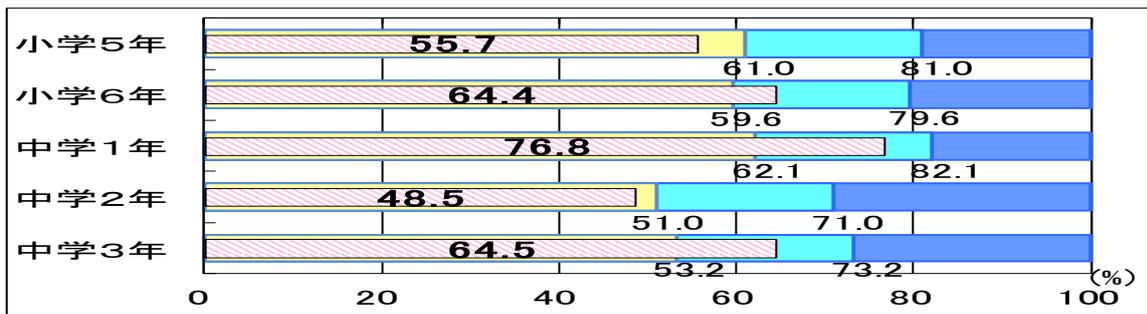
[グラフ9] H26 小・中学校算数・数学「数学的な見方や考え方」観点の正答率



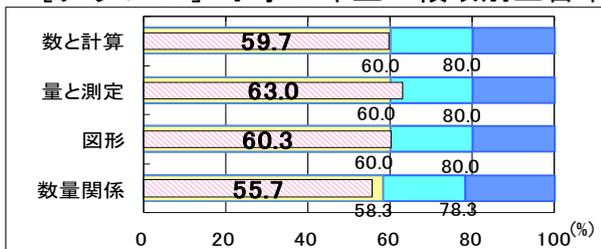
[グラフ10] H26 小・中学校算数・数学「数量や図形についての技能」観点の正答率



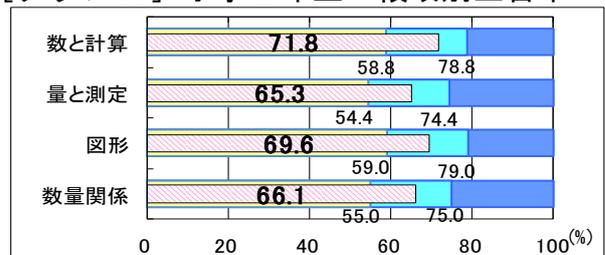
[グラフ11] H26 小・中学校算数・数学「数量や図形についての知識・理解」観点の正答率



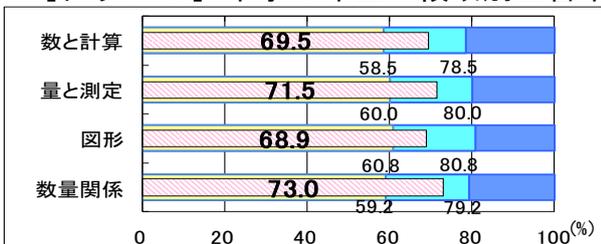
[グラフ12] 小学5年生 領域別正答率



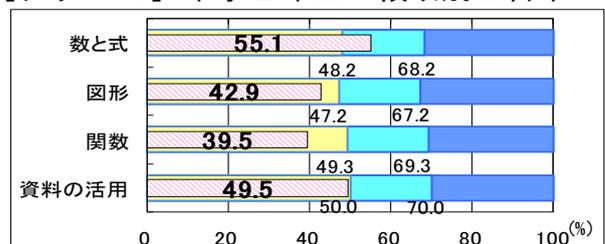
[グラフ13] 小学6年生 領域別正答率



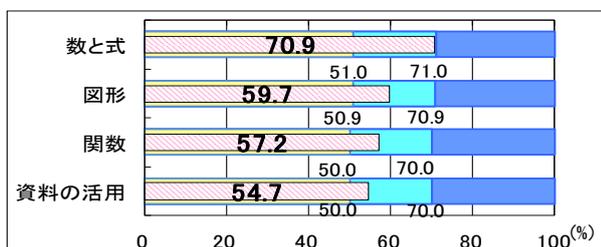
[グラフ14] 中学1年生 領域別正答率



[グラフ15] 中学2年生 領域別正答率



[グラフ16] 中学3年生 領域別正答率



(2) 地域別の正答率

- 県内5地域の算数・数学の平均正答率は[表8]のとおりで、依然として地域間の学力差がみられる状況にあり、5学年中3学年で、昨年度と比べて地域差が拡大している。
- 教科別平均正答率の「十分達成」に対する状況で、5地域とも「おおむね達成」の基準に到達しているのは、小学6年、中学1・3年である。[グラフ17]

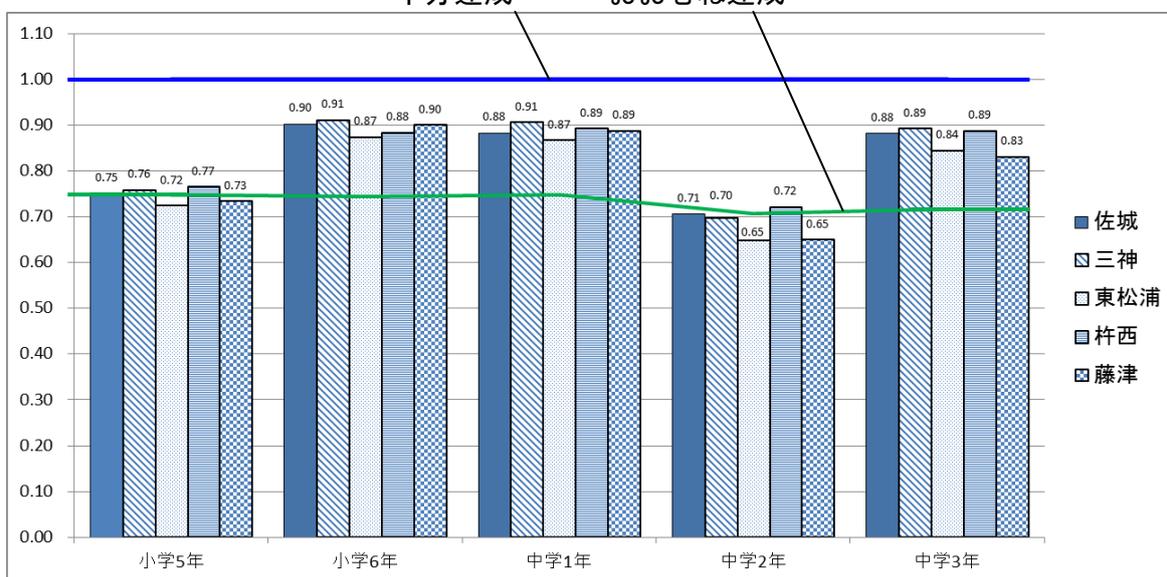
[表8] 県内5地域における学年別平均正答率（算数・数学）

※「地域差」は、地域別平均正答率の最大値と最小値の差を表す

学年・教科	実施年度	県平均正答率(%)	地域別平均正答率(%)					地域差	
			佐城	三神	東松浦	杵西	藤津		
小学5年	算数	H26	59.7	59.8	60.3	57.7	60.9	58.4	3.2
		H25	66.6	66.3	69.0	64.5	65.9	67.4	4.5
小学6年	算数	H26	69.9	70.4	71.0	68.1	68.9	70.2	2.9
		H25	70.2	69.3	71.4	69.0	71.2	70.6	2.4
中学1年	数学	H26	70.5	70.2	72.0	68.9	70.9	70.5	3.1
		H25	72.7	71.8	74.2	72.4	73.3	72.3	2.4
中学2年	数学	H26	47.3	48.3	47.6	44.3	49.3	44.4	5.0
		H25	53.8	54.5	54.4	51.7	54.4	52.2	2.8
中学3年	数学	H26	61.8	62.3	63.0	59.6	62.6	58.6	4.4
		H25	56.1	55.8	57.9	53.4	56.6	57.2	4.5

[グラフ17] 県内5地域における学年別平均正答率の「十分達成」に対する状況

※各学年における「十分達成」の正答率を1.00とする
十分達成 おおむね達成



※地域及び市町名

地域名	市町名
佐城	佐賀市、多久市、小城市
三神	鳥栖市、神埼市、吉野ヶ里町、基山町、みやき町、上峰町
東松浦	唐津市、玄海町
杵西	武雄市、伊万里市、白石町、大町町、江北町、有田町
藤津	鹿島市、嬉野市、太良町

(3) 設問ごとの正答率及び解答の状況

[表9] 小学5年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			活用に関する問題			
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	数学的な考え方	数量や図形について の知識・理解 の技能	数量や図形について の知識・理解 の技能	数量や図形について の知識・理解 の技能	選択式	短答式	記述式	十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率
1 (1)	1/100の位までの小数の加法の計算をすることができる	○				○			○			85	65	92.8	0.1	
1 (2)	除数が2位数で、被除数が3位数である除法の計算をすることができる	○				○			○			85	65	87.5	1.4	
1 (3)	乗数が2位数で、被乗数が1/100の位までの小数である乗法の計算をすることができる	○				○			○			80	60	57.5	0.9	
1 (4)	同分母の分数の減法の計算をすることができる	○				○			○			85	65	85.9	0.9	
2 (1)①	積という用語について理解している	○						○	○			85	65	34.9	12.6	
2 (1)②	概数、四捨五入、以上、未満の意味と用語について理解している	○						○	○			80	60	24.3	5.5	
2 (2)	億の単位について知り、十進位取り記数法について理解している	○						○	○			80	60	77.1	1.0	
3 (1)	長方形を組み合わせた図形の面積の求め方を考えることができる		○		○				○			75	55	60.3	2.0	
3 (2)	分度器を用いて角の大きさを求めることができる		○			○			○			85	65	83.4	0.2	
3 (3)①	m ² で表された面積をcm ² で表すことができる(※)		○			○			○			80	60	37.1	1.2	
3 (3)②	正方形の面積を求めることができる		○			○			○			85	65	54.0	1.7	
3 (3)③	gとkgの単位の関係について理解している		○					○	○			80	60	74.8	2.3	
4 (1)	対角線の意味と用語について理解している			○				○	○			80	60	29.8	9.4	
4 (2)	平行四辺形の性質について理解している			○				○	○			85	65	96.9	0.7	
4 (3)	分配法則について理解している				○			○	○			80	60	48.0	5.7	
5	四則の混合した式や()を用いた式について理解し、正しく計算することができる				○		○		○			75	55	79.4	1.9	
6 (1)	折れ線グラフの変化の様子を読み取ることができる				○		○		○			85	65	69.9	1.2	
6 (2)	折れ線グラフと表から変化の特徴を考えることができる				○	○			○			80	60	60.0	2.1	
7 (1)	展開図を組み立ててできる直方体の面と面の平行の関係を理解している			○				○	○			85	65	91.7	1.0	
7 (2)	展開図を組み立ててできる直方体の辺と辺の垂直の関係を理解している			○				○	○			75	55	34.7	1.6	
8	考えを説明している言葉を基に、与えられた長方形の面積を求める式を説明することができる		○		○				○	○		75	55	68.5	2.5	
9 (1)	図や表を基にして、伴って変わる二つの数量の関係を捉え、未知の数量を求めることができる				○		○		○			80	60	44.4	2.2	
9 (2)	図や表を基にして、伴って変わる二つの数量の関係を捉え、変わり方のきまりを説明することができる				○	○			○	○		70	50	32.4	4.4	
10	与えられた情報を基に、毎月の貯金額の合計が本の代金を上回るために必要な期間が、4か月間である理由を説明することができる	○				○			○	○		70	50	41.3	18.3	
11 (1)	ものの位置の表し方について理解している			○				○	○			80	60	44.6	6.2	
11 (2)	与えられた条件を基に、2つの交差点の間の道のりを考えることができる			○		○			○	○		75	55	63.9	7.6	
12	「中のたば」の一番下のカードの番号を求め、その求め方を説明することができる	○				○			○	○		70	50	36.5	21.3	

- 「十分達成」の基準を上回っている主な設問は、次のとおり。
- ・ 「数と計算」領域－整数や分数を用いての四則計算の設問（問1(1)～(3)）
 - ・ 「図形」領域－平行四辺形の性質を用いて辺の長さを求める設問（問4(2)）
 - ・ 「」－展開図を組み立てるとできる直方体の面と面の平行の関係を問う設問（問7(1)）
 - ・ 「数量関係」領域－四則の混合した式や()を用いた式のきまりについての理解を問う設問（問5）
- ▲ 「おおむね達成」の基準を下回っている設問は、次のとおり
- ・ 「数と計算」領域－積という用語についての理解を問う設問（問2(1)①）
 - ・ 「」－与えられた情報を基に筋道を立てて考え、考えたことを説明する設問（問10、12）
 - ・ 「量と測定」領域－1m²をcm²で表す設問（問3(3)①）
 - ・ 「」－1辺の長さを基に正方形の面積を求める設問（問3(3)②）
 - ・ 「図形」領域－対角線の意味と用語についての理解を問う設問（問4(1)）

[表 10] 小学6年生 算数 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式		「活用」に関する問題	78.0 十分達成	58.0 おおむね達成	正答率	無解答率
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	数学的な考え方	数量や図形についての知識・理解	数量や図形について	選択式	短答式	記述式					
A1	(1) 繰り上がりのある加法の計算をすることができる	○				○			○			85	65	97.0	0.0	
A1	(2) 被乗数に空位のある整数の乗法の計算をすることができる	○				○			○			85	65	92.6	0.1	
A1	(3) 小数第1位までの減法の計算をすることができる	○				○			○			85	65	82.2	0.2	
A1	(4) 商が小数になる除法の計算をすることができる	○				○			○			85	65	92.8	0.2	
A1	(5) 減法と乗法の混合した整数の計算をすることができる				○	○			○			85	65	80.5	0.2	
A1	(6) 異分母の分数の加法の計算をすることができる	○				○			○			85	65	92.6	0.4	
A2	(1) 割合が1より大きい場合、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解している	○							○	○		85	65	70.9	0.2	
A2	(2) 割合が1より小さい場合でも、比較量の求め方が(基準量)×(割合)になることを理解している	○							○	○		80	60	51.5	0.2	
A3	分数の相等及び大小について理解している	○							○	○		85	65	69.7	0.3	
A4	(1) 二つの数量の関係について、単位量当たりの大きさを調べる場合と図とを関連付けることができる		○						○	○		80	60	81.2	0.3	
A4	(2) 単位量当たりの大きさの求め方を理解している		○						○	○		80	60	61.2	1.5	
A5	(1) 円周の長さを、直径の長さをを用いて求めることができる			○		○			○	○		80	60	84.2	0.6	
A5	(2) 体積の単位(1cm ³)と測定について理解している		○						○	○		80	60	83.4	0.8	
A6	作図に用いられている図形の約束や性質を理解している			○					○	○		80	60	52.3	0.5	
A7	立体図形とその見取図の辺や面のつながりや位置関係について理解している			○					○	○		85	65	66.5	0.5	
A8	四則の混合した式の意味について理解している				○				○	○		80	60	79.8	0.7	
A9	二つの数量の関係を□、△などの記号を用いて式に表すことができる		○	○		○			○	○		80	60	80.6	0.8	
B1	(1) 示された場面から計算の結果の見通しをもち、(2位数)×(1位数)の筆算をすることができる	○						○	○		○	75	55	94.0	0.1	
B1	(2) 示された計算のきまりを基に、異なる数値の場合でも工夫して計算する方法を記述できる	○		○	○					○	○	70	50	64.9	3.1	
B2	(1) 示された場面から基準量と比較量を捉え、倍を求めることができる	○	○					○		○	○	75	55	84.3	1.8	
B2	(2) 最大値に着目して、棒グラフの棒を枠の中に表すことができない理由を記述できる		○	○	○					○	○	70	50	68.9	2.4	
B2	(3) 全体と部分の関係を示すために用いるグラフを選択することができる		○	○					○	○		70	50	60.9	0.7	
B3	(1) 示された情報を基に、条件に合う時間を求めることができる		○			○				○	○	70	50	35.4	2.1	
B3	(2) 10人分の量を基に40人分の量を相対的に捉え、その関係を表している図を選択することができる		○						○	○		75	55	52.5	1.2	
B3	(3) 示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、その理由を記述できる		○			○				○	○	70	50	47.4	2.2	
B4	(1) 繰り返されるリズムの規則性(周期)を見だし、それを基に小節数を求めることができる	○		○		○				○	○	75	55	60.2	1.3	
B4	(2) 二人のリズムが重なる部分を、公倍数に着目して記述できる	○				○				○	○	70	50	68.5	8.5	
B5	(1) 示された条件を基に、残った平面に4つの長方形を敷き詰めることができる			○				○		○	○	70	50	64.2	3.7	
B5	(2) 示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択することができる			○					○	○		75	55	42.5	3.5	
B5	(3) 示された情報を整理し、筋道を立てて考え、小数倍の長さの求め方を記述できる	○			○	○				○	○	70	50	32.9	11.0	

- 「十分達成」の基準を上回っている主な設問は、次のとおり。
- ・ 「数と計算」領域－四則演算の計算の設問（問A 1 (1)、(2)、(4)、(6)）
 - ・ 「数と計算」領域－2位数×1位数の計算の設問（問B 1 (1)）
 - ・ 「数と計算」「量と測定」領域－示された場面から基準量と比較量を捉え、何倍かを求める設問（問B 2 (1)）
- ▲ 「おおむね達成」の基準を下回っている主な設問は、次のとおり。
- ・ 「数と計算」領域－割合が1より小さい場合に比較量を求める設問（問A 2 (2)）
 - ・ 「図形」領域－作図に用いられている図形の約束や性質を理解しているかどうかをみる設問（問A 6）
 - ・ 「数と計算」「量と測定」領域－示された情報を基に、条件に合う時間を求める設問（問B 3 (1)）
 - ・ 「量と測定」領域－示された情報を基に必要な量と残りの量の大小を判断し、理由を記述する設問（問B 3 (3)）
 - ・ 「数と計算」領域－示された情報を解釈し、基準量の1.5倍の長さを表している図を選択する設問（問B 5 (2)）
 - ・ 「数と計算」領域－示された情報を整理し、筋道を立てて考え小数倍の長さの求め方を記述する設問（問B 5 (3)）

[表 11] 中学 1 年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域					評価の観点			問題形式			活用に関する問題			
		数と計算	量と測定	図形	数量関係	数学的な考え方	数量や図形についての知識・理解	数量や図形についての技能	数量や図形についての知識・理解	選択式	短答式	記述式	十分達成	おおむね達成	正答率	無解答率
1 (1)	被乗数、乗数が共に真分数の乗法の計算ができる	○					○		○			85	65	94.2	0.5	
1 (2)	被乗数が帯分数、乗数が真分数の乗法の計算ができる	○					○		○			85	65	91.2	0.9	
1 (3)	被除数、除数が共に真分数の除法の計算ができる	○					○		○			80	60	93.5	0.9	
1 (4)	小数及び分数を含んだ乗法、除法の混合計算ができる	○					○		○			80	60	80.0	2.0	
2 (1)	場面と数直線を関連付けて、二つの数量の関係を理解している	○						○	○			75	55	63.8	1.1	
2 (2)	数量の関係を適切に捉え、基準にする大きさを求める式を考えることができる	○				○			○			75	55	39.2	6.1	
3 (1)	逆数について理解している	○						○	○			85	65	46.2	20.4	
3 (2)	乗数が分数や小数である乗法において、被乗数と積の大きさの関係について考えることができる	○				○			○			80	60	67.6	0.6	
3 (3)	地図上の長さから実際の長さを求めることができる			○			○		○			75	55	29.6	3.6	
4 (1)	長さを求める公式を理解している		○					○	○			85	65	95.2	0.9	
4 (2)	円の面積を求めることができる		○					○	○			85	65	79.8	1.2	
4 (3)	メートル法の単位の仕組みについて理解している		○					○	○			85	65	72.8	1.2	
4 (4)	三角柱の体積を求めることができる		○					○	○			80	60	68.8	2.6	
5 (1)	点対称の意味について理解している			○				○	○			85	65	82.9	0.9	
5 (2)	点対称な図形における対応する辺の位置関係を理解している			○				○	○			80	60	92.5	0.5	
6 (1)	縮図の対応する辺の長さを求めることができる			○				○	○			85	65	85.7	0.8	
6 (2)	縮図の対応する角の大きさを求めることができる			○				○	○			85	65	93.0	1.2	
7	平均点が 90 点になるように 5 回目の点数を求め、その求め方を説明することができる		○			○			○	○		70	50	33.1	9.7	
8	与えられた情報を基に、走るコース 1 周の長さを考えることができる			○		○			○	○		75	55	29.7	6.2	
9 (1)	x や y を用いて、数量の関係を式に表すことができる				○			○	○			75	55	78.1	1.7	
9 (2)	当番の決め方について、何通りの場合があるかを求めることができる				○			○	○			80	60	75.2	1.3	
9 (3)	等しい比に表すことができる				○			○	○			85	65	94.9	1.4	
10 (1)	度数分布表における資料の分布の様子を理解している				○			○	○			80	60	84.1	1.6	
10 (2)	度数分布表から読み取ったことを基に、割合を百分率で表すことができる				○			○	○			75	55	53.1	4.5	
11	最小公倍数を使って、購入するものの代金を求め、その求め方を説明することができる	○				○			○	○		70	50	49.3	17.3	
12	伴って変わる二つの数量の関係について考えることができる				○	○			○			80	60	52.6	1.5	
13 (1)	単位量当たりの大きさを求めることができる		○					○	○			75	55	79.1	3.3	
13 (2)	与えられた情報から、代金が一番安くなる買い方を考えることができる	○				○			○	○		70	50	70.3	4.7	

○ 「十分達成」の基準を上回っている主な設問は、次のとおり。

- ・ 「数と計算」領域－分数の四則計算の設問（問 1 (1)～(4)）
- ・ 「量と測定」領域－長さを求める公式の理解を問う設問（問 4 (1)）
- ・ 「図形」領域－縮図の対応する辺の長さや角の大きさを求める設問（問 6 (1)）
- ・ 「数量関係」領域－ x や y を用いて数量の関係を式に表す設問（問 9 (1)）
- ・ // ー比を等しい比で表す設問（問 9 三）

▲ 「おおむね達成」の基準を下回っている主な設問は、次のとおり。

- ・ 「数と計算」領域－数量の関係を正しく捉え、基準にする大きさを求める式を考える設問（問 2 (2)）
- ・ 「量と測定」領域－縮小された地図上の長さから実際の長さを求める設問（問 3 (3)）
- ・ 「図形」領域－長方形と円を組み合わせた図形の周りの長さを求める設問（問 8）
- ・ 「量と測定」領域－与えられた情報を基に筋道を立てて考え、考えたことを説明する設問（問 7）
- ・ 「数と計算」領域－与えられた情報を基に筋道を立てて考え、考えたことを説明する設問（問 11）

[表 12] 中学 2 年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域						評価の観点		問題形式			活用に関する問題			
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	68.4	48.4	十分達成	おおむね達成	正答率
1	(1)	正の数・負の数の加減の計算をすることができる	○					○		○			75	55	94.2	0.4
1	(2)	指数を含んだ数の計算をすることができる	○					○		○			70	50	75.7	1.0
1	(3)	分配法則を用いた文字の式の計算をすることができる	○					○		○			70	50	57.8	5.8
2	(1)	絶対値について理解している	○						○	○			70	50	52.2	1.1
2	(2)	文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○					○		○			75	55	63.4	5.4
2	(3)①	一元一次方程式を解くことができる	○					○		○			70	50	62.9	6.9
2	(3)②	分数の一元一次方程式を解くことができる	○					○		○			70	50	38.7	16.3
3		具体的な事象の中の数量の関係を捉え、比例式をつくることができる	○				○			○	○		65	45	46.6	17.3
4		具体的な事象の中の数量の関係を捉え、その大小関係を読み取り、式に表すことができる	○				○			○			70	50	55.4	1.4
5		具体的な事象の中の数量の関係を捉え、方程式をつくることができる	○				○			○	○		60	40	21.9	12.4
6		事象と式の対応を的確に捉え、事柄が成り立つ理由を説明することができる	○				○				○	○	55	35	37.4	32.4
7	(1)	垂線の作図ができる		○				○		○			70	50	63.7	11.3
7	(2)	円の一部としての扇形について、同一円の扇形の面積がその中心角の大きさに比例することを理解している		○					○	○			70	50	20.5	24.7
7	(3)	錐体の体積を求めることができる		○				○		○			70	50	27.1	17.5
8	(1)	平行移動について理解している		○					○	○			70	50	74.1	2.4
8	(2)	平行移動、対称移動及び回転移動について理解し、二つの図形の位置関係を調べることができる		○			○			○			60	40	24.1	2.9
9	(1)	柱体の空間図形が平面図形の運動によって構成されていることを理解している		○				○	○				70	50	68.9	2.2
9	(2)	ねじれの位置にある二つの直線の位置関係について理解している		○					○	○			70	50	21.0	3.5
10		錐体、球などの空間図形を、直線や平面図形の運動によって構成されていると捉えることができる		○			○			○	○		65	45	48.9	8.8
11		基本的な作図の方法を用いて、 30° の角を作図する方法を説明することができる		○			○				○	○	60	40	37.4	25.7
12	(1)	比例の関係を表すグラフの特徴を理解している			○			○	○				75	55	57.3	4.3
12	(2)	与えられた式を基に、グラフ上にある点の座標を求めることができる			○		○			○			75	55	30.9	5.6
12	(3)	反比例の関係をグラフに表すことができる			○		○			○			70	50	51.8	10.8
12	(4)	比例のグラフ上にある点の座標を求めることができる			○		○			○			70	50	32.2	17.8
12	(5)	関数の意味を理解している			○			○	○				70	50	33.7	7.2
13	(1)	与えられた情報から、 x と y の関係を表に表すことができる			○		○			○			70	50	45.4	13.2
13	(2)	与えられた情報を基に、 x と y の関係が反比例であることを説明することができる			○		○				○	○	55	35	25.5	22.3
14	(1)	度数分布表について理解している				○		○		○			75	55	60.5	8.5
14	(2)	中央値について理解している				○		○	○				70	50	61.6	7.9
15		大きさの異なる二つ以上の資料の傾向を比較する方法を考えることができる				○	○			○			65	45	41.0	9.1
16		有効数字の表し方について理解している				○		○	○				70	50	35.0	8.8

- 「十分達成」の基準を上回っている主な設問は、次のとおり。
- ・ 「数と式」領域－正の数・負の数の加減の計算をする設問（問 1 (1)）
 - ・ 「数と式」領域－指数を含んだ数の計算をする設問（問 1 (2)）
 - ・ 「図形」領域－平行移動についての理解を問う設問（問 8 (1)）
- ▲ 「おおむね達成」の基準を下回っている主な設問は、次のとおり。
- ・ 「数と式」領域－分数の一元一次方程式を解く設問（問 2 (3)②）
 - ・ 「数と式」領域－具体的な事象の中の数量関係を捉え、方程式をつくる設問（問 5）
 - ・ 「図形」領域－円の一部としての扇形について、同一円の扇形の面積がその中心角の大きさに比例することを理解しているかを問う設問（問 7 (2)）
 - ・ 「図形」領域－ねじれの位置にある二つの直線の位置関係について理解しているかを問う設問（問 9 (2)）
 - ・ 「関数」領域－与えられた式を基に、グラフ上にある点の座標を求める設問（問 12 (2)）
 - ・ 「関数」領域－与えられた情報を基に、 x 、 y の関係が反比例であることを説明する設問（問 13 (2)）
 - ・ 「資料の活用」領域－大きさの異なる二つ以上の資料の傾向を比較する方法を考える設問（問 15）

[表 13] 中学3年生 数学 出題の趣旨、問題形式、正答率等一覧

問題番号	出題の趣旨	学習指導要領の領域				評価の観点		問題形式			「活用」に関する問題				
		数と式	図形	関数	資料の活用	数学的な見方や考え方	数学的な技能	数量や図形などについての知識・理解	選択式	短答式	記述式	70.6 十分達成	50.6 おおむね達成	正答率	無解答率
A1 (1)	分数の除法の計算ができる	○				○			○			75	55	83.8	3.4
A1 (2)	指数を含む正の数と負と数の計算ができる	○				○			○			70	50	68.5	1.5
A1 (3)	絶対値の意味を理解している	○							○			75	55	78.6	7.2
A1 (4)	正の数と負の数の意味を、実生活の場面に結び付けて理解している	○							○			75	55	90.7	2.4
A2 (1)	数量の大小関係を不等式に表すことができる	○				○			○			75	55	35.6	11.4
A2 (2)	単項式どうしの除法の計算ができる	○				○			○			75	55	90.1	2.2
A2 (3)	指数を含む文字式に数を代入して式の値を求めることができる	○				○			○			75	55	77.3	7.3
A2 (4)	数量を文字式で表すことができる	○				○			○			70	50	89.5	0.4
A3 (1)	等式の性質と移項の関係を理解している	○						○	○			75	55	88.1	0.7
A3 (2)	分数を含む一元一次方程式を解くことができる	○				○			○			70	50	54.4	14.5
A3 (3)	着目する必要がある数量を見だし、その数量に着目し、連立二元一次方程式をつくることができる	○						○				70	50	76.3	2.1
A3 (4)	簡単な連立二元一次方程式を解くことができる	○				○			○			70	50	62.8	11.1
A4 (1)	対称軸が与えられたときに、線対称な図形を完成することができる	○	○			○			○			75	55	91.7	2.9
A4 (2)	線分の垂直二等分線の作図の方法について理解している	○	○					○	○			70	50	52.4	0.8
A4 (3)	図形の回転移動について、移動前と移動後の2つの図形の辺や角の対応を読み取ることができる	○						○				75	55	37.3	0.6
A5 (1)	空間における直線と平面の平行について理解している	○						○	○			75	55	75.8	4.8
A5 (2)	平面図形をその面と垂直な方向に平行に移動させたときの、空間図形の構成について理解している	○						○	○			75	55	82.4	0.5
A5 (3)	円錐の展開図において、おうぎ形の半径が円錐の母線に対応していることを読み取ることができる	○						○				75	55	63.3	8.2
A5 (4)	底面が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係について理解している	○						○	○			75	55	34.0	0.8
A6 (1)	記号で表された図形の構成要素間の関係を読み取ることができる	○						○	○			75	55	57.5	0.6
A6 (2)	三角形の外角とそれと隣り合わない2つの内角の和の関係を理解している	○						○	○			70	50	71.0	1.0
A6 (3)	n角形の内角の和を求める式 $180^\circ \times (n-2)$ における $(n-2)$ の意味を理解している	○						○	○			70	50	44.4	1.1
A7	証明を読み、根拠として用いられている三角形の合同条件を理解している	○						○	○			75	55	67.5	1.1
A8	証明のための構想や方針の必要性と意味を理解している	○						○	○			75	55	65.8	8.7
A9	関数の意味を理解している		○						○			75	55	36.9	19.4
A10 (1)	比例の関係を式に表すことができる		○					○	○			75	55	52.2	14.2
A10 (2)	反比例の意味を理解している		○						○			75	55	72.6	1.4
A10 (3)	与えられた式を基に、事象における2つの数量の関係が比例であることを判断することができる		○						○			70	50	55.2	1.9
A10 (4)	反比例について、グラフと表を関連付けて理解している		○						○			70	50	43.1	2.1
A11 (1)	一次関数の変化の割合の意味を理解している		○						○			75	55	43.6	2.1
A11 (2)	一次関数 $y=ax+b$ について、aとbの値とグラフの特徴を関連付けて理解して		○						○			75	55	73.7	1.8
A12	連立二元一次方程式の解が、2直線の交点の座標として求められることを理解している		○						○			75	55	62.5	2.9
A13 (1)	度数分布表から相対度数を求めることができる			○				○				70	50	34.9	18.4
A13 (2)	ヒストグラムにおいて、中央値の意味を理解している			○					○			70	50	47.8	2.3
A14 (1)	確率の意味を理解している			○					○			75	55	72.1	2.6
A14 (2)	樹形図などを利用して、確率を求めることができる			○					○			75	55	61.6	12.1
B1 (1)	与えられた図から情報を適切に選択し、空間における図形の位置関係を的確に捉えることができる		○					○				70	50	73.6	0.3
B1 (2)	日常的な事象を表した図を観察し、空間における位置に関する情報を適切に読み取ることができる		○						○			70	50	90.9	0.3
B1 (3)	事象を理想化・単純化し、その結果を数学的に解釈し、問題解決の方法を説明することができる		○							○		60	40	45.3	18.0
B2 (1)	与えられた説明の道筋を読み取り、式を適切に変形することで、その説明を完成することができる		○						○			65	45	59.1	11.4
B2 (2)	事柄が成り立たたない理由を説明する場面で、反例をあげることで、その説明を完成することができる		○						○			65	45	59.3	10.7
B2 (3)	予想された事柄が成り立たないことを判断し、その事柄が成り立たない理由を説明することができる		○							○		60	40	49.3	11.0
B3 (1)	与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる		○						○			70	50	85.0	6.8
B3 (2)	事象を理想化・単純化して問題解決した結果を解釈し、数量の関係を数学的に説明することができる		○							○		65	45	56.5	32.2
B4 (1)	図形の性質を、構想を立てて証明することができる		○							○		60	40	44.6	28.3
B4 (2)	付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いることができる		○							○		60	40	17.4	27.5
B5 (1)	ある場合の得点を樹形図を利用して求めることで、与えられた情報を分類整理することができる			○						○		70	50	78.1	5.6
B5 (2)	不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明することがで			○						○		60	40	33.9	11.1
B6 (1)	与えられたグラフを、事象に即して解釈することができる		○							○		65	45	56.4	10.9
B6 (2)	グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善することができる		○							○		60	40	76.0	3.2
B6 (3)	グラフの特徴を事象に即して解釈し、結果を改善して問題を解決する方法を説明することができる		○							○		60	40	30.6	24.3

- 「十分達成」の基準を上回っている主な設問は、次のとおり。
- ・ 「数と式」領域－四則演算の設問（問A1(1)、A2(2)、(3)）
 - ・ 「資料の活用」領域－ある場合の得点を樹形図を利用して求めることで、与えられた情報を分類整理する力を問う設問（問B5(1)）
- ▲ 「おおむね達成」の基準を下回っている主な設問は、次のとおり。
- ・ 「数と式」領域－数量の大小関係を不等式に表す設問（問A2(1)）
 - ・ 「関数」領域－反比例について、グラフと表を関連付けた理解を問う設問（問A10(4)）
 - ・ 「資料の活用」－不確定な事象の起こりやすさの傾向を捉え、判断の理由を説明する設問（問B5(2)）

(4) 成果と課題

① 小学5年

- ・ 用語の意味が十分に定着できていない。正しく用語を使わせるとともに、その意味を確かめさせる活動を、その単元だけでなく継続して設定しておくことで、用語とその意味を確実に理解させ定着させる必要がある。
- ・ 問題の中から必要な情報を解釈したり、数量の関係を正しく読み取り、整理して考えたりする力の育成が大切である。授業において問題の中から必要な条件を見付けたり、問題文を要約したりする活動を設定することが必要である。

② 小学6年

- ・ 「数量や図形についての技能」については、全12設問全てにおいて正答率がおおむね達成の基準を上回り、そのうち8設問においては十分達成の基準を上回った。
- ・ 日常の事象を数理的に捉えることに苦手意識をもつ児童が少なくなかった。そこで、日常生活や他教科等の学習場面において、事象の中から規則性を読み取ったり、示された数量の関係を的確に解釈したりして、その数量の関係を表現する活動に取り組んでいく必要がある。(B3)(B5)
- ・ 問題の中から必要な情報を解釈したり、数量の関係を読み取って条件を構成したりする力の育成が大切である。そこで、与えられた条件を再構成する必要がある問題(条件過多の問題、条件不足の問題など)を授業で設定することが必要である。

③ 中学1年

- ・ 問題が複雑になると理解が難しくなる傾向が見られる。既習の内容に置き換えたり、既習の内容を活用したりしながら問題解決を図っていく力を育てていく必要がある。そのためにも、現在学んでいる内容と既習の内容の結び付きを意識させるような授業づくりが大切だと考える。
- ・ 問題の中から必要な情報を選択したり、数量の関係を正しく読み取り、整理して考えたりする力の育成が大切である。授業において条件過多の問題で情報を取捨選択したり、条件不足の問題で問題解決に必要な情報を考えたりする活動などを設定することが必要である。

④ 中学2年

- ・ 領域「数と式」の正答率は55.1で、「おおむね達成」の基準48.2を上回っている。また、評価の観点「数学的な技能」の正答率は53.6で、「おおむね達成」の基準51.3を上回っている。
- ・ 次の内容については、十分定着が図れていない。引き続き指導改善に取り組んでいく必要がある。
 - i 分数の一元一次方程式を解く設問
 - ii 具体的な事象の中の数量関係を捉え、方程式をつくる設問
 - iii 円の一部としての扇形について、同一円の扇形の面積がその中心角の大きさに比例することを理解しているかを問う設問
 - iv ねじれの位置にある二つの直線の位置関係について理解しているかを問う設問
 - v 与えられた式を基に、グラフ上にある点の座標を求める設問
 - vi 与えられた情報を基に、 x 、 y の関係が反比例であることを説明する設問
 - vii 大きさの異なる二つ以上の資料の傾向を比較する方法を考える設問

⑤ 中学3年

- ・ すべての領域において、「おおむね達成」の基準を上回っている。また、評価の観点「数学的な見方や考え方」の正答率は55.1%となり、「おおむね達成」の基準43.6%を上回っている。
- ・ 次の内容については、十分定着が図れていない。引き続き指導改善に取り組んでいく必要がある。
 - i 数量の大小関係を不等式に表す設問
 - ii 底辺が合同で高さが等しい円柱と円錐の体積の関係を問う設問
 - iii 関数の意味を問う設問
 - iv 比例の関係を式に表す設問
 - v 反比例について、グラフと表を関連付けた理解を問う設問
 - vi 付加された条件の下で、証明を振り返って考え、事柄を用いる設問

(5) 改善のポイント

《授業改善に向けて》

算数・数学ともに、基礎・基本の定着には、改善がみられるが、基礎・基本を活用する力には、課題がみられる。特に、説明する問題（記述形式の設問）には依然として課題があると考えられる。

問題の中から必要な情報を解釈したり、数量の関係を読み取って条件を構成したりする力の育成が大切である。そこで、与えられた条件を再構成する必要がある問題（条件過多の問題、条件不足の問題など）を授業で設定し、問題提示の工夫を行うことで課題の改善を図りたい。そのことが、「活用」する力の育成につながるものとする。

《改善に向けた取り組みのポイント（校種ごと）》

小学校

- ・ 立式に際して、言葉の式を考えさせたり、数直線を用いさせたりすることで、数が小数や分数になっても正しく立式できるようにさせたい。また、計算の結果と問題場面とを対比させることで、演算決定が的確かどうかを振り返る指導も行う必要がある。
- ・ 異種の2つの量の割合として捉えられる数量について、その様子を表した図を選択することは十分達成の基準を超えている。しかし、その図から単位量当たりの大きさを調べることに苦手意識をもつ児童が少なくないようである。2つの量のうち、どちらを単位量にするのかを考えさせる活動を設定する必要がある。
- ・ 作図の指導に当たっては、単に作図の手順を形式的に指導するだけでなく、その作図の手順の意味を考えさせることが大切である。
- ・ 言葉と図を関連付けて、筋道を立てて考える活動を仕組む。
- ・ 情報量が多い設問から問題の意図を読み取ることができないことが考えられる。問題場面ごとに区切って情報を整理して問題場面を把握する活動を大切にしたい。
- ・ 問題解決に必要な情報を捉え、どのように用いればよいかを明らかにして筋道を立てて考える活動を仕組む必要がある。そのときに、その求め方を言葉や式を使って説明できるように指導することが大切である。

中学校

- ・ 単に正答率の比較だけでなく、解答類型を基に誤答の傾向を適切に把握し、生徒のつまずきに応じたきめ細かな指導や今後の授業に生かすこと。
- ・ 「数学的な表現を用いて理由を説明すること」に依然として課題があることから、日頃の授業において、数学的な表現を用いて的確に説明する言語活動を充実させること。
 - ① 様々な事象の考察を通して関数の意味を理解できるようにするために、日常的な事象の中にある2つの数量の変化や対応の様子を調べ、それらの関係を見だし、「…は…の関数である」という形で表現する学習活動を取り入れる。
 - ② 表、式、グラフを相互に関連付け、一体となって理解できるような学習活動を行う。また、例えば、比例について、反比例の学習後に比例と反比例の式を対比したり、一次関数の学習後に比例と一次関数の式を対比したりして、学び直す機会を設定する。
 - ③ 条件を変えるなど発展的に考えて予想したり、予想した事柄を説明したりするような学習活動を取り入れる。条件を変えた際に、条件を変える前の内容を振り返るような学習活動を取り入れる。
 - ④ 成り立つ理由を説明したり、判断した根拠を説明したりするなどの学習活動を取り入れる。

4 児童生徒意識調査（小学5年、中学1、2年）、児童生徒質問紙（小学6年、中学3年）、学校質問紙調査及び教師意識調査の概要

※意識調査は県調査の児童生徒意識調査及び全国調査の児童生徒質問紙・学校質問紙の回答を分析したもの。（共に、各学校で入力を行ったデータに基づいている。）

※平均正答率とのクロス集計は、国語、算数・数学の平均正答率を示す。

※教師意識調査の対象者は、平成26年2月時点での各学校在籍職員。（当該学年担任及び当該教科担当者）

(1) 授業への関心・理解度について

- 「各教科の学習が好き」という問いに対して「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合の変化（同一学年）を見ると、次の教科、学年において改善が見られる。

◇国語－小学6年、中学3年

◇社会－小学5年

◇理科－小学5年

また、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、各教科とも、6割前後であるが、教科によって違いがある。「当てはまる」と解答した児童生徒が多いのは、理科であるが、小中学校での校種間の意識の差が大きい。他の教科においては、それほど大きな差は見られない。[グラフ 1-1, 2-1, 3-1, 4-1, 5]

- 同一児童生徒の意識の変化（経年変化）を見ると、学年進行に伴い、「当てはまる」と回答する児童が減少する傾向にある。

[グラフ 1-2, 2-2, 3-2, 4-2]

- 「各教科の授業の内容はよく分かる」という問いに対して「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合の変化（同学年）を見ると、次の教科、学年において改善が見られる。

◇国語－中学3年

◇理科－小学5年

逆に、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合が減っている教科、学年は、以下のとおり。

◇国語－小学5年、中学1、2年

◇社会－中学1年

◇英語－中学2年

[グラフ 6-1, 7-1, 8-1, 9-1, 10]

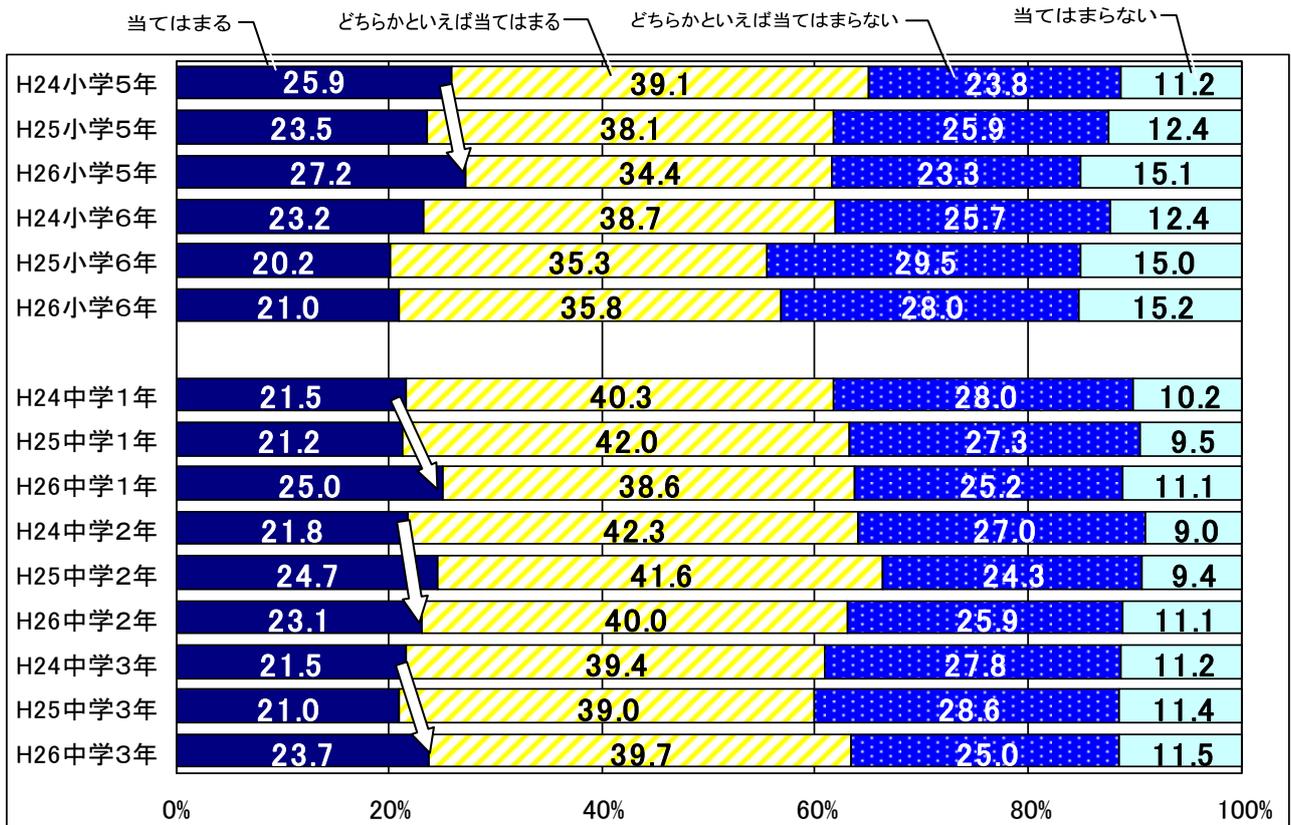
- 同一児童生徒の意識の経年比較を見ると、小学校では、あまり大きな変化はみられないが、中学校においては、学年進行に伴い、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合が減少している。

[グラフ 6-2, 7-2, 8-2, 9-2]

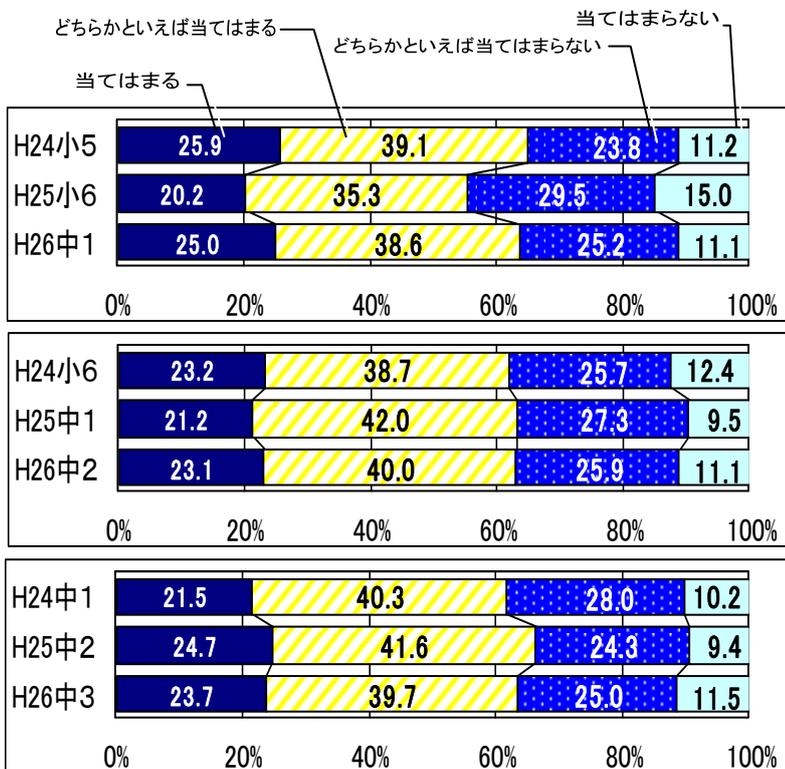
- 「各教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」という問いに対して「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、前年度とほぼ同程度であるが、一部の教科、学年で変化がみられる。

また、学年進行に伴い、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合が減少している。[グラフ 11]

[グラフ 1-1] 国語の勉強は好きだ 平成 24～26 年度 「同一学年」の経年比較



[グラフ 1-2] 国語の勉強は好きだ 平成 24～26 年度 「同一児童生徒」の経年比較



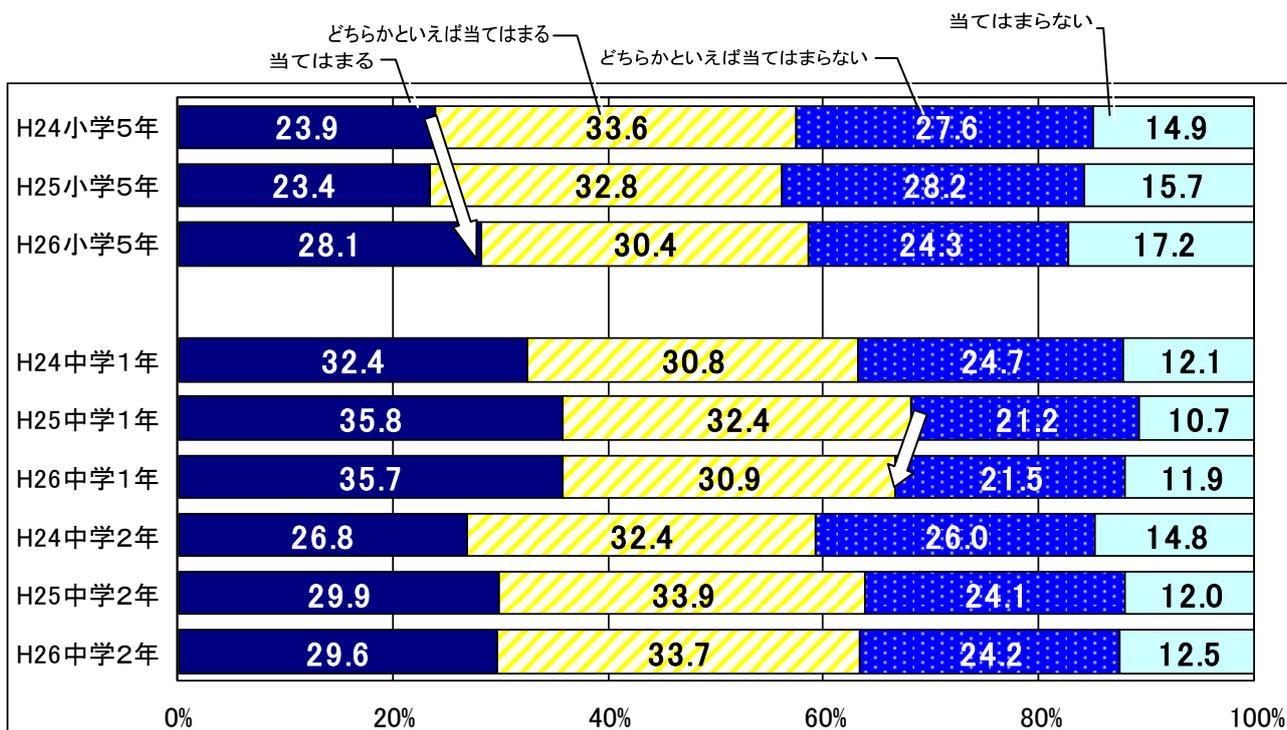
・ 「同一学年」の経年比較において、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が増えているのは、小学5年、中学1年、3年である。逆に減っているのは、中学2年である。

また、校種間・学年間の差はあまりない。[グラフ 1-1]

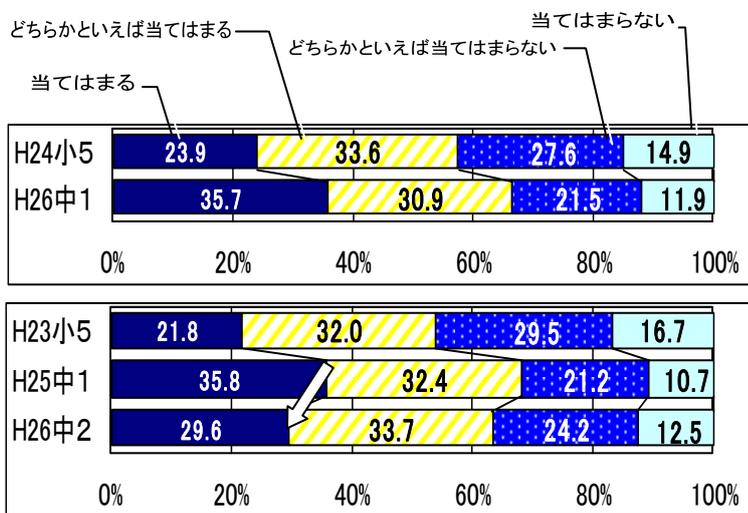
・ 「同一児童生徒」の経年比較をみると、校種間での大きな差異はみられない。また、学年進行に伴う特徴的な意識の変化はみられない。[グラフ 1-2]

[グラフ 2-1] 社会の勉強は好きだ 平成 24～26 年度 「同一学年」の経年比較

※小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を活用しているため、データはない。



[グラフ 2-2] 社会の勉強は好きだ 平成 23～26 年度 「同一児童生徒」の経年比較

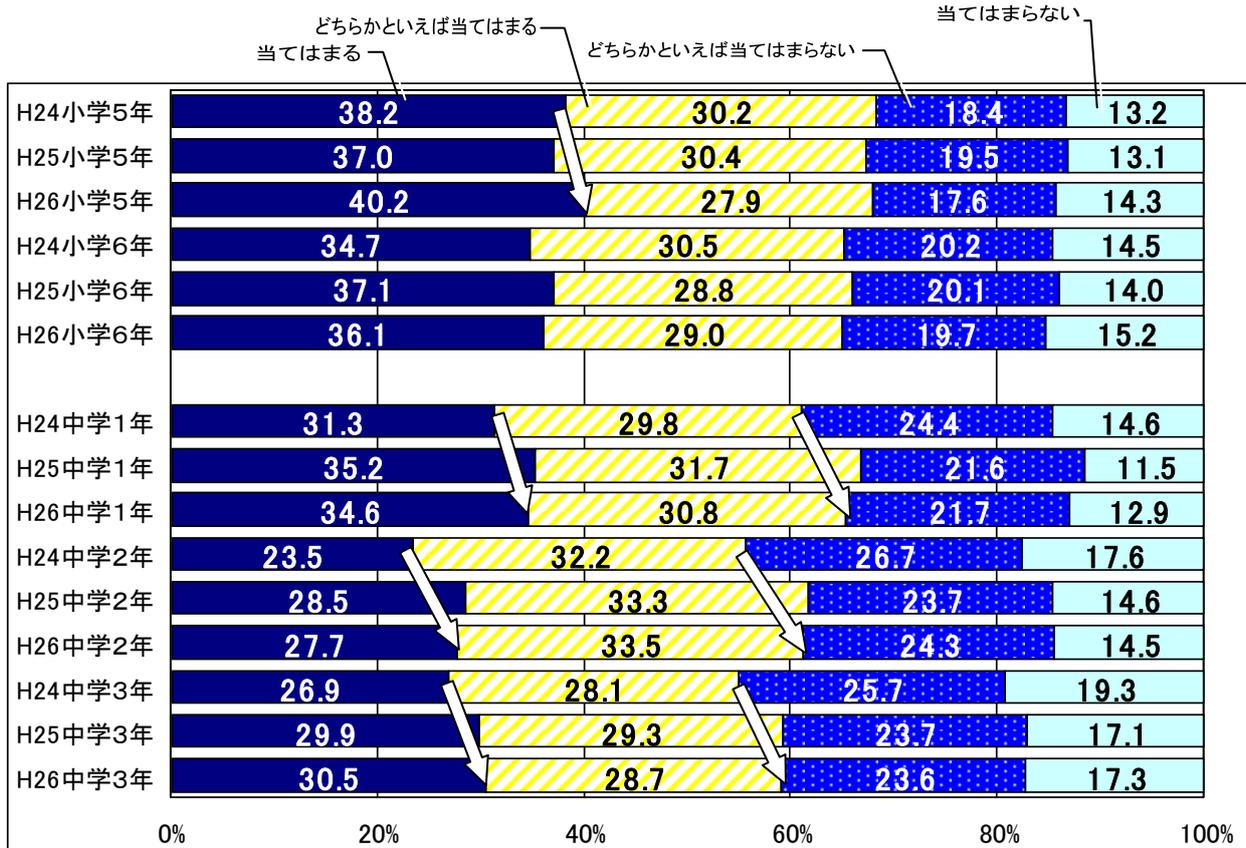


・ 「同一学年」の経年比較において、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が増えているのは、小学5年である。中学1年では、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合が減っている。[グラフ 2-1]

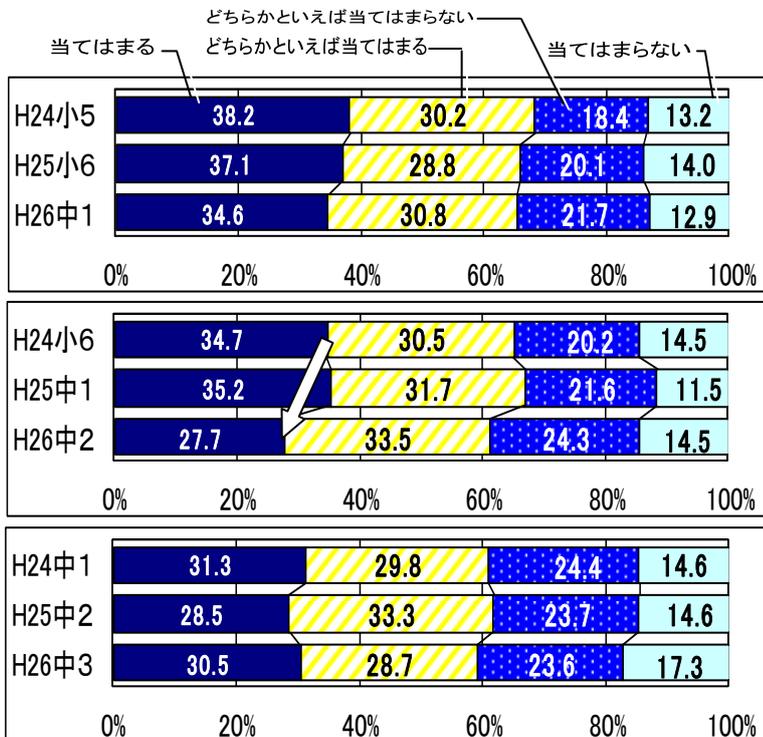
・ 「同一児童生徒」の経年比較をみると、小学校から中学1年までは好きだと感じている児童生徒が増えているが、中学2年になると減る傾向にある。

[グラフ 2-2]

[グラフ 3-1] 算数(数学)の勉強は好きだ 平成 24~26 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 3-2] 算数(数学)の勉強は好きだ 平成 24~26 年度「同一児童生徒」の経年比較

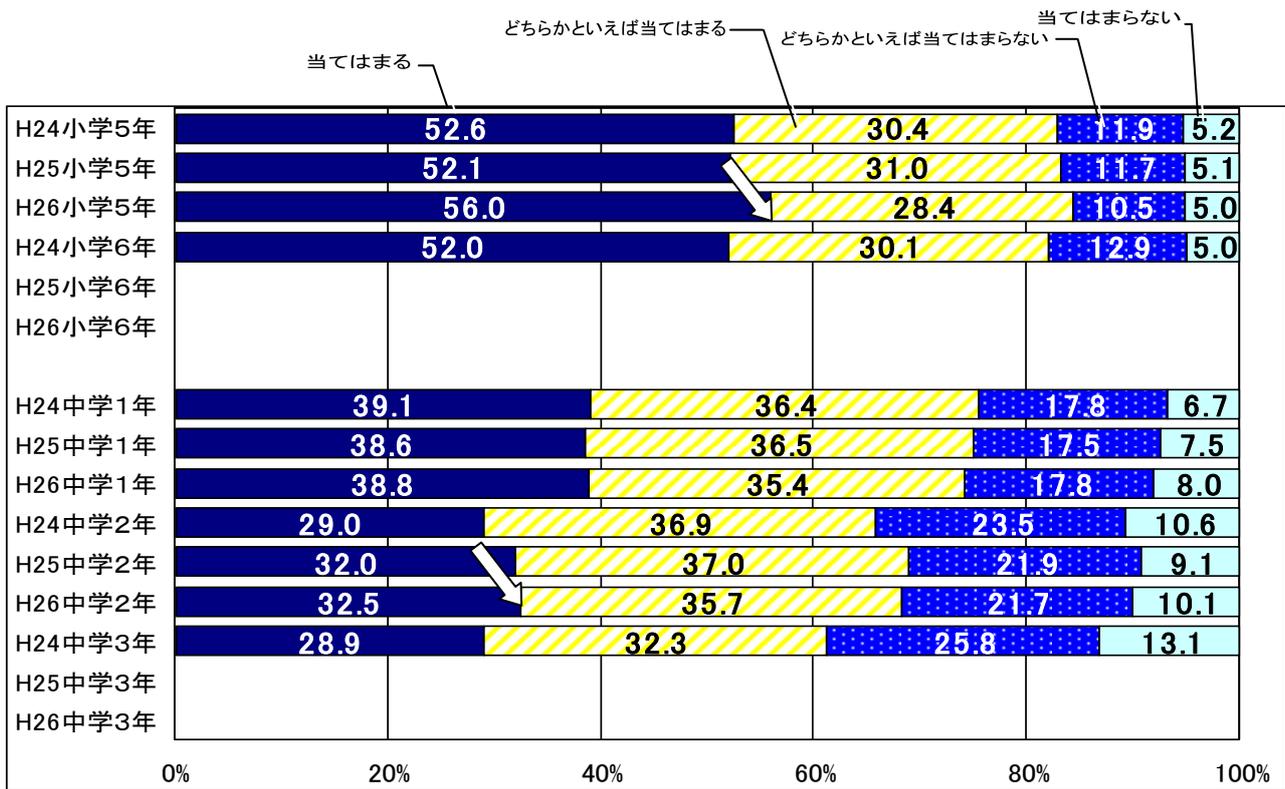


・ 「同一学年」の経年比較において、昨年度改善がみられたが、今年度は、特徴的な改善は見られなかった。小学5年生は、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が3ポイント増えている。[グラフ 3-1]

・ 「同一児童生徒」の経年変化をみると、学年進行に伴う特徴的な傾向は見られない。個別にみると、中学2年生では、「当てはまる」と回答した生徒の割合が、昨年度と比較して7ポイント程度低下している。

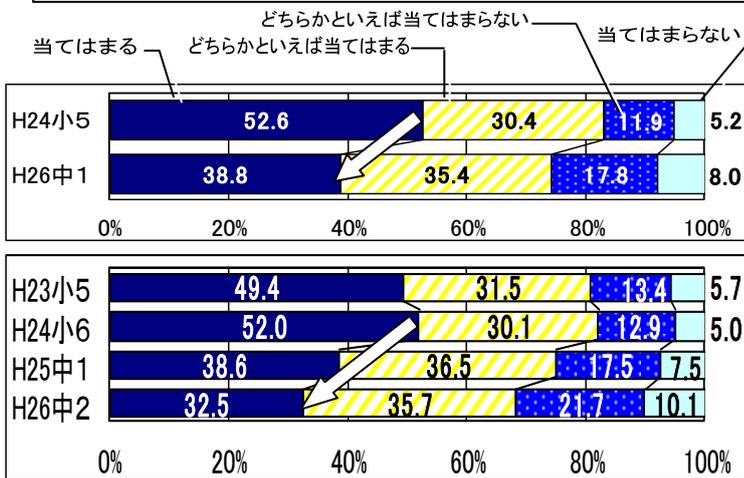
[グラフ 3-2]

[グラフ 4-1] 理科の勉強は好きだ 平成 24～26 年度 「同一学年」の経年比較



※ 平成 24 年度小学 6 年、中学 3 年は、全国調査の質問紙のデータ。平成 25 年度、26 年度は、理科が実施されなかったため質問項目から除外されている。

[グラフ 4-2] 理科の勉強は好きだ 平成 23～26 年度 「同一児童生徒」の経年比較



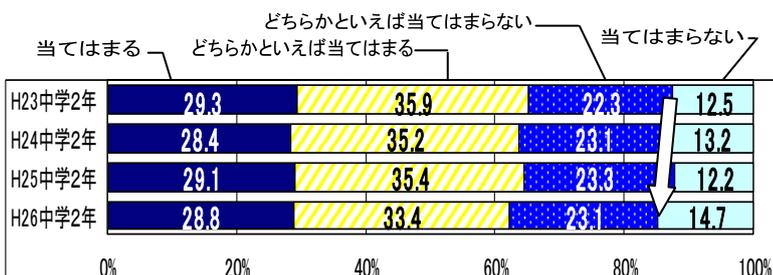
- 「同一学年」の経年比較において、昨年度中学 2 年生で、「当てはまる」と回答した生徒の割合が 3 ポイント増えていた。今年度は、小学 5 年生で、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が 3.9 ポイント増えている。

[グラフ 4-1]

- 「同一児童生徒」の経年変化をみると、中学校では、「当てはまる」と回答した生徒の割合が、学年進行に伴い減少している。

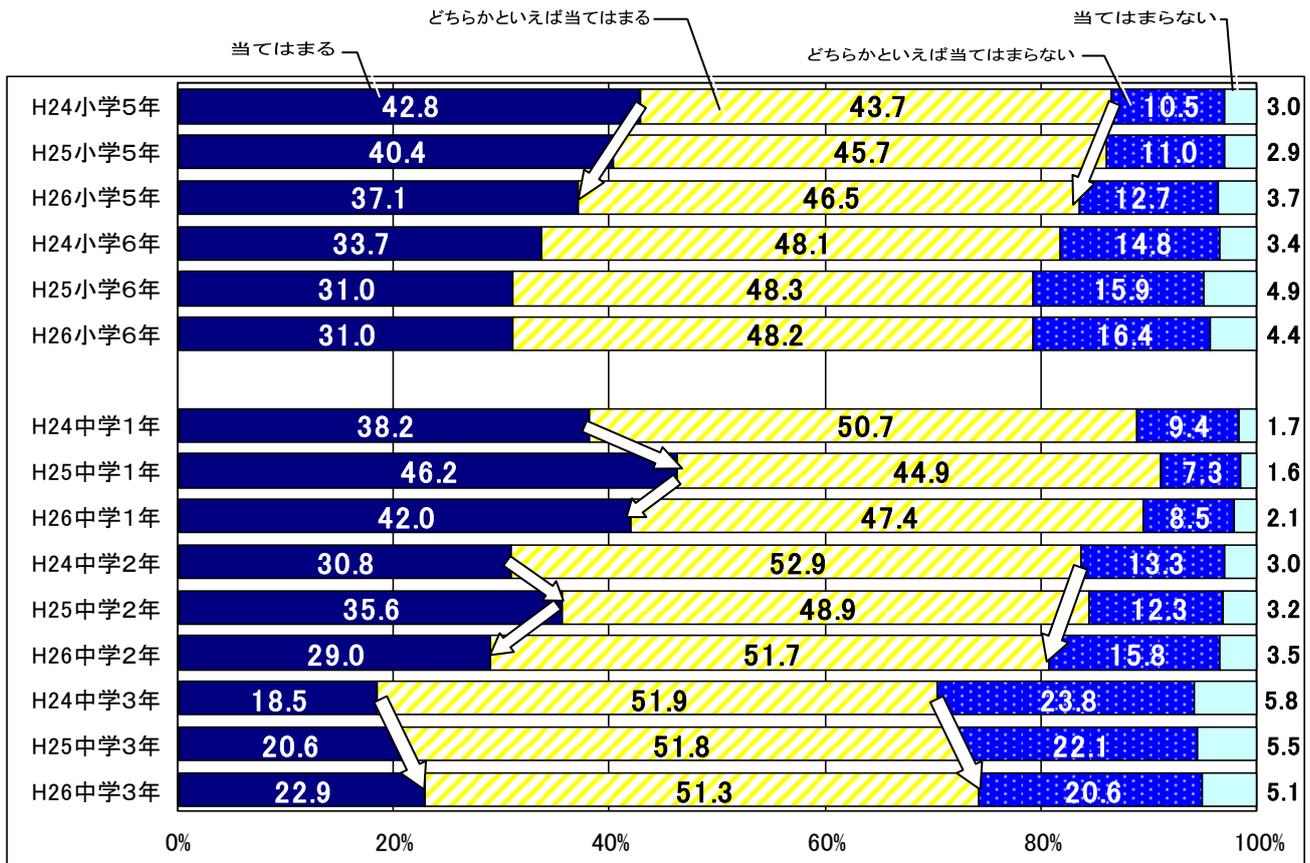
[グラフ 4-2]

[グラフ 5] 英語の勉強は好きだ(中学2年) 平成 23～26 年度 「同一学年」の経年比較

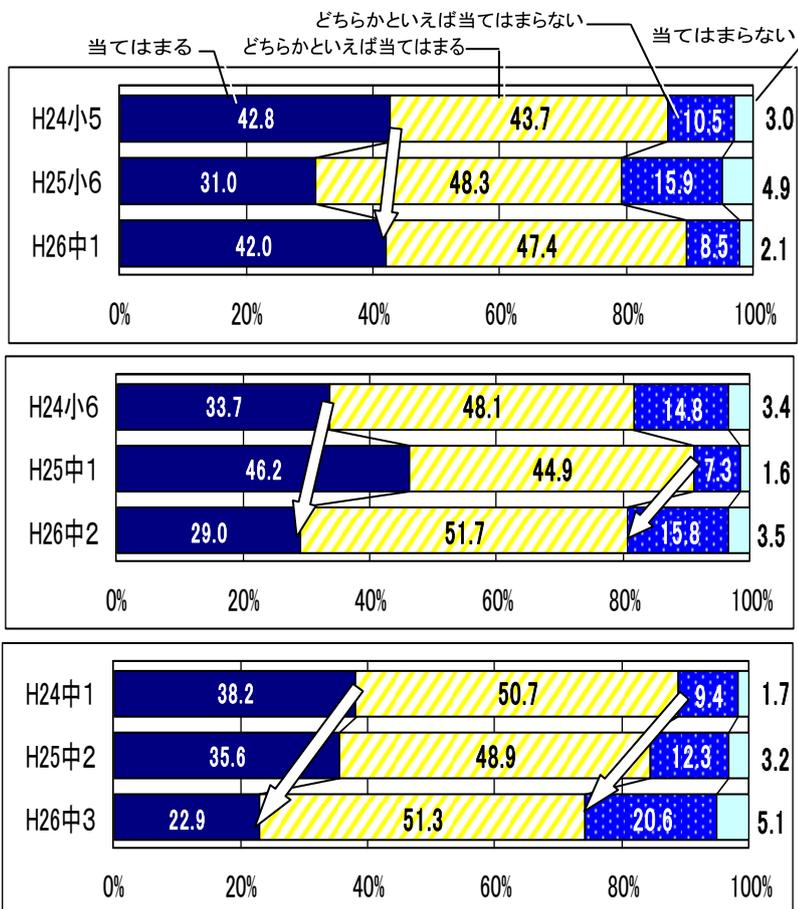


- 「同一学年」の経年比較において、若干ではあるが、「当てはまらない」と回答した生徒の割合が減少している。[グラフ 5]

[グラフ 6-1] 国語の授業の内容はよく分かる 平成 24～26 年度 「同一学年」の経年比較

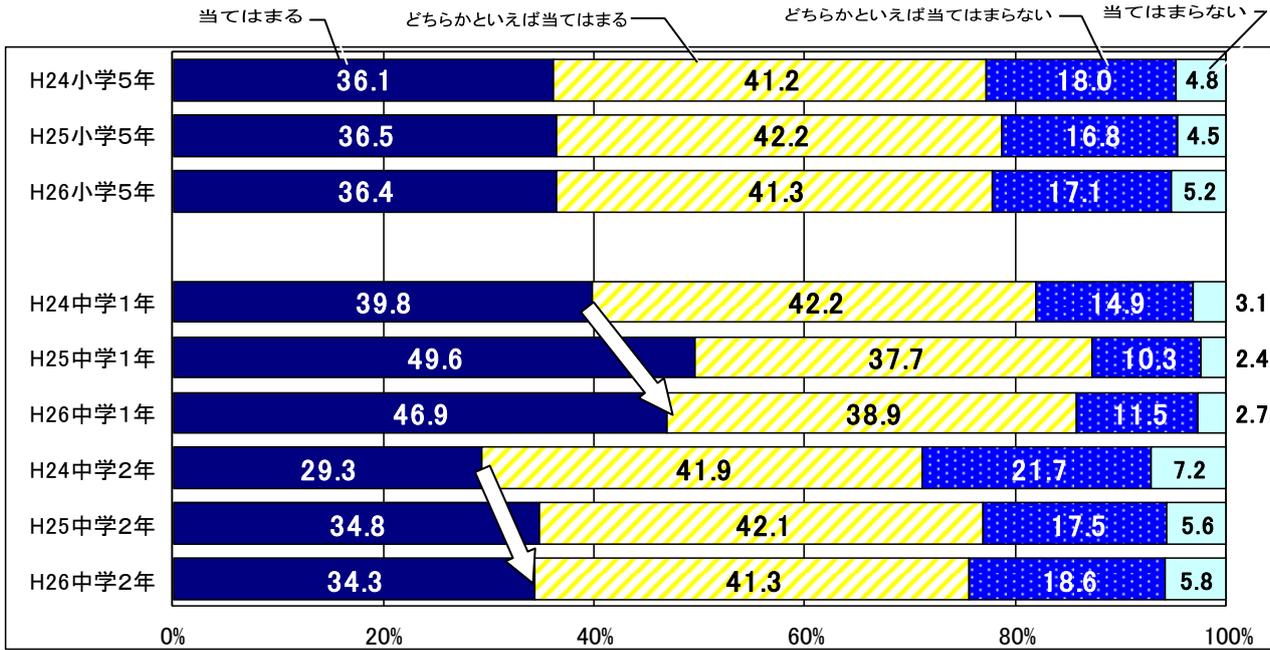


[グラフ 6-2] 国語の授業の内容はよく分かる 平成 24～26 年度 「同一児童生徒」の経年比較



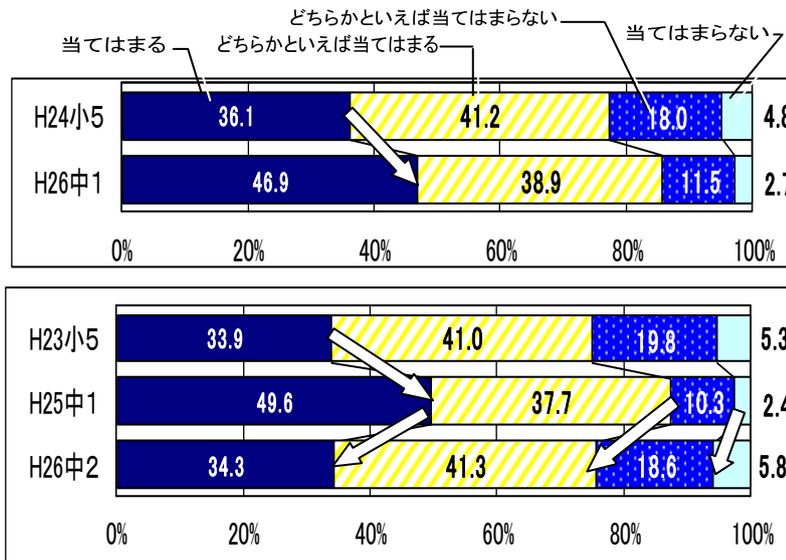
- 「同一学年」の経年比較において、昨年度、中学1年で8ポイント、中学2年で4.8ポイント、「当てはまる」と回答した生徒の割合が増えていた。今年度は、それぞれ4.2ポイント、6.6ポイント減少している。しかし、小学5年生では、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が減少している。[グラフ 6-1]
- 「同一児童生徒」の経年変化をみると、中学校では、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合が、学年進行に伴い減少している。[グラフ 6-2]

[グラフ 7-1] 社会の授業の内容はよく分かる 平成 24～26 年度 「同一学年」の経年比較



※ 小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙を利用しているため、本質問項目のデータはない。

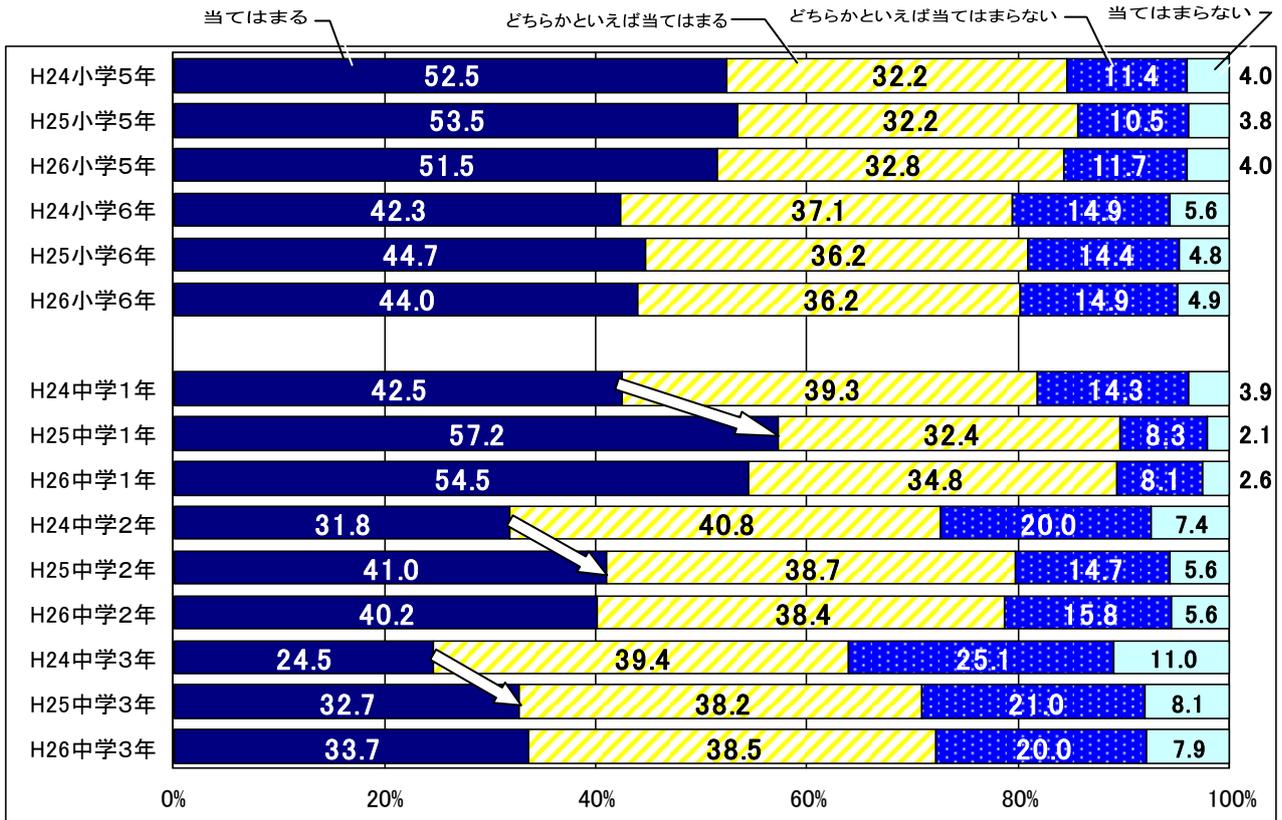
[グラフ 7-2] 社会の授業の内容はよく分かる 平成 24～26 年度 「同一児童生徒」の経年比較



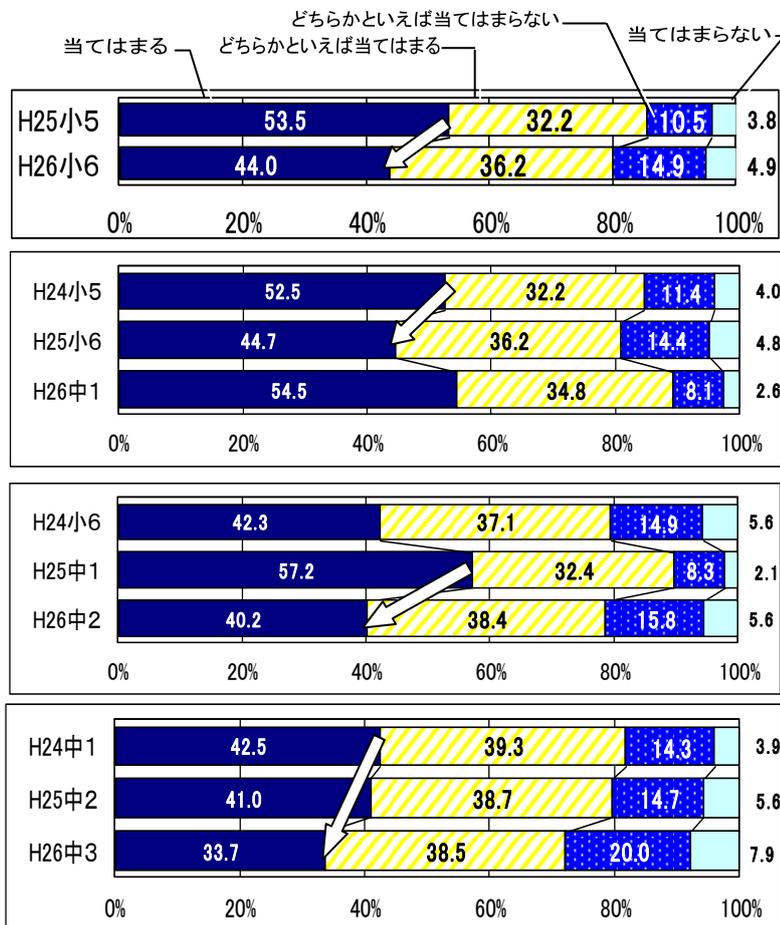
- 「同一学年」の経年比較において、小学5年生では、変化はみられない。中学校では、昨年度改善がみられたが、今年度は、中学2年生が、昨年度並みであるのに対して、中学1年生では、「当てはまる」と回答した生徒の割合が3ポイント程度減少している。しかし、複数年で見ると全体的には改善傾向である。[グラフ 7-1]

- 「同一児童生徒」の経年変化をみると、中学1年生までは「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が増えている。しかし、中学2年生になると減少し、逆に苦手意識を感じる生徒の割合が増えている。[グラフ 7-2]

[グラフ 8-1] 算数(数学)の授業の内容はよく分かる 平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 8-2] 算数(数学)の授業の内容はよく分かる 平成 24～26 年度「同一児童生徒」の経年比較



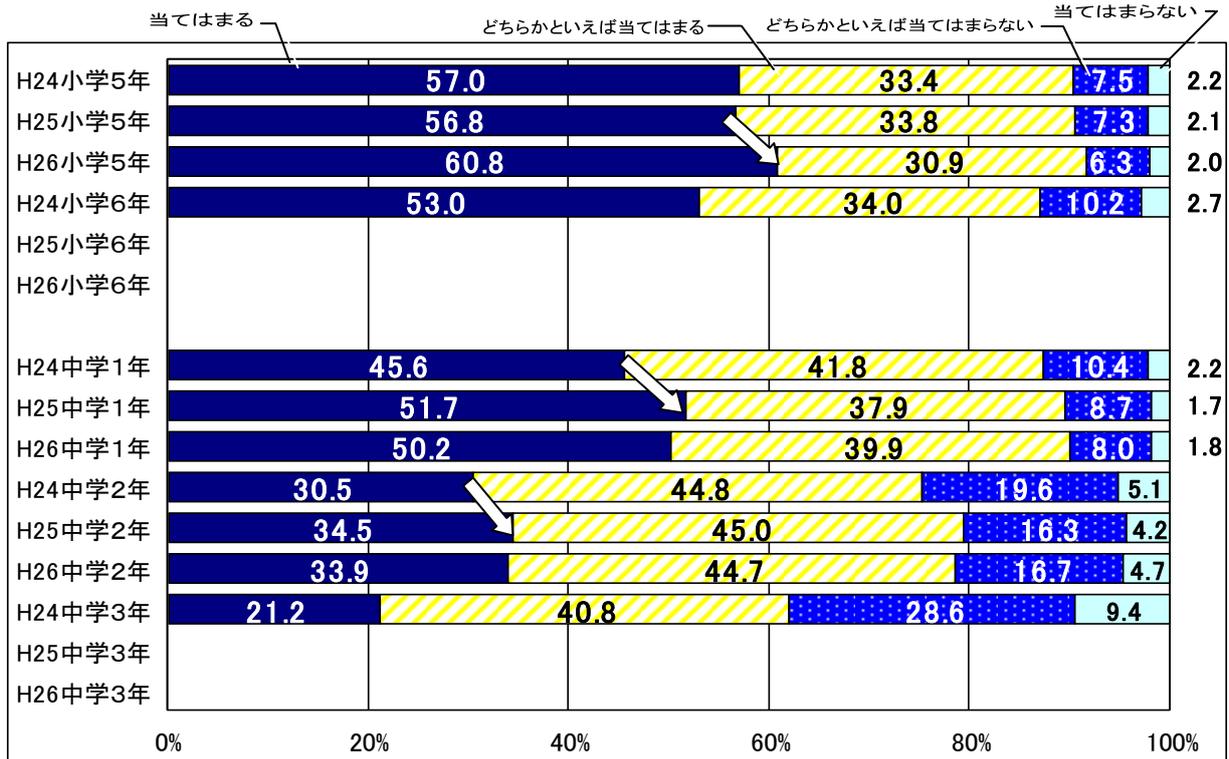
・ 「同一学年」の経年比較において、小学校では、大きな変化はみられない。中学校では、昨年度改善がみられたが、今年度は、どの学年も、昨年度並みである。(中学校では、平成24年度から新学習指導要領が完全実施され、学習内容の一部変更が行われている。) [グラフ 8-1]

・ 「同一児童生徒」の経年変化をみると、小学5年生から6年生にかけて「当てはまる」と回答した児童が減少している。小学5年生の学習内容に難しさを感じている児童が多いことが推測される。

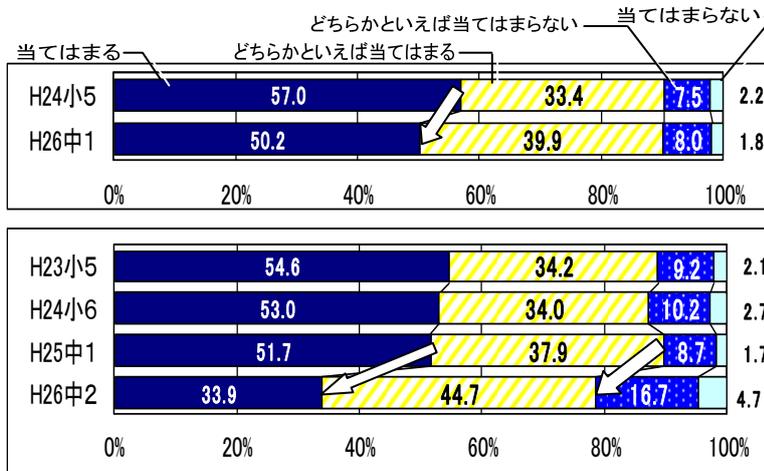
中学校では、学年進行に伴い、「当てはまる」と回答した生徒の割合が減少している。

[グラフ 8-2]

【グラフ9-1】理科の授業の内容はよく分かる 平成24～26年度「同一学年」の経年比較



【グラフ9-2】理科の授業の内容はよく分かる 平成23～26年度「同一児童生徒」の経年比較



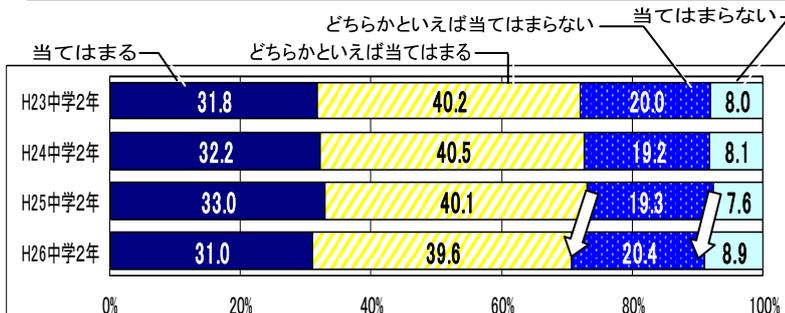
・ 「同一学年」の経年比較において、小学5年生では、「当てはまる」と回答した児童が4ポイント増加している。中学生では、昨年度改善がみられたが、今年度は、どの学年も、昨年度並みである。【グラフ9-1】

・ 「同一児童生徒」の経年変化をみると、小学校では、大きな変化はみられないが、中学校では、学年進行に伴い、「当てはまる」と回答した生徒の割合が減少している。理由としては、社会科同様、学習内容への抵抗感があるものと推測される。

【グラフ9-2】

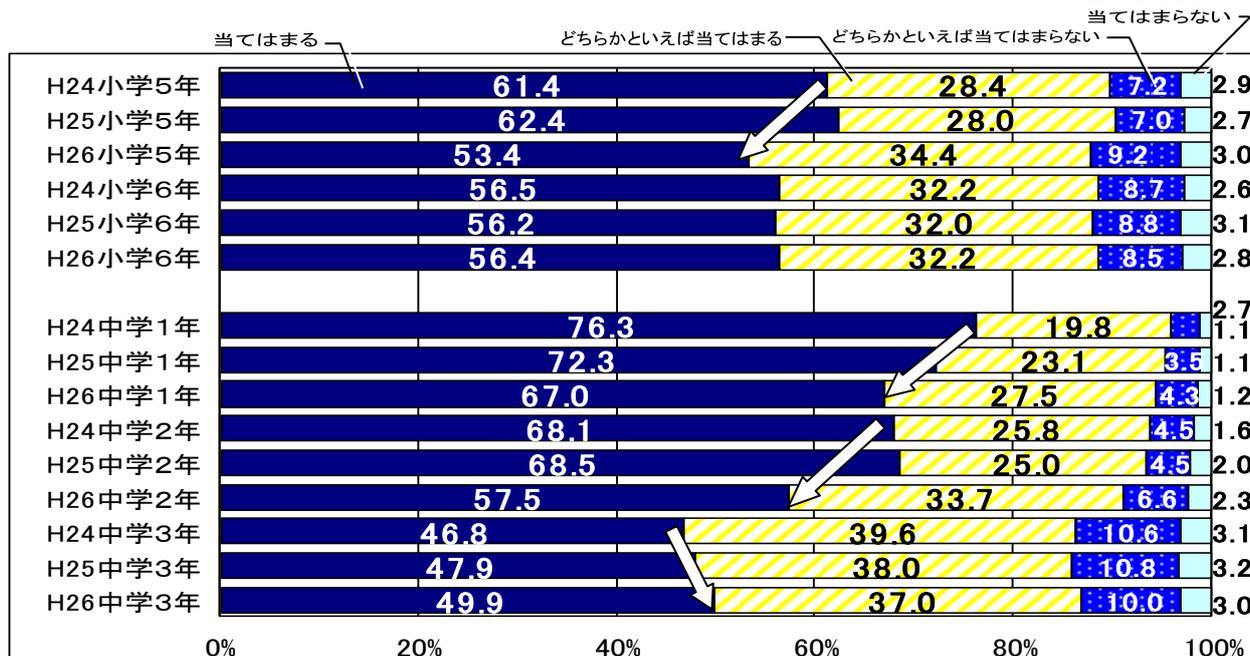
※ 平成24年度小学6年、中学3年は、全国調査の質問紙のデータ。平成25年度、26年度は、理科が実施されなかったため質問項目から除外されている。

【グラフ10】英語の勉強はよく分かる(中学2年) 平成23～26年度「同一学年」の経年比較

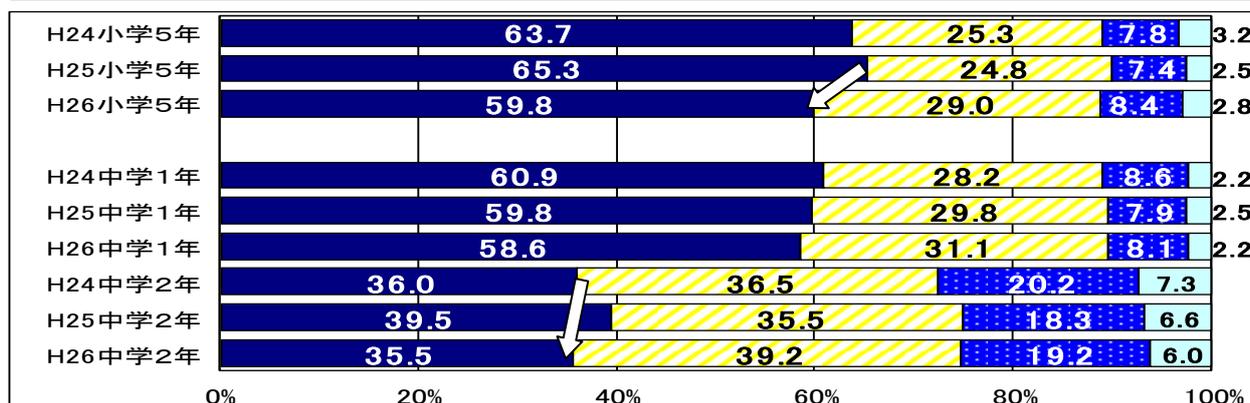


・ 「同一学年」の経年比較において、特徴的な変化はみられないが、今年度、「当てはまらない」「どちらかといえば当てはまらない」と回答した生徒の割合が、若干増加している。【グラフ10】

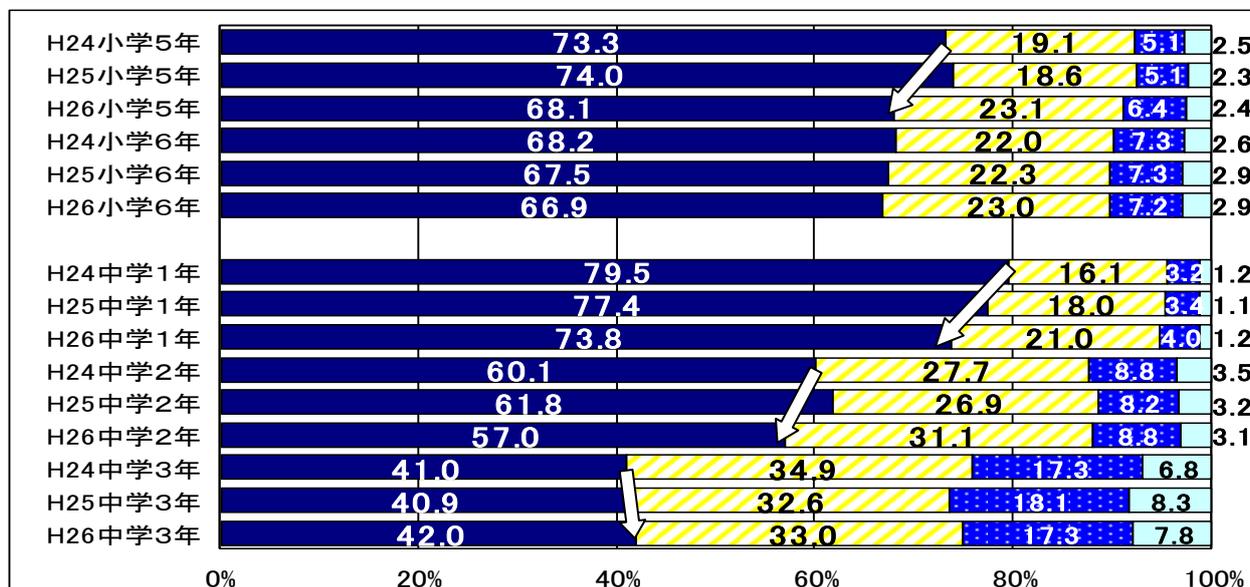
[グラフ 11-1] 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較



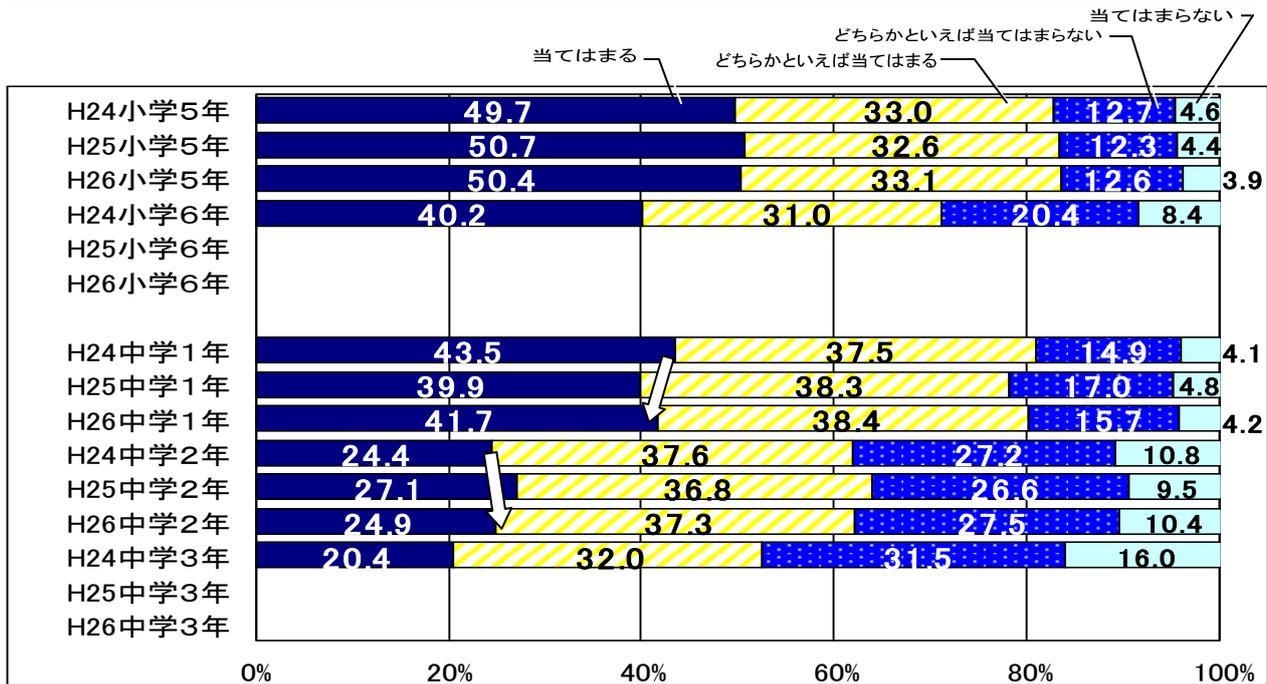
[グラフ 11-2] 社会の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較



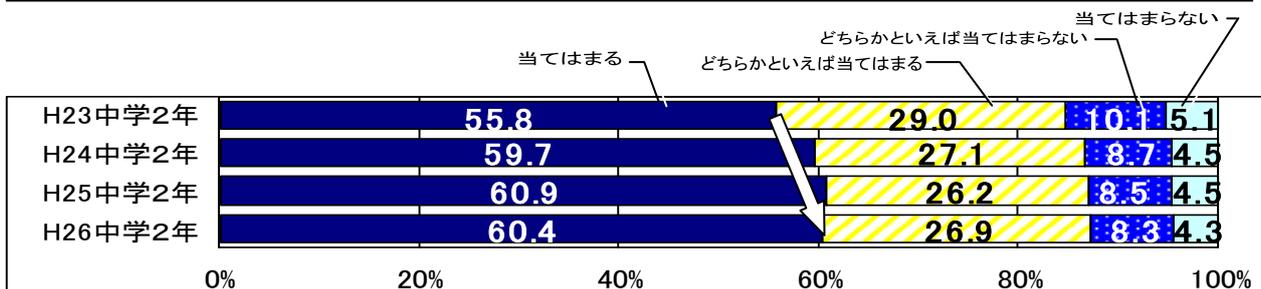
[グラフ 11-3] 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 11-4] 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 11-5] 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ
平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較



・ 「同一学年」の経年比較において、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合の変化（同学年）を平成 25 年度と比較すると、次の教科、学年において改善が見られる。[グラフ 11-1～5]

- ◇国語－中学 3 年
- ◇算数・数学－中学 3 年
- ◇理科－中学 1 年
- ◇英語－中学 2 年

逆に、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合が平成 25 年度と比較して減っている教科、学年は、以下のとおり。

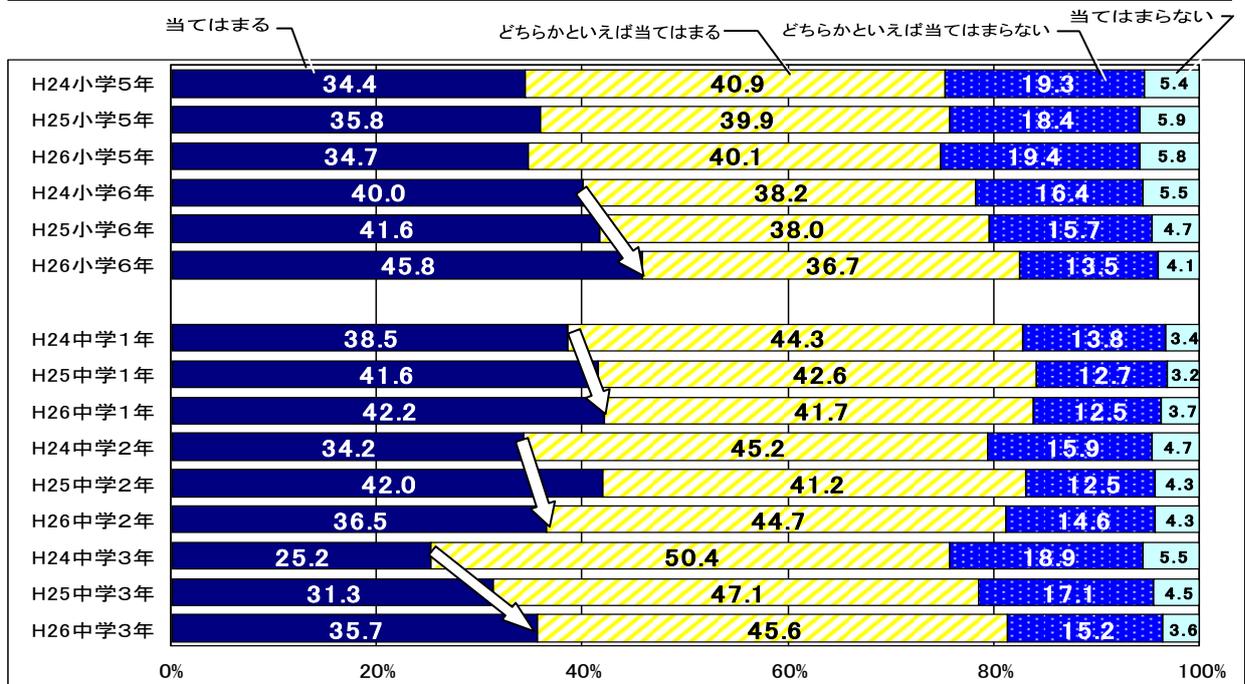
- ◇国語－小学 5 年、中学 1、2 年
- ◇社会－小学 5 年、中学 2 年
- ◇算数・数学－小学 5 年、中学 1、2 年
- ◇理科－中学 2 年

・ 小学校から中学校へと学年進行に伴い、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答した生徒の割合が減少している。学年が進むにつれて、児童生徒が、学習内容に対して有用感を感じなくなっている状況が分かる。

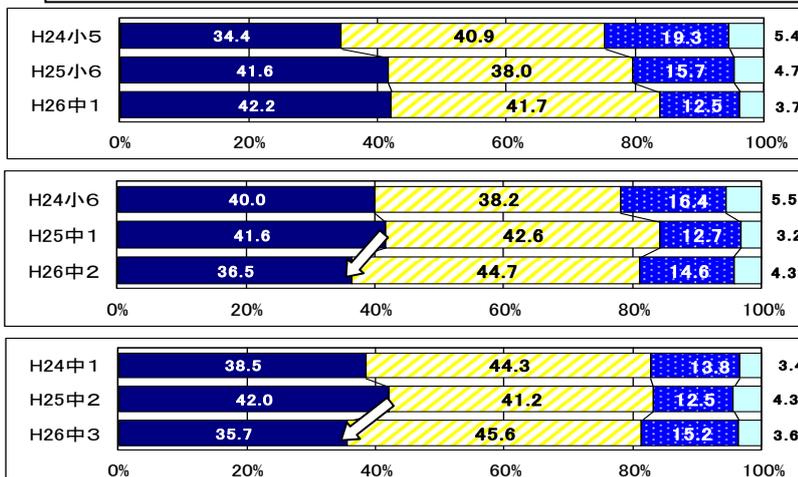
(2) 学習活動に関する意識について

- 「普段の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う」の質問については、小学6年、中学3年で、「当てはまる」と回答している児童生徒の割合が増加している。さらに、「普段の授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う」の質問についても同様の傾向が見られた。[グラフ 12, 13]
- 「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」の質問については、小学校6年、中学1年、3年で改善が見られる。[グラフ 14]
- 「授業で電子黒板や大型テレビなどが使われるようになって、今までより授業の内容が分かりやすくなった」の質問については、「そう思う」と回答する児童生徒の割合が、小学校、中学校ともに高くなっている。[グラフ 15]

[グラフ 12-1] 普段の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う。
平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 12-2] 普段の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う。
平成 24～26 年度「同一児童生徒」の経年比較



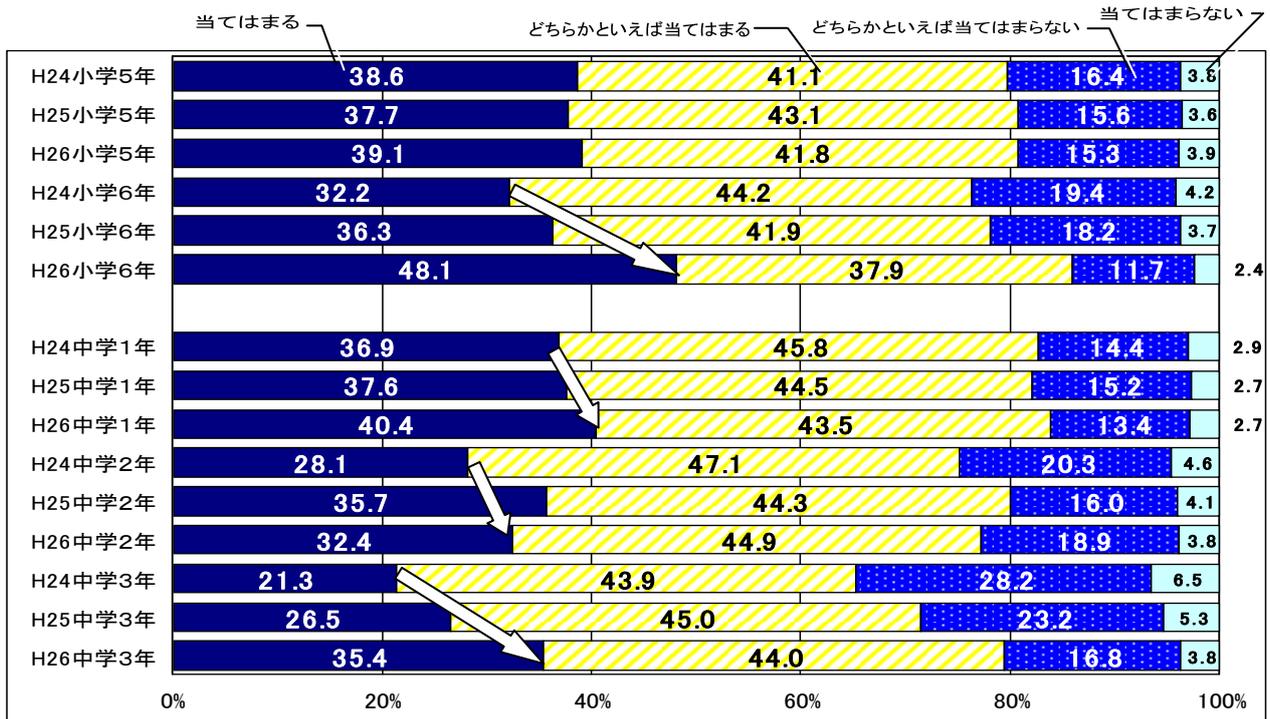
・ 「同一学年」の経年比較において、小学6年生以上の学年で、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が増加している。

[グラフ 12-1]

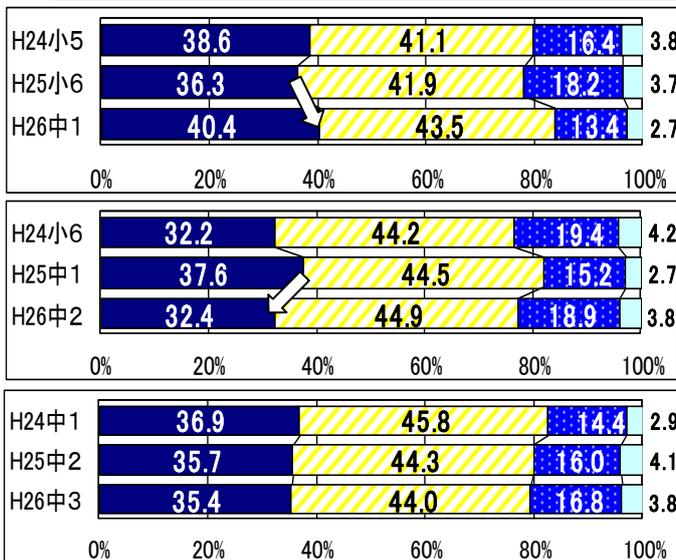
・ 「同一児童生徒」の経年変化をみると、中学1年生では、緩やかに改善している。中学2年生、3年生では、学年進行に伴い、「当てはまる」と回答した生徒の割合が減少している。

[グラフ 12-2]

[グラフ 13-1] 普段の授業では、児童生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。
平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 13-2] 普段の授業では、児童生徒の間で話し合う活動をよく行っていると思う。
平成 24～26 年度「同一児童生徒」の経年比較

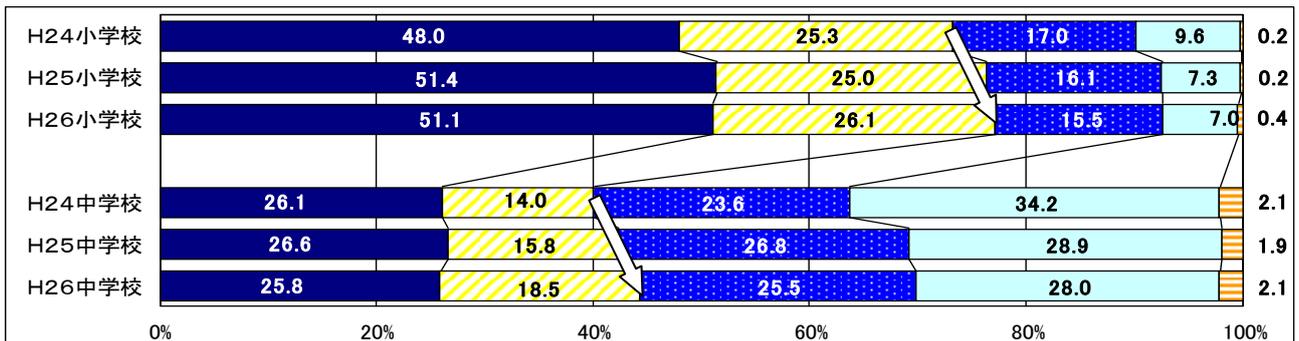


・ 「同一学年」の経年比較において、小学6年生以上の学年で、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が増加している。[グラフ 13-1]

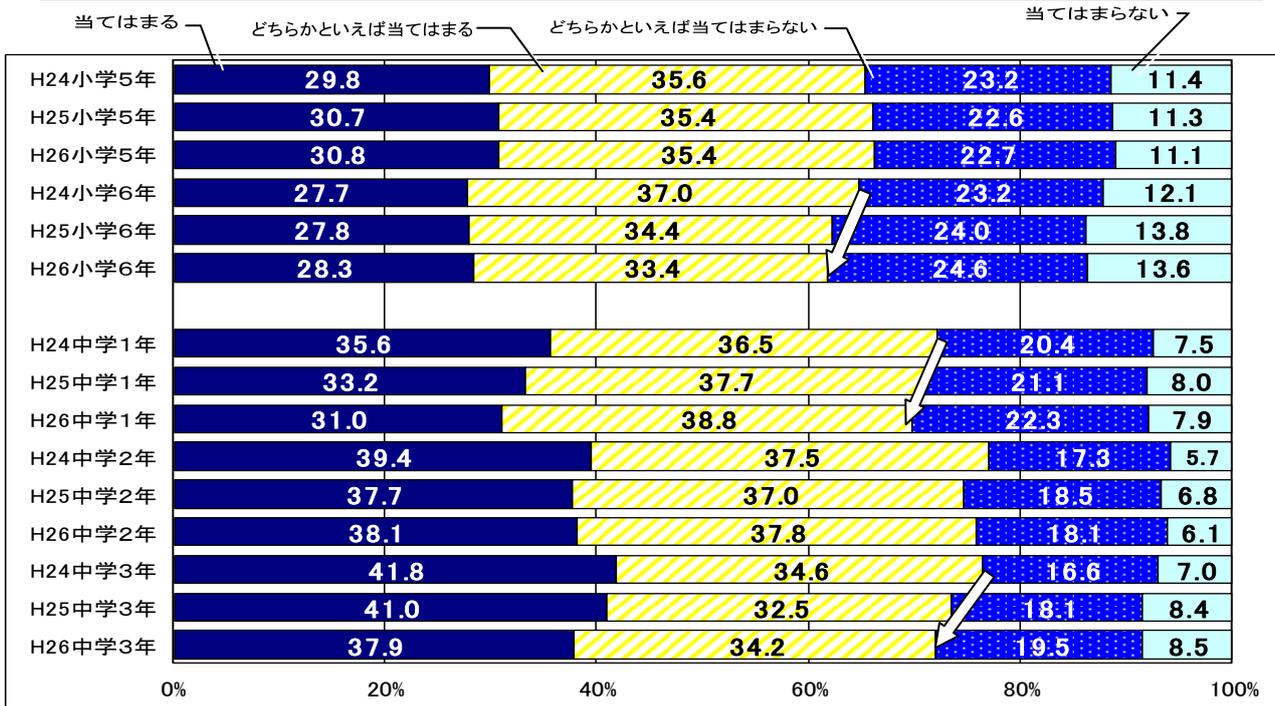
・ 「同一児童生徒」の経年変化をみると、中学1年生では、緩やかに改善している。中学2年生では、「当てはまる」と回答した生徒の割合が低下している。中学3年生ではほぼ前年度並みである。
[グラフ 13-2]

・ 教師の意識調査をみると、小中学校ともに、意図的に表現し、考えを広める活動を取り入れていることが分かるが、小学校の教師の方がより意図的に取り入れていることが分かる。[グラフ 13-3]

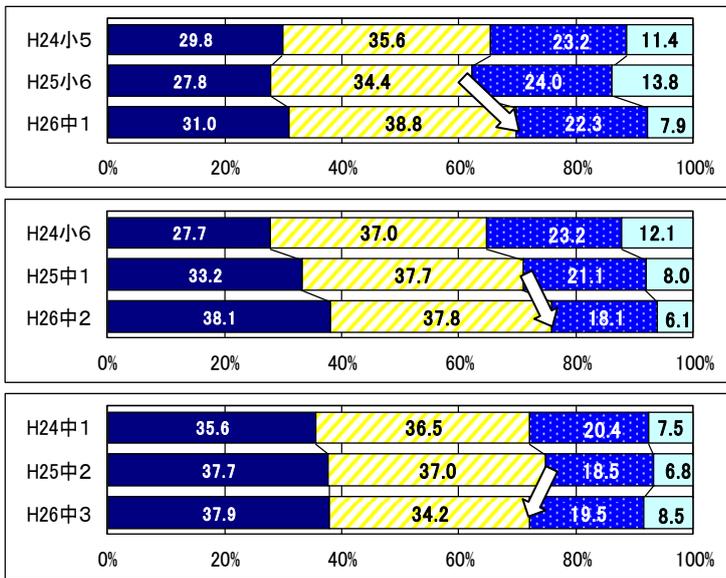
[グラフ 13-3] 発表や話し合い活動など表現し、考えを広げたり深めたりする活動を取り入れた授業を行っていますか。※教師意識調査より 平成 24～26 年度の経年比較



[グラフ 14-1] 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい。平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較

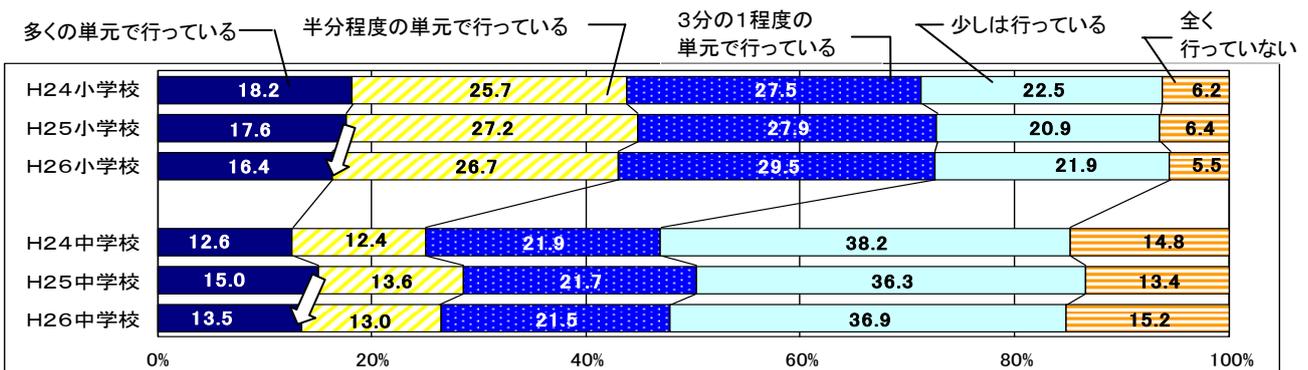


[グラフ 14-2] 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい。平成 24～26 年度「同一児童生徒」の経年比較

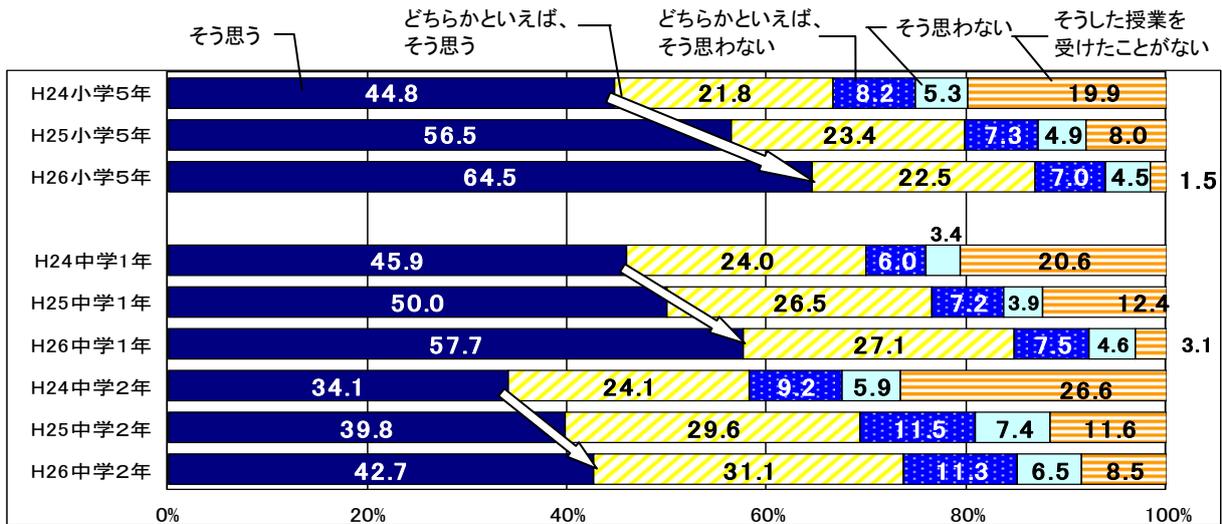


- 「同一学年」の経年比較において、小学6年生、中学1年生、3年生では、話したり、文章に書いたりすることに苦手意識を持っている児童生徒の割合が、減少している。[グラフ 14-1]
- 「同一児童生徒」の経年変化をみると、中学1年生、2年生では、苦手と感じている生徒の割合が増加している。中学3年生では、若干ではあるが、改善している。[グラフ 14-2]
- 教師の意識調査をみると、若干ではあるが、小学校、中学校ともに「多くの単元で行っている」と回答した教師の割合が減少している。また、小学校の教師の方が、より多くの単元で実施している。[グラフ 14-3]

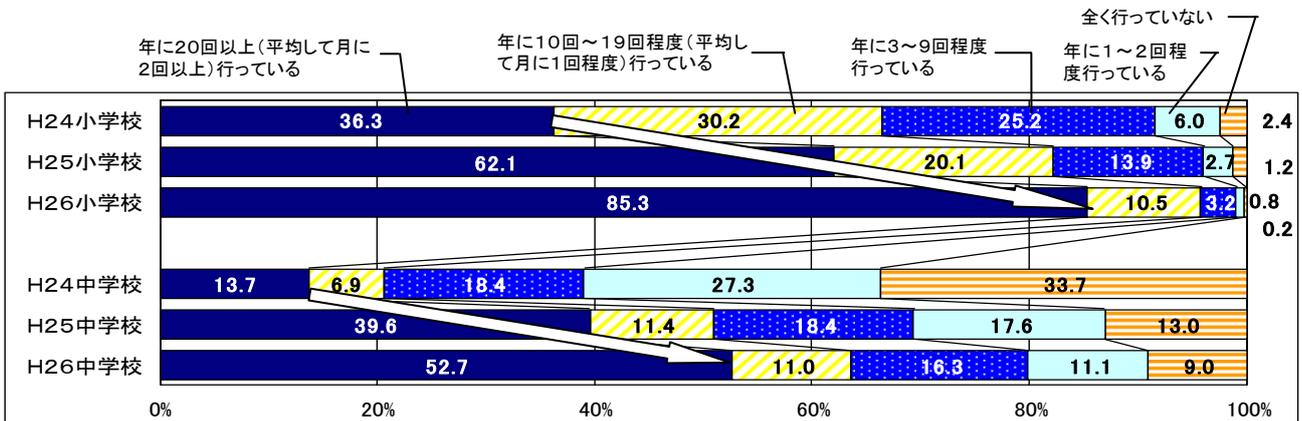
[グラフ 14-3] レポートや作文など書いて表現する活動を取り入れた授業を行っていますか。 ※教師意識調査より 平成 24～26 年度の経年比較



[グラフ 15-1] 授業で電子黒板や大型テレビなどが使われるようになって、今までより授業の内容が分かりやすくなった。平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較

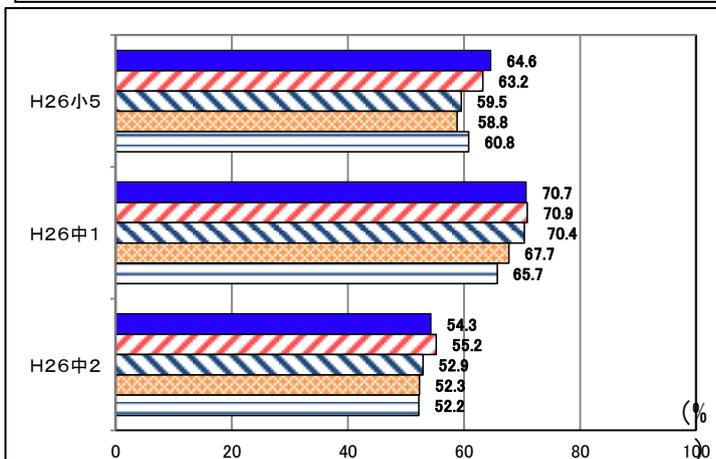


[グラフ 15-2] ICT 機器を活用した授業を行っていますか。 ※教師意識調査より 平成 24～26 年度の経年比較



※本調査における ICT 機器とは、コンピュータ、プロジェクター、電子黒板、実物投影機、書画カメラ、児童用学習用 PC、デジタルビデオカメラなどを指す。

[グラフ 15-3] 「授業で電子黒板や大型テレビなどが使われるようになって、今までより授業の内容が分かりやすくなった」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



※児童生徒回答は、上から 「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」「どちらかといえば、そう思わない」「そう思わない」「そういう授業を受けたことがない」の順

- ・ 「同一学年」の経年比較において、どの学年も「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が、年々増加している。[グラフ 15-1]
- ・ 教師の意識調査をみると、小学校、中学校ともに ICT 機器の使用頻度は高くなっており、学習場面に応じた活用も浸透してきている。[グラフ 15-2]
- ・ 児童の意識と教科の平均正答率(国語、算数・数学)とのクロス集計でも、「分かりやすくなった」という意識が高いほど、正答率は高い傾向にある。教師の活用頻度にもみられるように、授業において、効果的な活用が行われている状況が推測される。

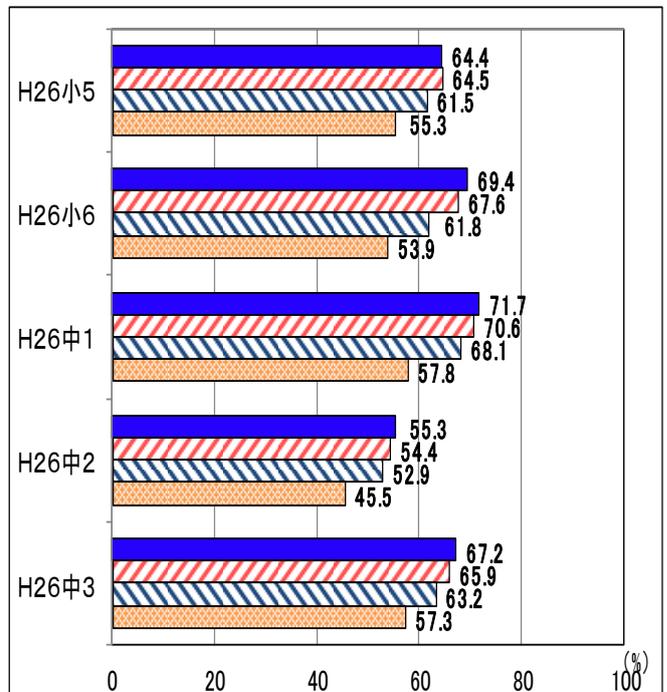
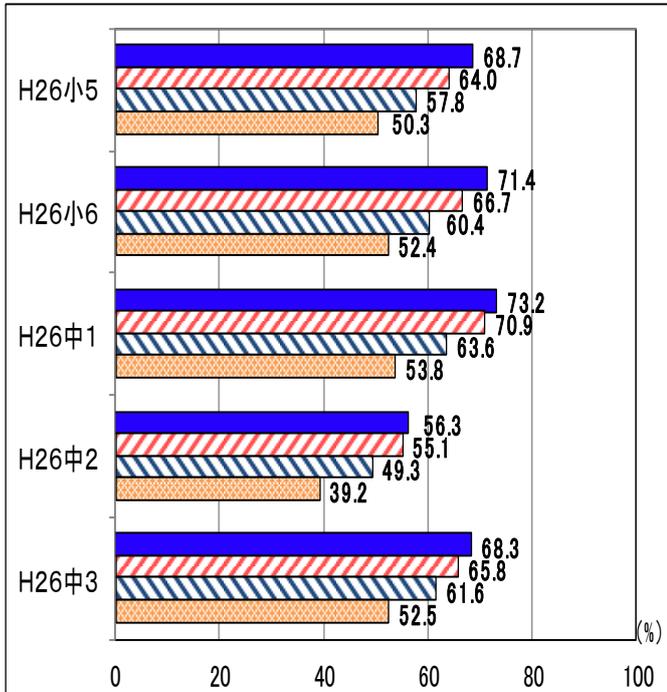
[グラフ 15-3]

[グラフ 17] 「普段の授業では、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

[グラフ 18] 「普段の授業では、児童生徒の間に話し合う活動をよく行っていると思う」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

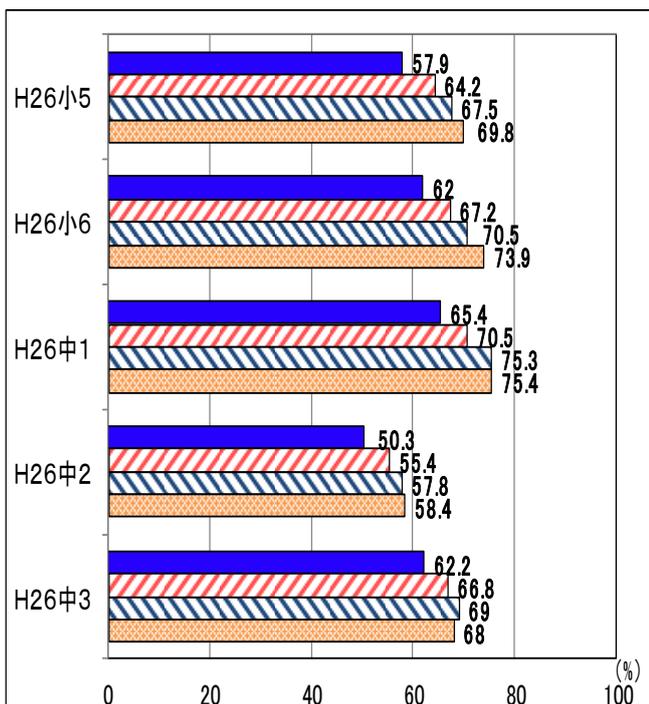
※児童生徒回答は、上から

「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまらない」、「当てはまらない」の順



[グラフ 19] 「学校の授業などで、自分の考えをほかの人に説明したり、文章に書いたりするのは難しい」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

- 「授業中、自分の考えを発表する機会があたえられていると思う」、という設問では、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の正答率は、そうではない児童生徒と比較すると高い傾向にある。[グラフ 17]



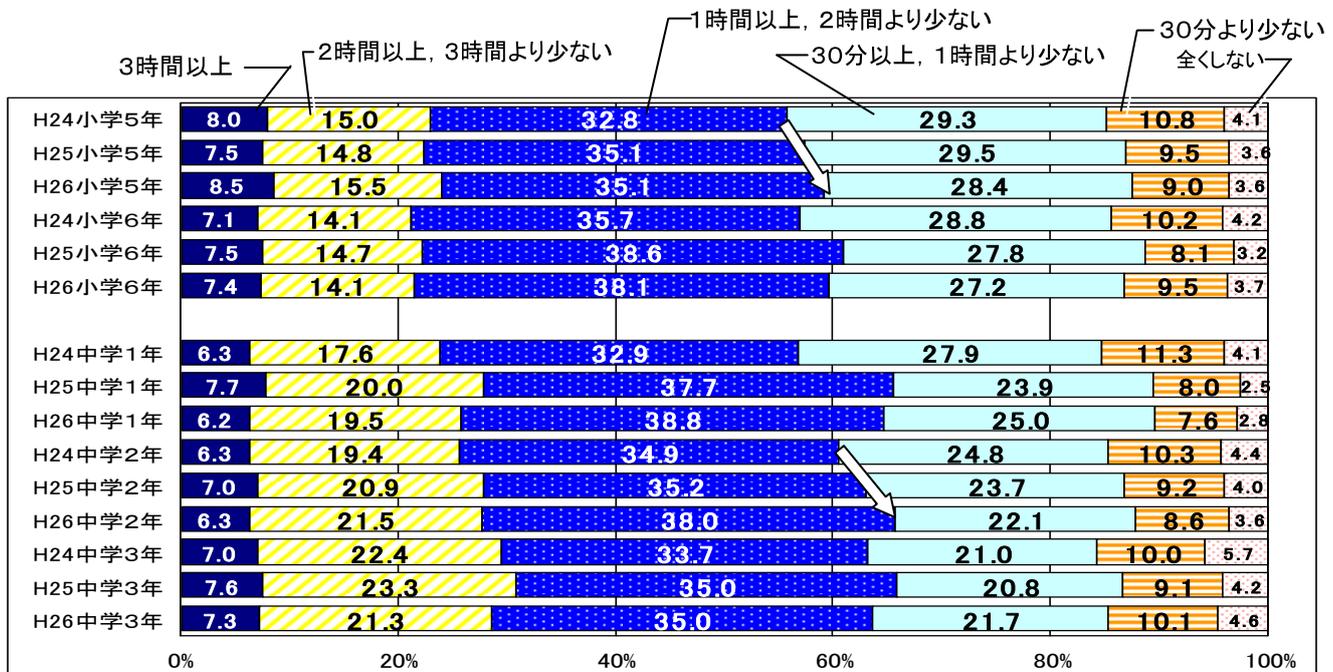
- 「授業中、話し合う活動をよく行っていると思う」という設問でも、同様な傾向がみられる。[グラフ 18]

- 自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることに苦手意識を持っている児童生徒の正答率は、低い傾向にある。[グラフ 19]

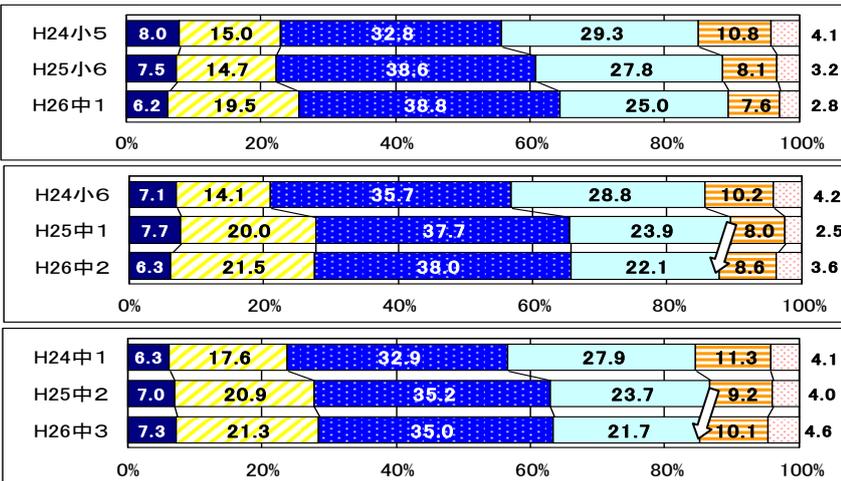
(3) 家庭での学習について

- 家庭での勉強時間は、平日、土・日ともに、1時間以上取り組んでいる児童生徒の割合は、ほぼ昨年並みである。[グラフ 20, 21]
- 家庭学習の取組については、「自分で計画を立てて勉強している」「学校の授業の復習をしている」の質問に対して、一部の学年を除いて、「している」と回答した児童生徒の割合が増加している。[グラフ 22, 23]
- 「学校の宿題をしている」の質問に対しては、小学5年、中学3年で「している」と回答した児童生徒の割合が減少しているが、他の学年は前年並みである。[グラフ 24]
- 教科平均正答率との相関を見ると、「自分で計画を立てて勉強している」「学校の授業の復習をしている」の質問に対して、「している」、「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒の正答率が高い傾向にある。[グラフ 26, 27]

[グラフ 20-1] 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む) 平成 24~26 年度「同一学年」の経年比較

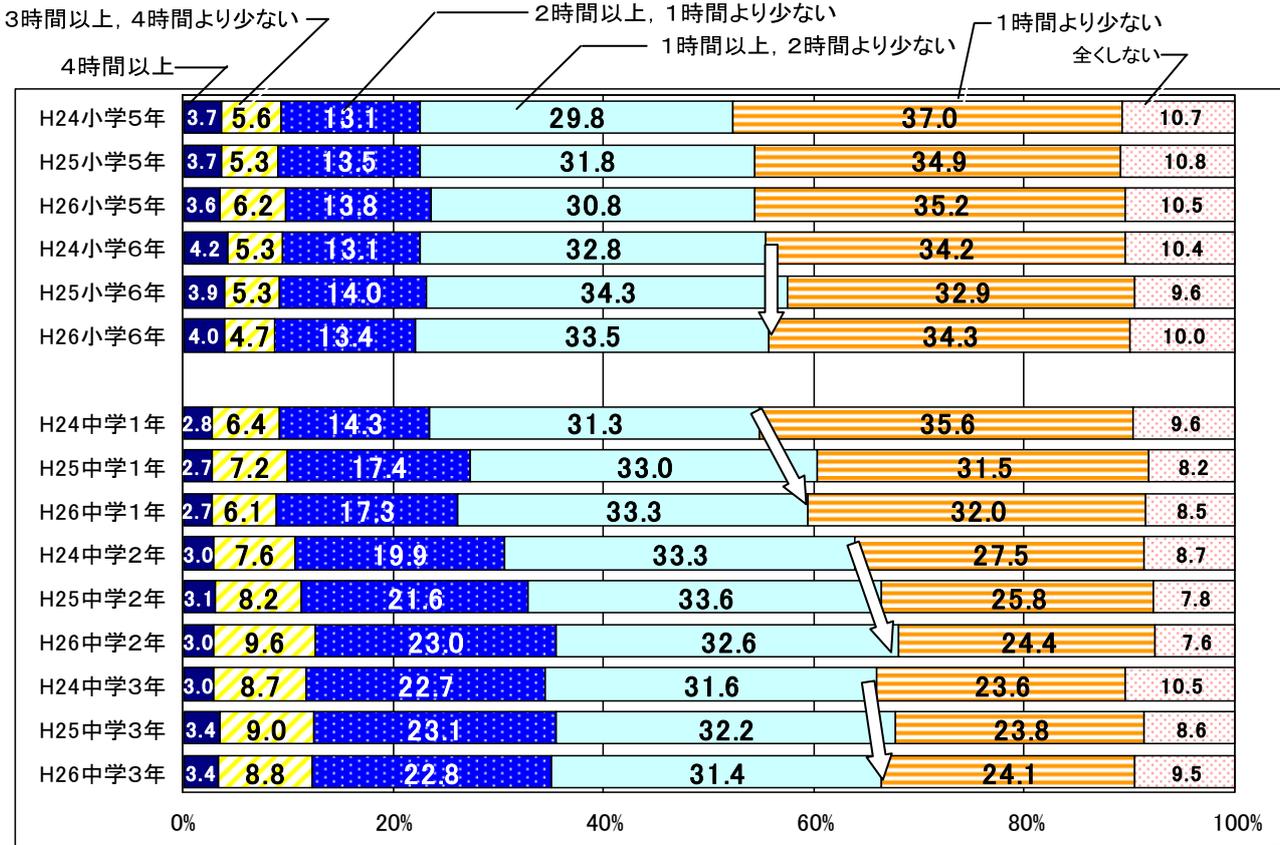


[グラフ 20-2] 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む) 平成 24~26 年度「同一児童生徒」の経年比較

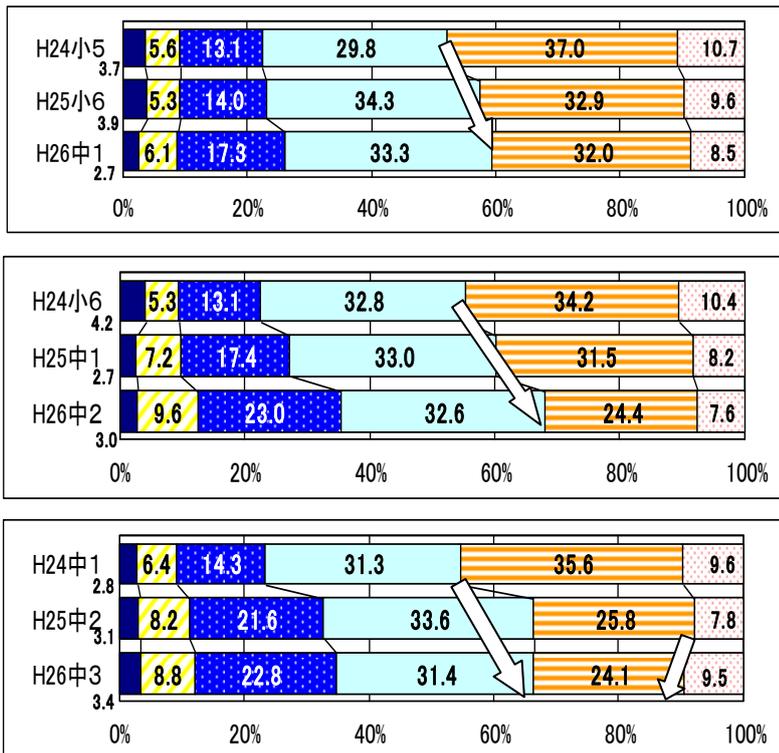


- ・ 「同一学年」の経年比較において、小学5年、中学2年で、改善の傾向がみられる。[グラフ 20-1]
- ・ 「同一児童生徒」の経年変化をみると、中学1年生では、年度推移に伴い学習時間は増加する傾向がみられる。中学2年生、3年生では、ほぼ昨年並だが、「30分より少ない」「全くしない」と回答した生徒の割合が、若干ではあるが、増加している。[グラフ 20-2]

[グラフ 21-1] 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)
平成 24~26 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 21-2] 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)
平成 24~26 年度「同一児童生徒」の経年比較



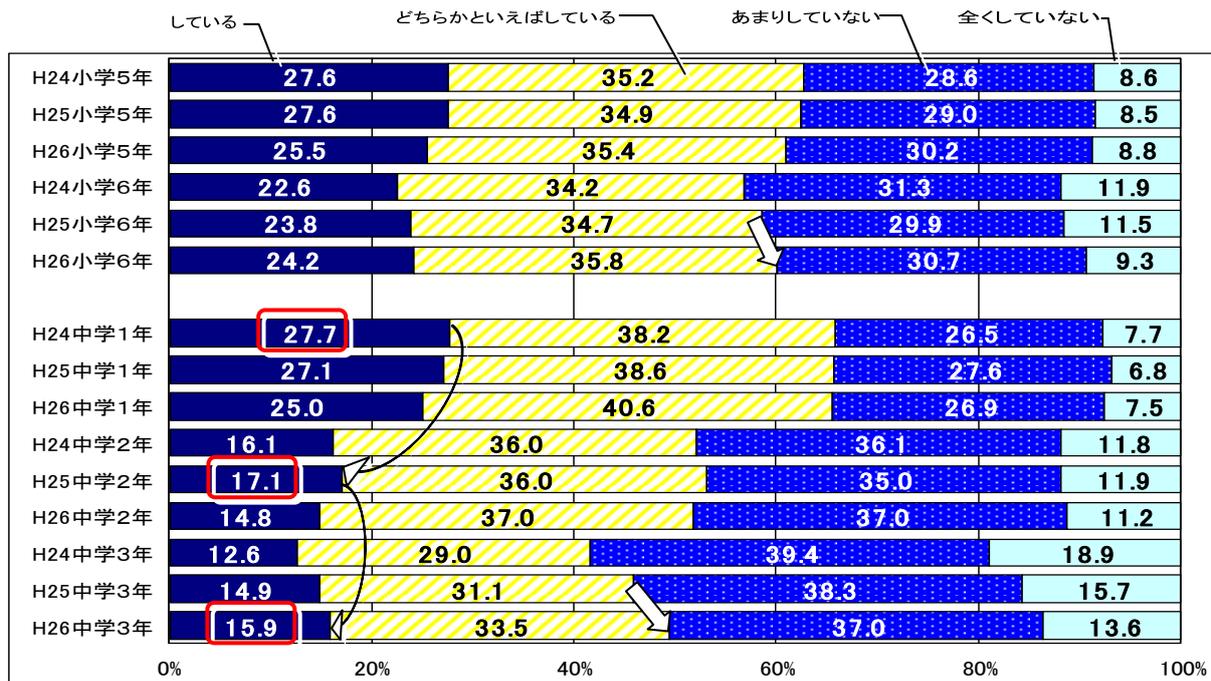
- 「同一学年」の経年比較において、中学2年で、改善の傾向がみられる。小学6年、中学1年、3年で、若干ではあるが、1時間以上学習していると回答した児童生徒の割合が減少している。

[グラフ 21-1]

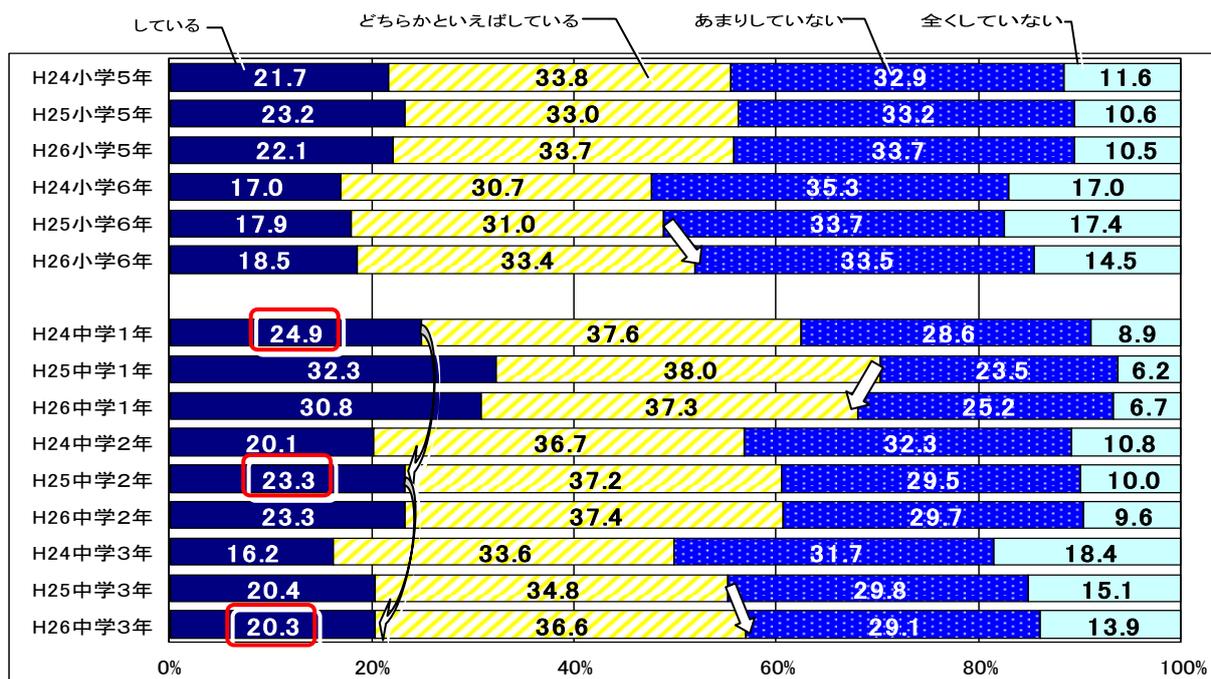
- 「同一児童生徒」の経年変化をみると、どの学年も学年進行に伴い、学習時間は増加する傾向にある。しかし、中学3年生では、「全くしない」と回答した生徒の割合が、平成25年度と比較して1.7ポイント増加している。学習意欲についても、両極化が見られる。

[グラフ 21-2]

[グラフ 22] 自分で計画を立てて勉強している。平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較

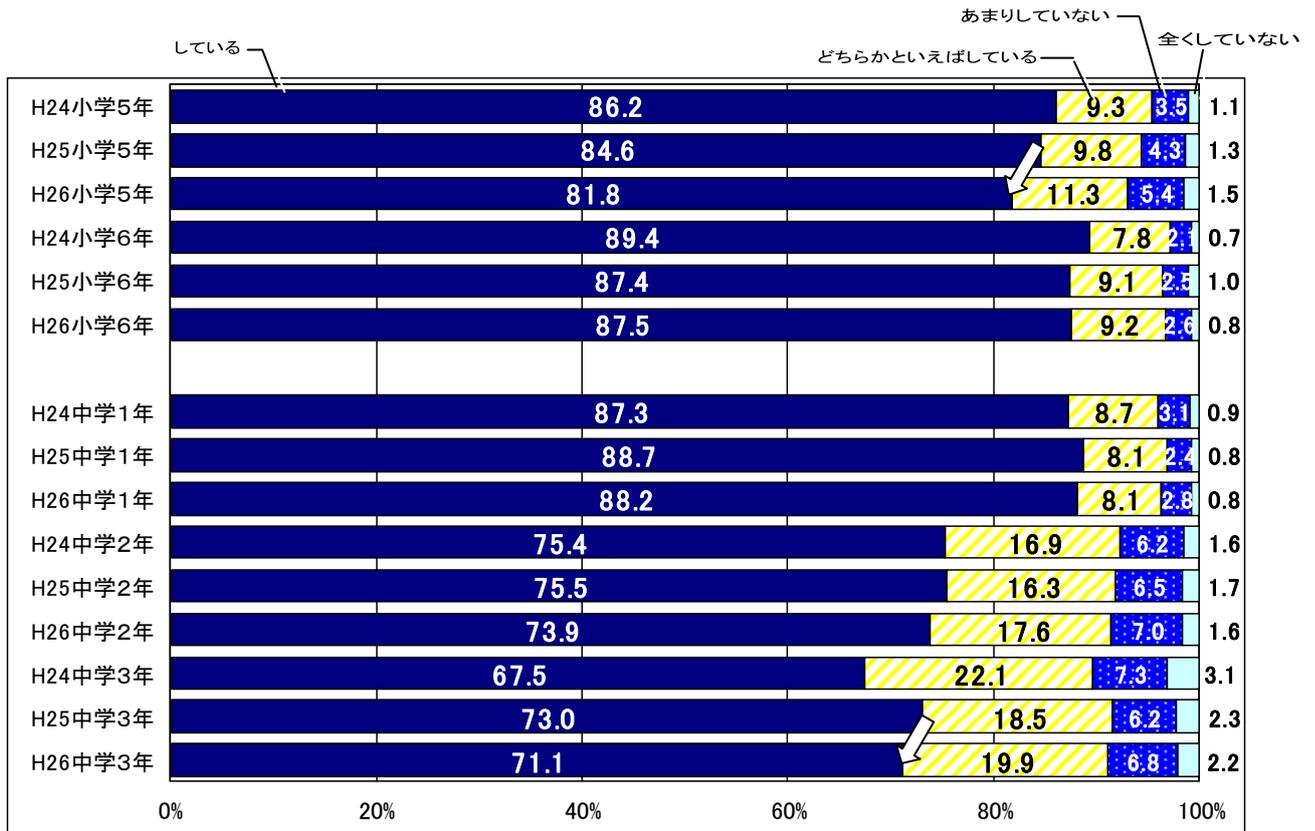


[グラフ 23] 学校の授業の復習をしている。平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較

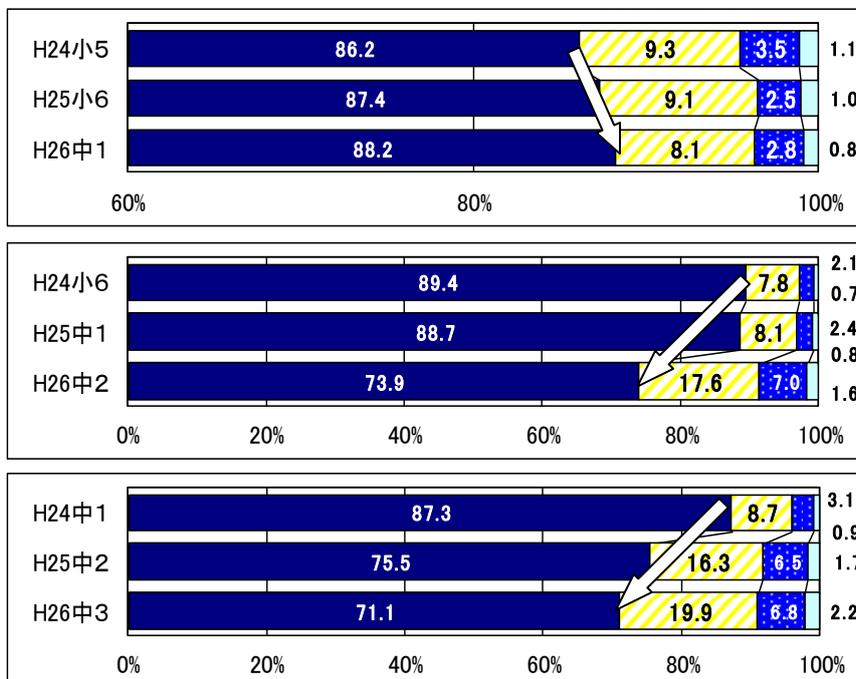


- ・ 設問「自分で計画を立てて勉強している」では、「同一学年」の経年比較において、小学6年、中学3年で、改善の傾向がみられる。しかしながら、同一児童生徒の意識の変容を学年進行でみた場合は、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合が年々減少している。[グラフ 22]
- ・ 設問「学校の授業の復習をしている」では、「同一学年」の経年変化において、設問「自分で計画を立てて勉強している」同様、小学6年、中学3年で、改善の傾向がみられる。また、学年進行でみた場合も、グラフ 14 同様、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合が年々減少している。[グラフ 23]

[グラフ 24-1] 学校の宿題をしている。平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 24-2] 学校の宿題をしている。平成 24～26 年度「同一児童生徒」の経年比較



・ 「同一学年」の経年比較において、小学6年、中学1年は、ほぼ前年度並みだったのに対して、他の学年では、「している」と回答した児童生徒の割合が減少している。

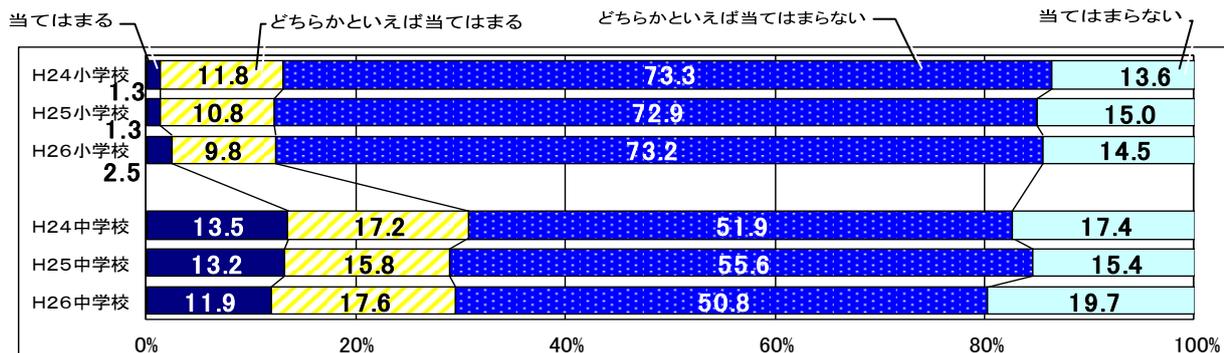
[グラフ 24-1]

・ 「同一児童生徒」の経年変化をみると、小学校では、学年進行に伴い、「している」と回答した児童の割合が、増加しているが、中学校では、減少している。

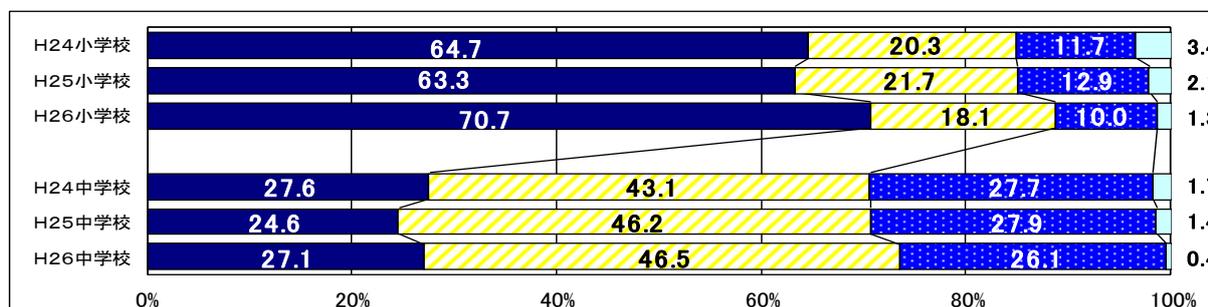
特に、「あまりしていない」「全くしていない」と回答した生徒が、中学2年生で7.6ポイント、中学3年生で、9ポイントである点は、今後の改善が望まれる。

[グラフ 24-2]

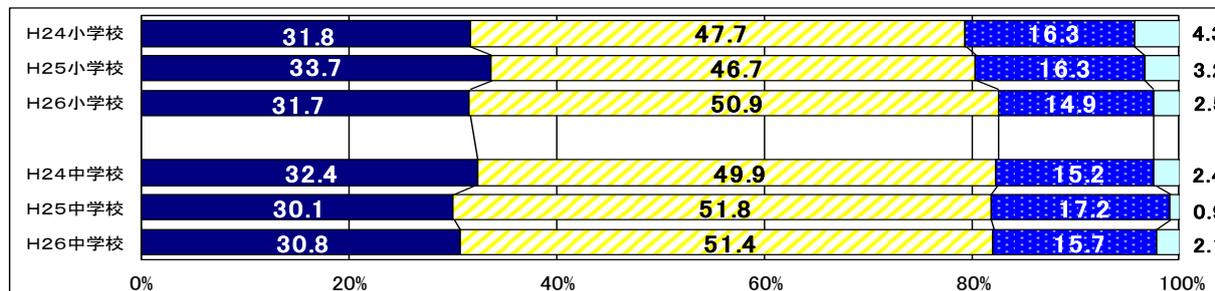
[グラフ 25-1] 予習的な内容の宿題を出していますか。
※教師意識調査より 平成 24～26 年度の経年比較



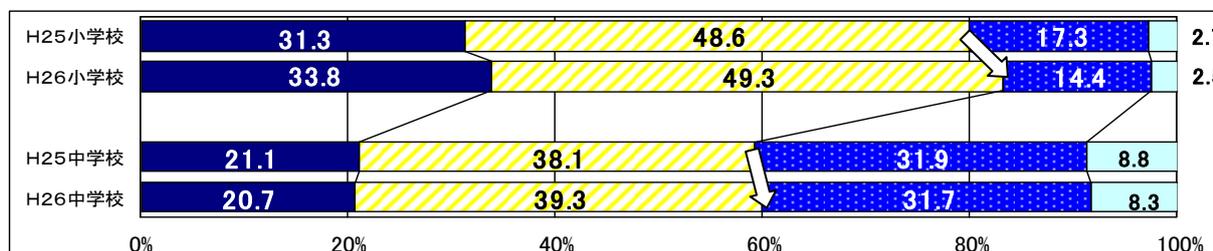
[グラフ 25-2] 復習的な内容の宿題を出していますか。
※教師意識調査より 平成 24～26 年度の経年比較



[グラフ 25-3] 家庭での学習方法について、具体例を挙げながら指導していますか。
※教師意識調査より 平成 24～26 年度の経年比較

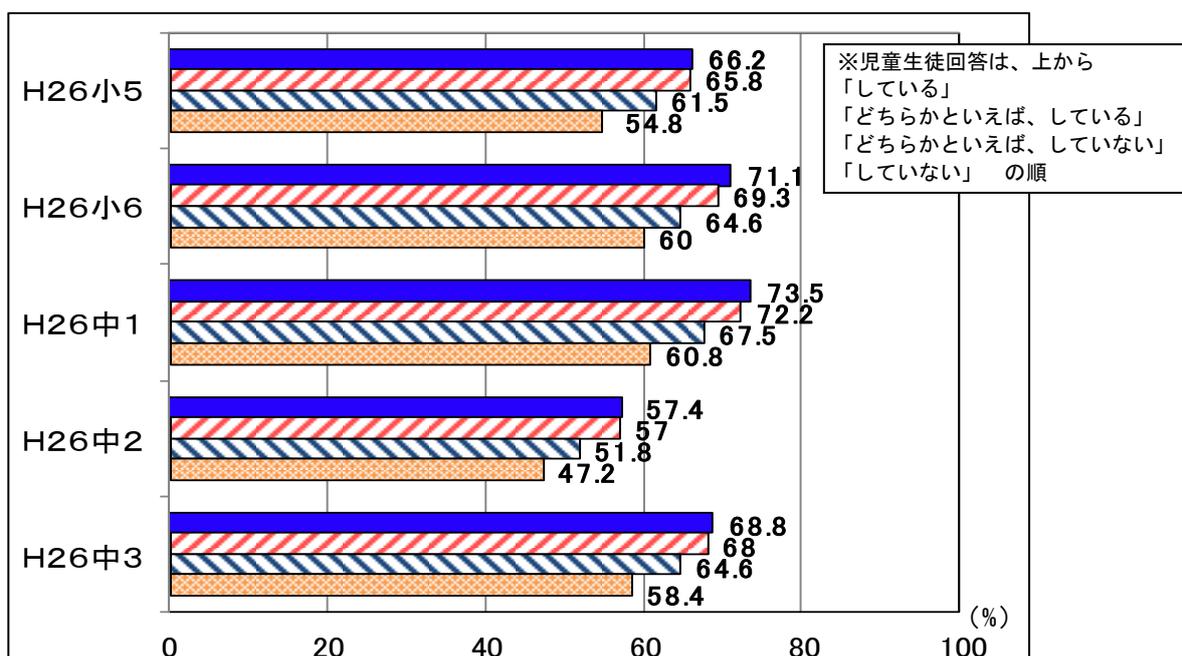


[グラフ 25-4] 宿題の出し方について、校内の教職員で共通理解を図っていますか。
※教師意識調査より 平成 25～26 年度の経年比較

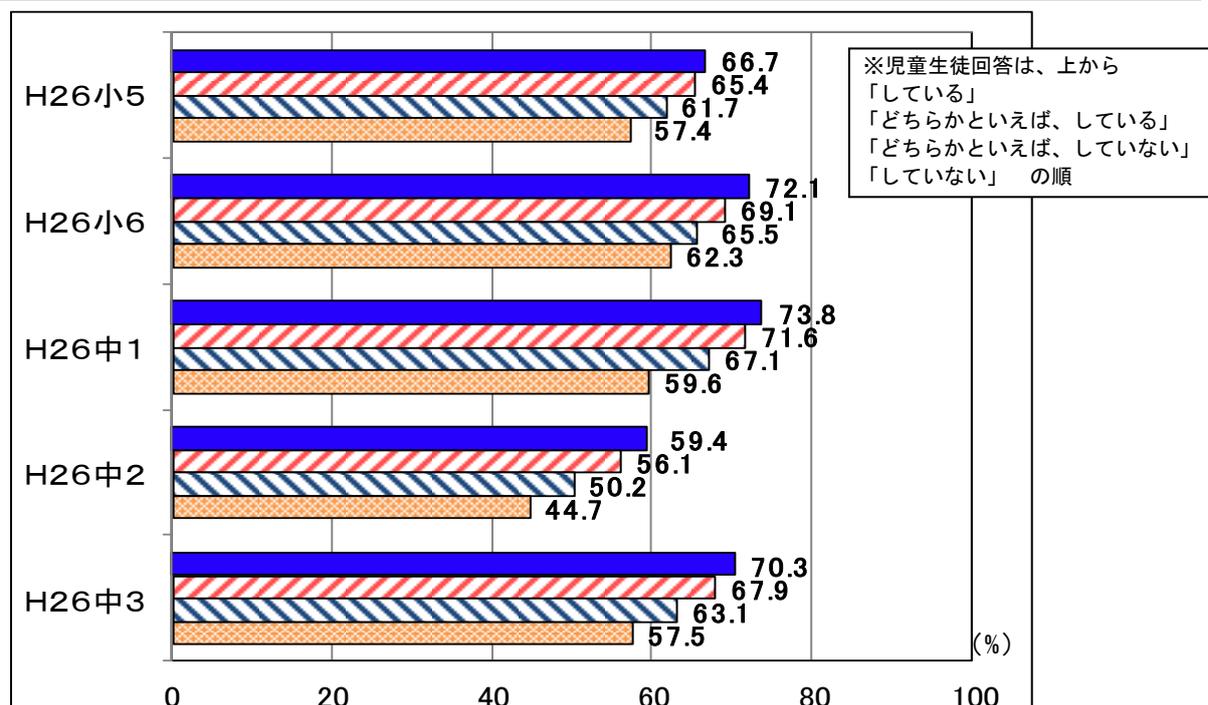


- 小学校では、予習よりも復習に力点を置いて宿題を出している。[グラフ 25-1, 2]
- 家庭学習の在り方については、小学校、中学校、どちらも8割を超える教師が、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」と回答しており、小中ともに、家庭学習を重要視している状況が分かる。[グラフ 25-3]
しかし、その内容や出し方については、小中ともに、前年度より改善の傾向がみられるものの、小学校では、8割以上の教師が職員間での共通理解を図っているのに対して、中学校では、6割程度でありその意識が低い。もちろん同じ教科担当間での共通理解は図れているものと思われるが、家庭学習の充実の観点からも、今後、改善していく必要がある。[グラフ 25-4]

[グラフ 26] 「自分で計画を立てて勉強している」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



[グラフ 27] 「学校の授業の復習をしている」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



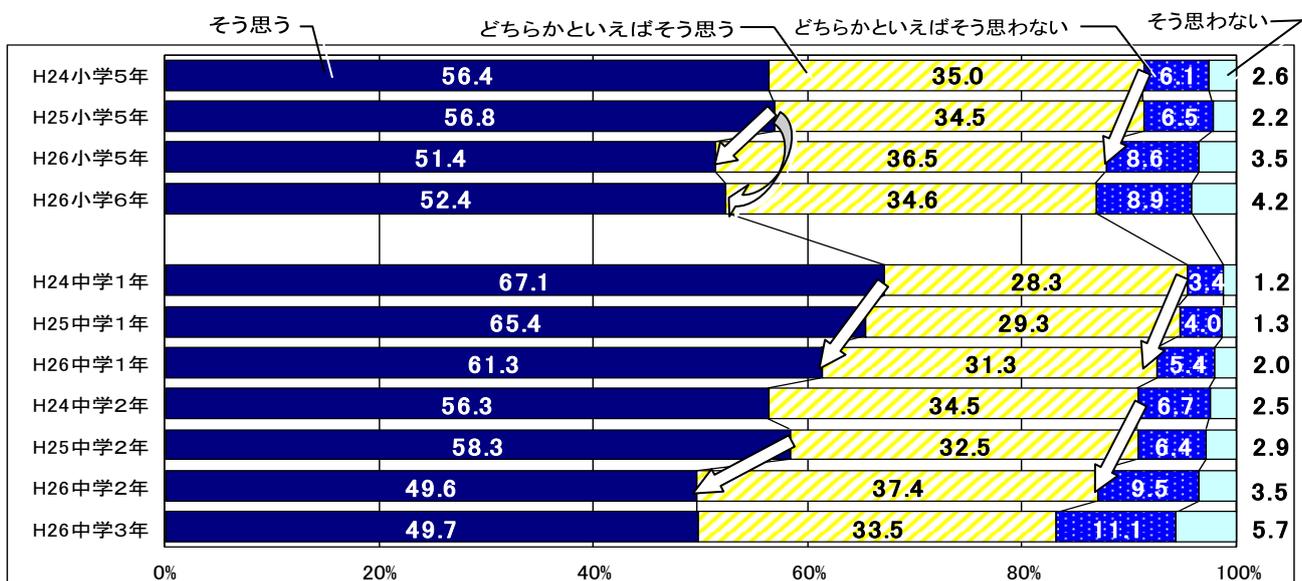
- ・ 設問「自分で計画を立てて勉強している」、「学校の授業の復習をしている」とともに、「している」、「どちらかといえばしている」と回答した児童生徒の正答率は、高い傾向にある。
- ・ この傾向は、設問「学校の授業の予習をしている」、「学校の宿題をしている」、「苦手な教科の勉強をしている」、「テストで間違えた問題について、間違えたところを後で勉強している」についても同様の傾向がみられる。

グラフ 25 の結果と合わせて考えると、主体的な学習を進めていく手立てを、各学校で検討していくことが望まれる。[グラフ 26,27]

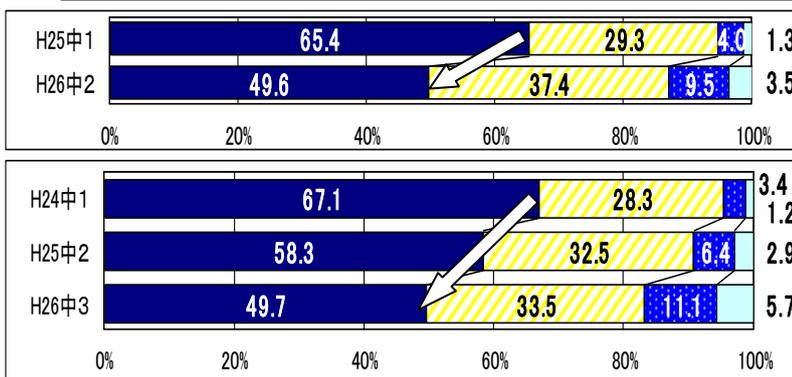
(4) 学校生活、家庭生活に係る児童生徒の意識について

- 学校生活については、「学校での生活は楽しい」の質問に対して、「そう思う」と回答した児童生徒は、「同一学年」、「同一児童生徒」の経年比較ともに、全ての学年で減少している。[グラフ 28]
- 「学校では落ち着いて勉強することができている」の質問に対して、中学2年で「そう思う」と回答した児童生徒の割合が減少している。[グラフ 29]
- 家庭生活については、平日1日あたりのテレビやビデオ・DVDを視聴する時間が2時間以上の児童生徒の割合が、全ての学年で減少している。逆に、平日1時間以上テレビゲームをする児童生徒の割合は、全ての学年で増加している。また、テレビの視聴時間、ゲームをする時間が長いほど、教科平均正答率が低く、短いほど高い傾向がある。[グラフ 30~31]
- メールやインターネットの利用についても、正答率との相関関係がみられた。[グラフ 32]
- 「就寝時刻」についての設問では、どの学年も就寝時刻が遅くなる傾向がある。[グラフ 33]
- 「朝食を毎日食べている」の質問については、学年進行に伴い、「している」と回答した児童生徒の割合が減少している。[グラフ 34]
- 「新聞やテレビのニュースなどに関心がある」の質問については、どの学年も「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が増加している。[グラフ 35]
- 「将来の夢や目標をもっている」の質問については、年次進行に伴い、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が減っている。[グラフ 36]

[グラフ 28-1]学校での生活は楽しい 平成 24~26 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 28-2]学校での生活は楽しい 平成 24~26 年度「同一児童生徒」の経年比較



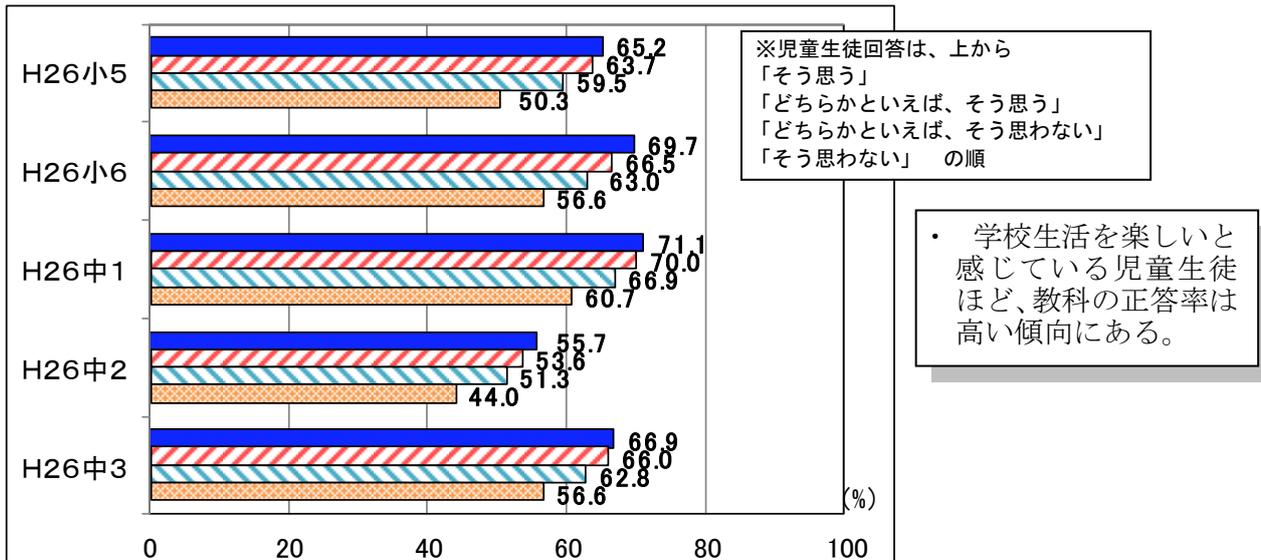
- ・ 「同一学年」の経年比較において、全ての学年で、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が減少している。

[グラフ 28-1]

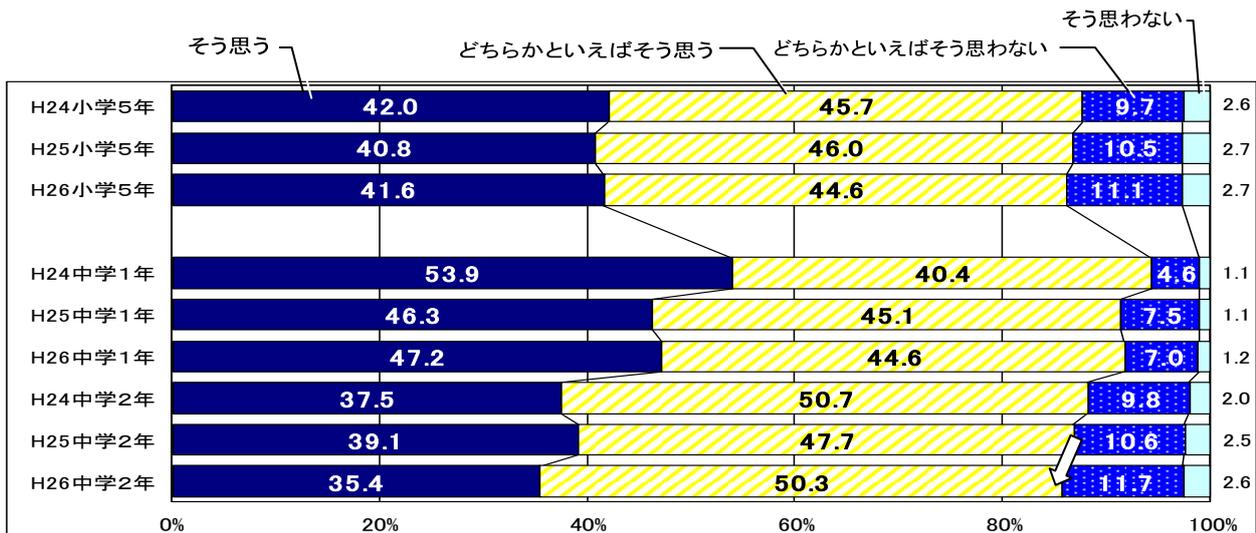
- ・ 「同一児童生徒」の経年変化をみると、小中学校ともに、学年進行に伴い、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が年々減少している。

[グラフ 28-2]

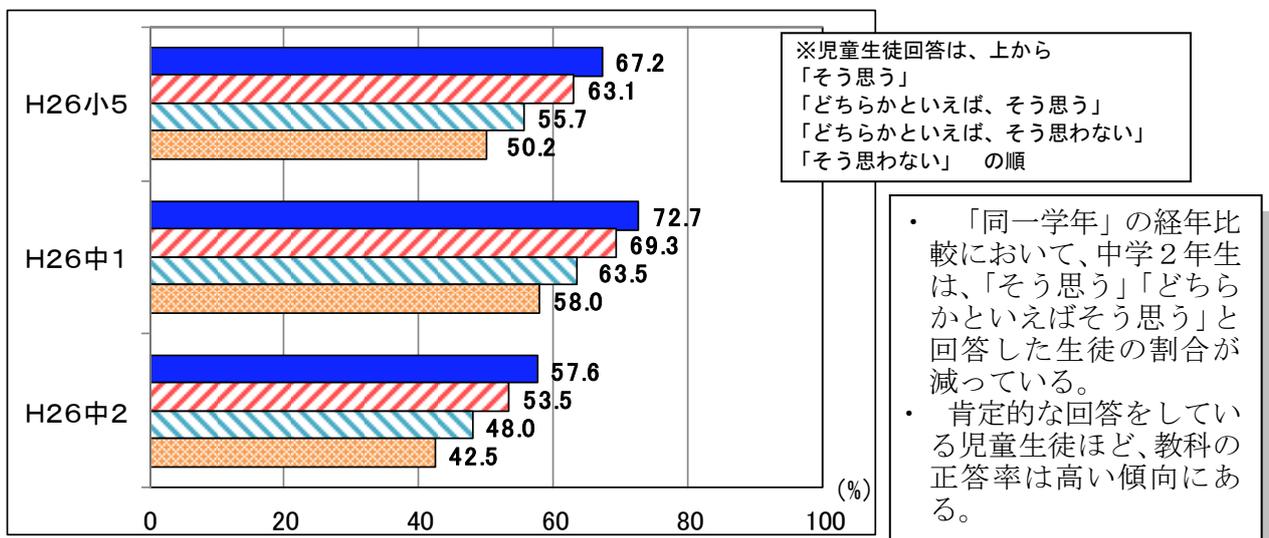
[グラフ 28-3] 「学校での生活は楽しい」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



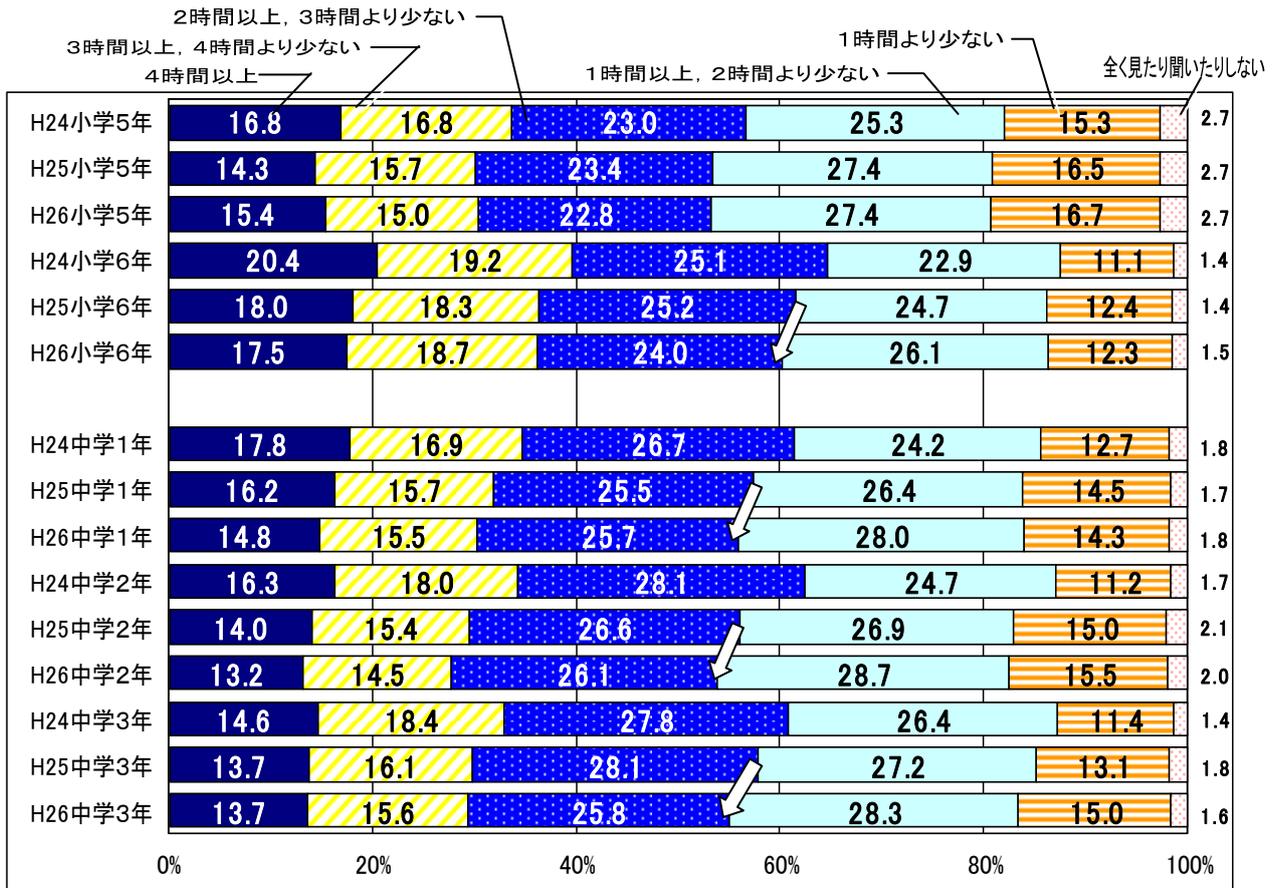
[グラフ 29-1] 学校では落ち着いて勉強することができる 平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較



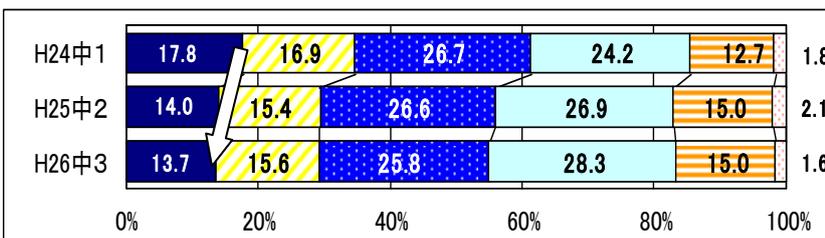
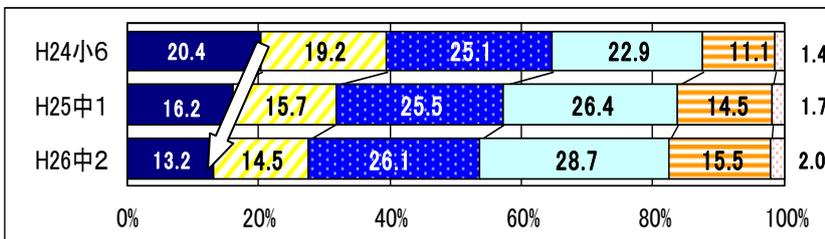
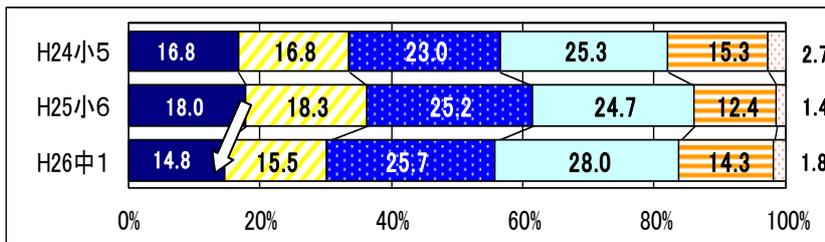
[グラフ 29-2] 「学校では落ち着いて勉強することができる」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



[グラフ 30-1] 1日あたりテレビやビデオ・DVDを視聴する時間(月～金曜日)
平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較(テレビゲームをする時間は除く)

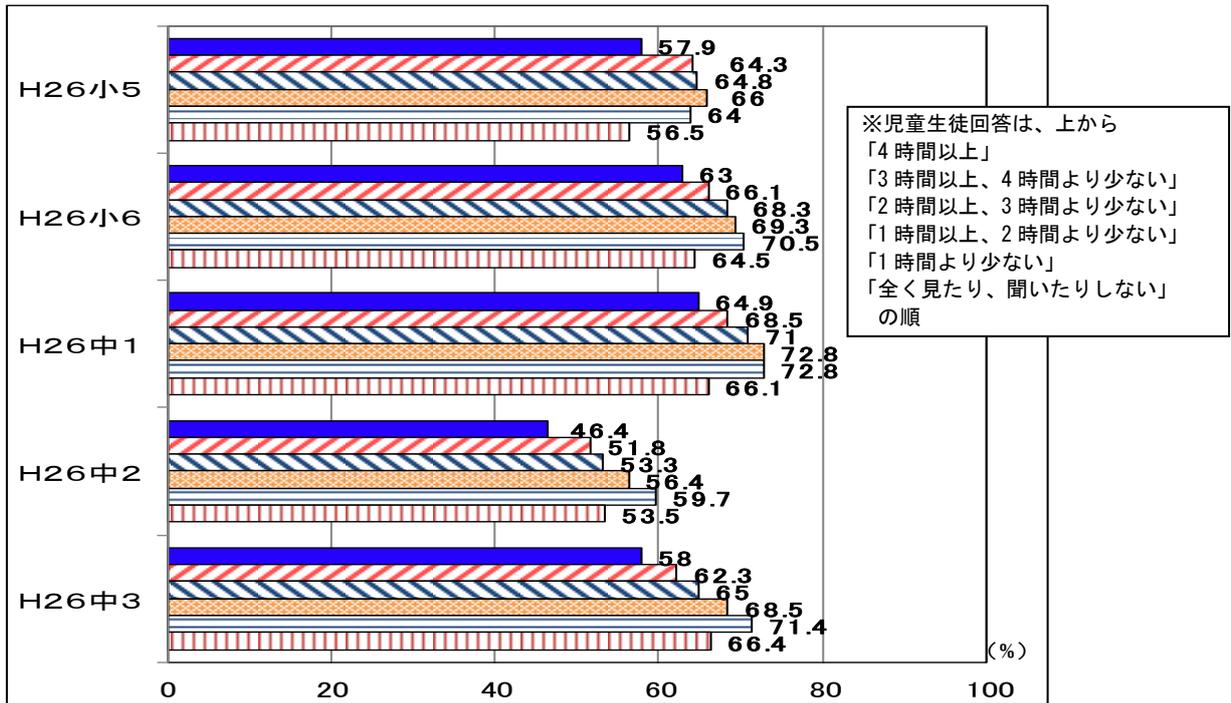


[グラフ 30-2] 1日あたりテレビやビデオ・DVDを視聴する時間(月～金曜日)
平成 24～26 年度「同一児童生徒」の経年比較(テレビゲームをする時間は除く)

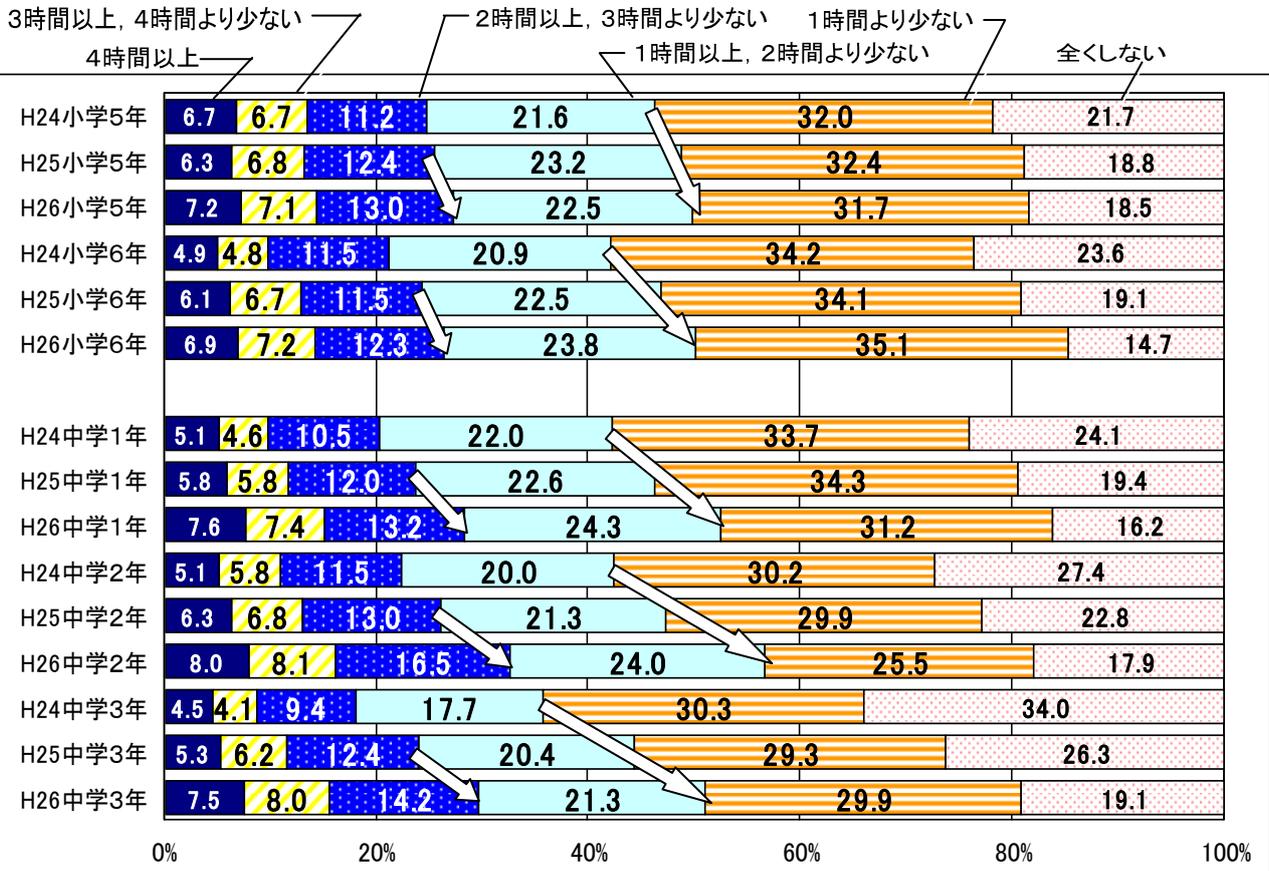


- 「同一学年」の経年比較において、小学5年生以外は、2時間未満の児童生徒の割合が、増えている。[グラフ 30-1]
- 「同一児童生徒」の経年比較において、小学生では、年次進行に伴う特徴的な変化はみられないが、中学生では、年次進行に伴い、テレビ、DVD等の視聴にかかる時間は短くなる傾向にある。[グラフ 30-2]
- 正答率との相関関係についても、テレビ等の視聴時間と学力には明確な相関関係がみられる。次項[グラフ 30-3]

[グラフ 30-3] 「1日あたりテレビやビデオ・DVDを視聴する時間(月～金曜日 テレビゲームをする時間は除く)」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

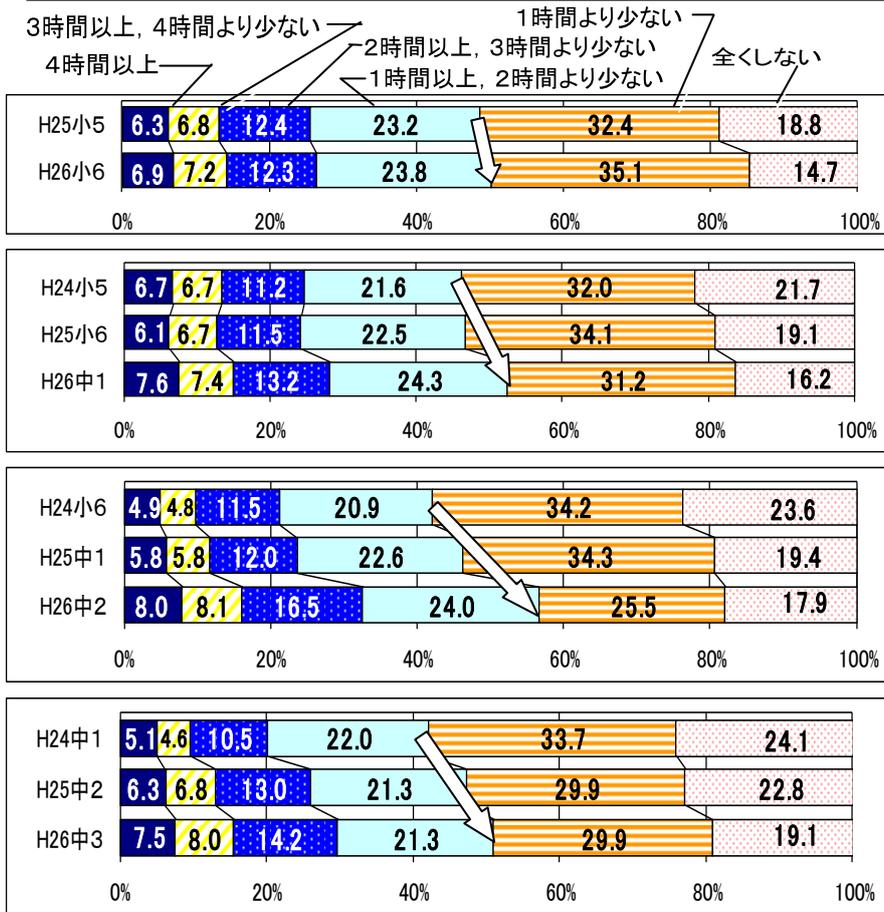


[グラフ 31-1] 1日あたりテレビゲームをする時間(月～金曜日)
 平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む)



[グラフ 31-2] 1日あたりテレビゲームをする時間(月～金曜日)

平成 24～26 年度「同一児童生徒」の経年比較(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む)



・ 「同一学年」の経年比較において、全ての学年で「2時間以上」テレビゲームをしている児童生徒の割合が増えている。(年々増加している。) [グラフ 31-1]

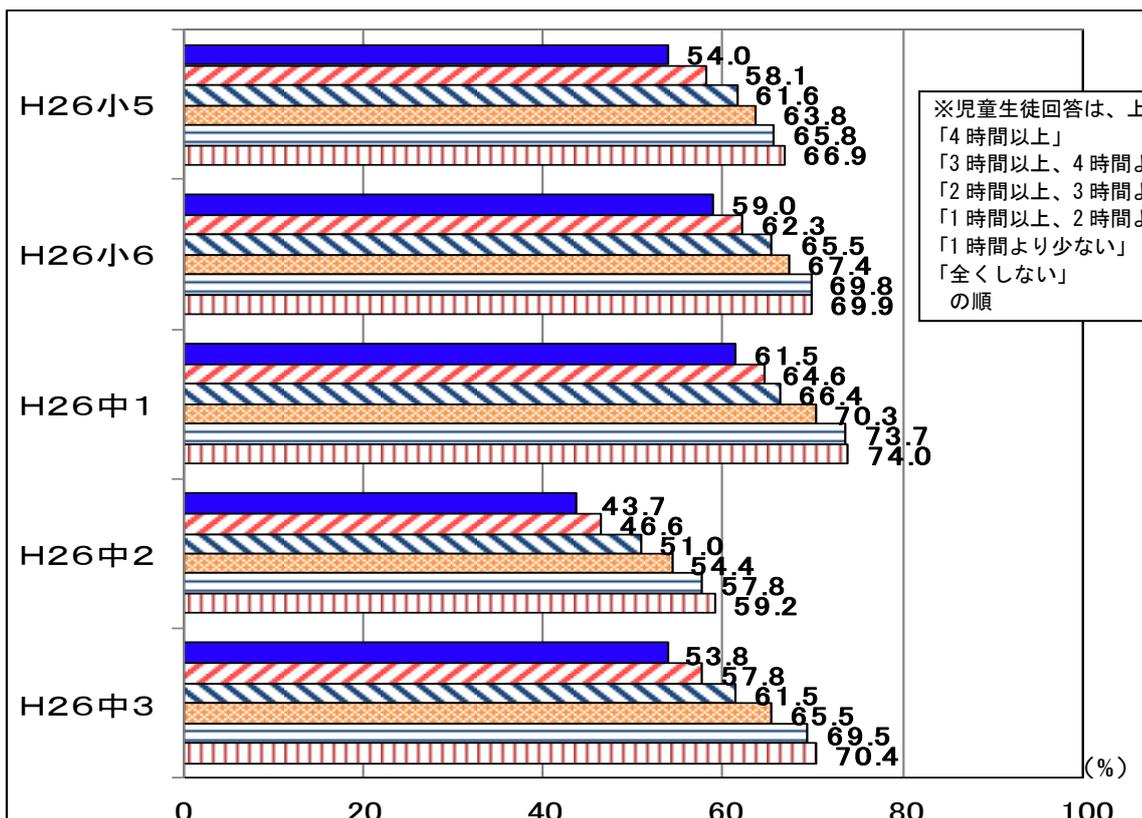
・ 「同一児童生徒」の経年比較においても同様に、どの学年も学年進行に伴い、長時間、テレビゲームをする児童生徒の割合が増えている。中学校では、どの学年も、1時間以上ゲームをしている生徒の割合が5割を超えている。

[グラフ 31-2]

・ 正答率との相関関係についても、テレビ等の視聴と同じで、長時間ゲームをしている児童生徒ほど、正答率が低い傾向にある。 [グラフ 31-3]

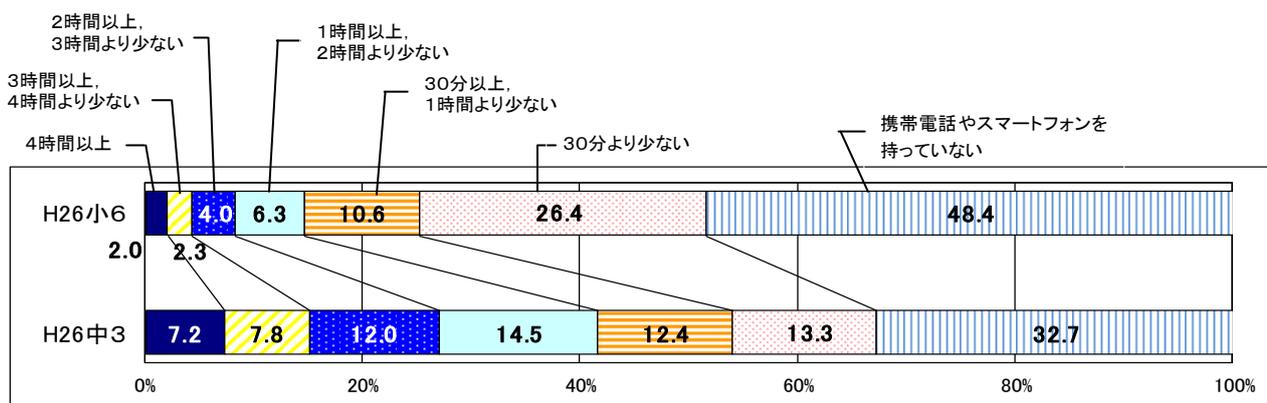
[グラフ 31-3] 「1日あたりテレビゲームをする時間(月～金曜)」の質問に対する回答と教科

(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



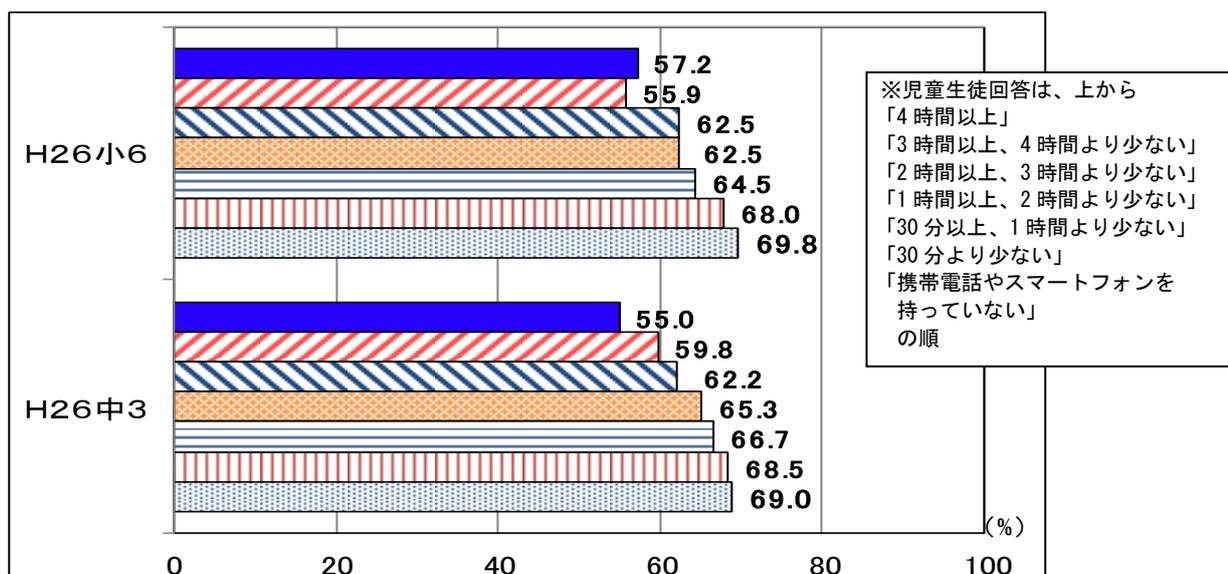
※児童生徒回答は、上から「4時間以上」「3時間以上、4時間より少ない」「2時間以上、3時間より少ない」「1時間以上、2時間より少ない」「1時間より少ない」「全くしない」の順

[グラフ 32-1] 段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをするか ※今年度、初めて調査項目に加わった (携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除く。)



※全国調査のみの質問項目であるため、調査対象学年は、小学6年と中学3年。

[グラフ 32-2] 「普段(月曜日から金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをするか」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



・ 平日、1時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール, インターネットをしていると回答した児童生徒の割合は、小学校6年生で、14.6ポイント。中学3年生で、41.5ポイント。[グラフ 32-1]

・ 「携帯電話やスマートフォンを持っていない」と回答した児童生徒の割合は、小学校6年生で、48.4ポイント。中学3年生で、32.7ポイント。平成25年度までの携帯電話、スマートフォンの所持率と比較すると、年々持っている児童生徒の割合が、増加している。

[グラフ 32-2]

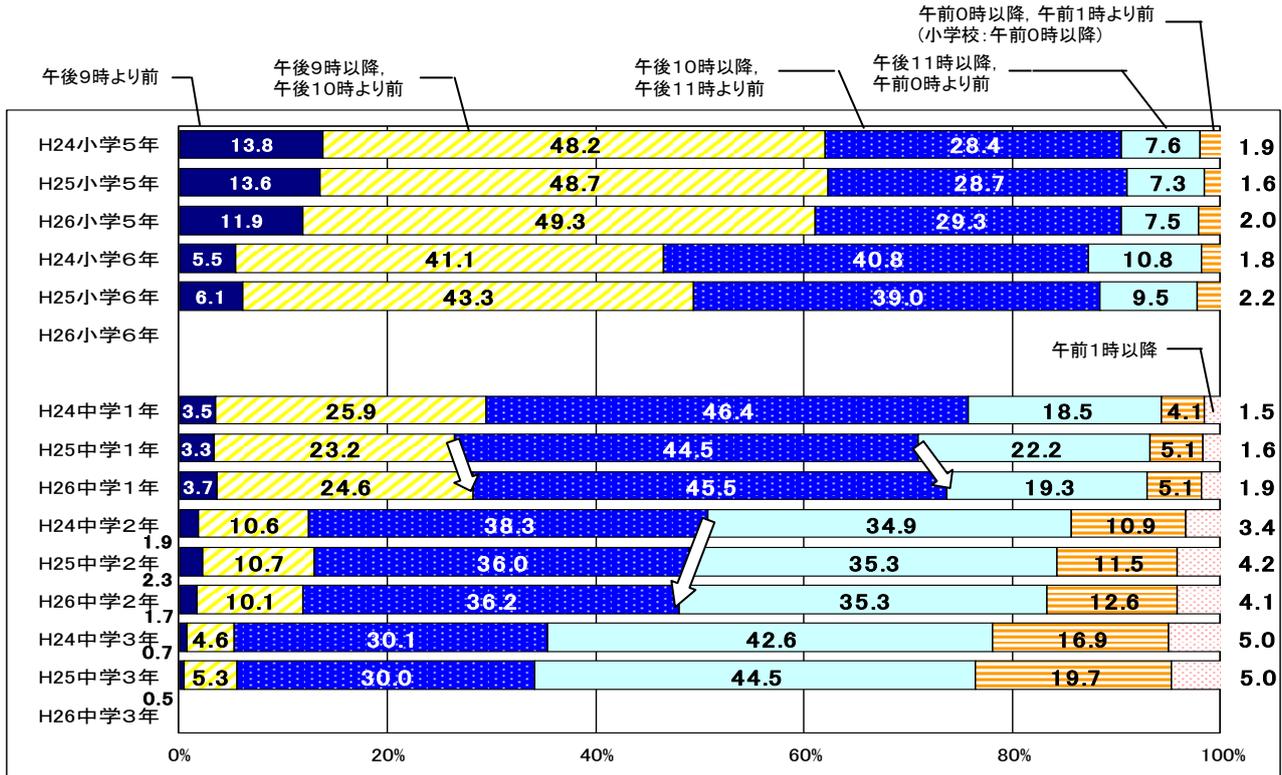
《参考》 昨年度までの調査項目「携帯電話やスマートフォンで通話やメールをしていますか。」に対して、「携帯電話やスマートフォンを持っていない」と回答した児童生徒の割合

◎小学6年生-H24 71.2ポイント→ H25 61.5ポイント

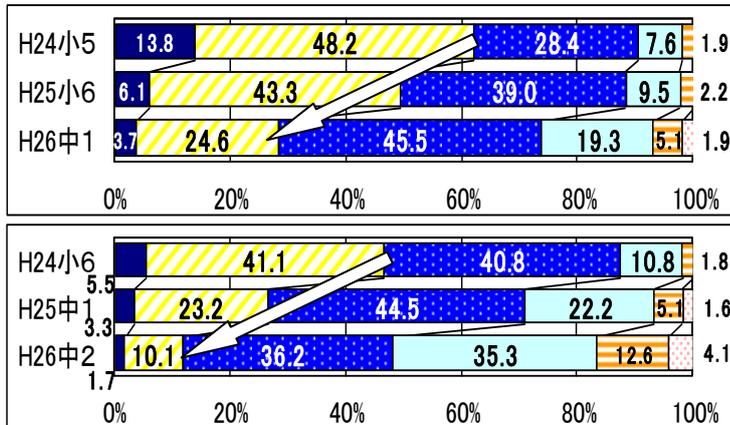
◎中学3年生-H24 58.5ポイント→ H25 53.7ポイント

・ 正答率との相関を見ると、長時間メールやインターネットしていると回答した児童生徒ほど、正答率が低い傾向がみられる。この結果に、携帯電話やスマートフォンの所持率の高さを合わせて考えると、早急に、学校での対応策を検討しなければならないと思われる。

[グラフ 33-1] 平日の就寝時刻(月～金曜日) 平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較



[グラフ 33-2] 平日の就寝時刻(月～金曜日)の平成 24～26 年度「同一児童生徒」の経年比較



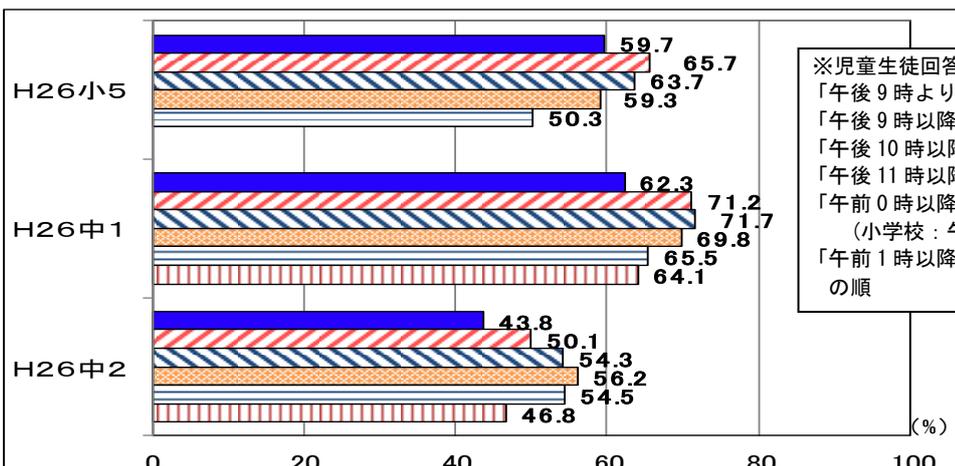
・ 「同一学年」の経年比較において、中学1年で改善の傾向がみられるものの、全体的に就寝時刻が遅くなっている。

[グラフ 33-1]

・ 「同一児童生徒」の経年比較においても同様で、どの学年も学年進行に伴い、就寝時刻が遅くなっている。[グラフ 33-2]

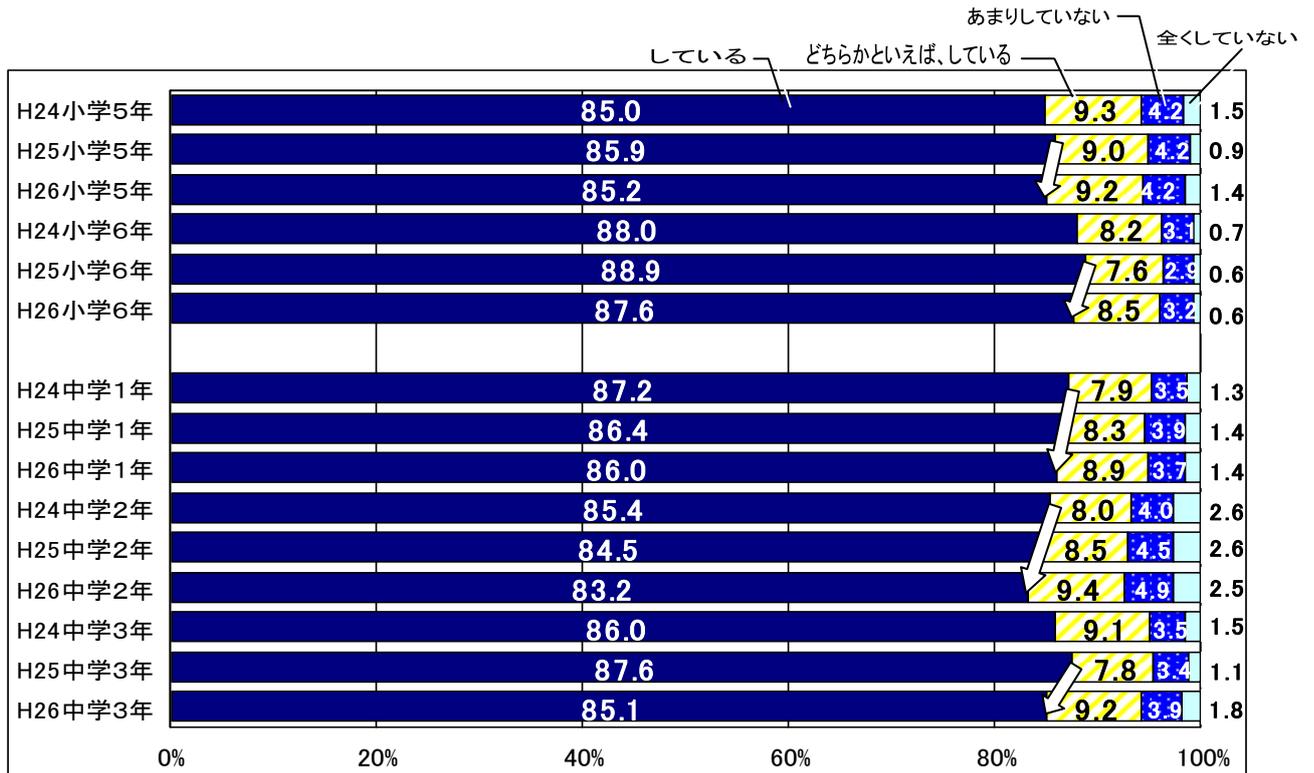
・ 正答率との相関関係についても、適度な時間に就寝している児童生徒の正答率は、高い傾向がみられる。[グラフ 33-3]

[グラフ 33-3] 平日の就寝時刻(月～金曜日)の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

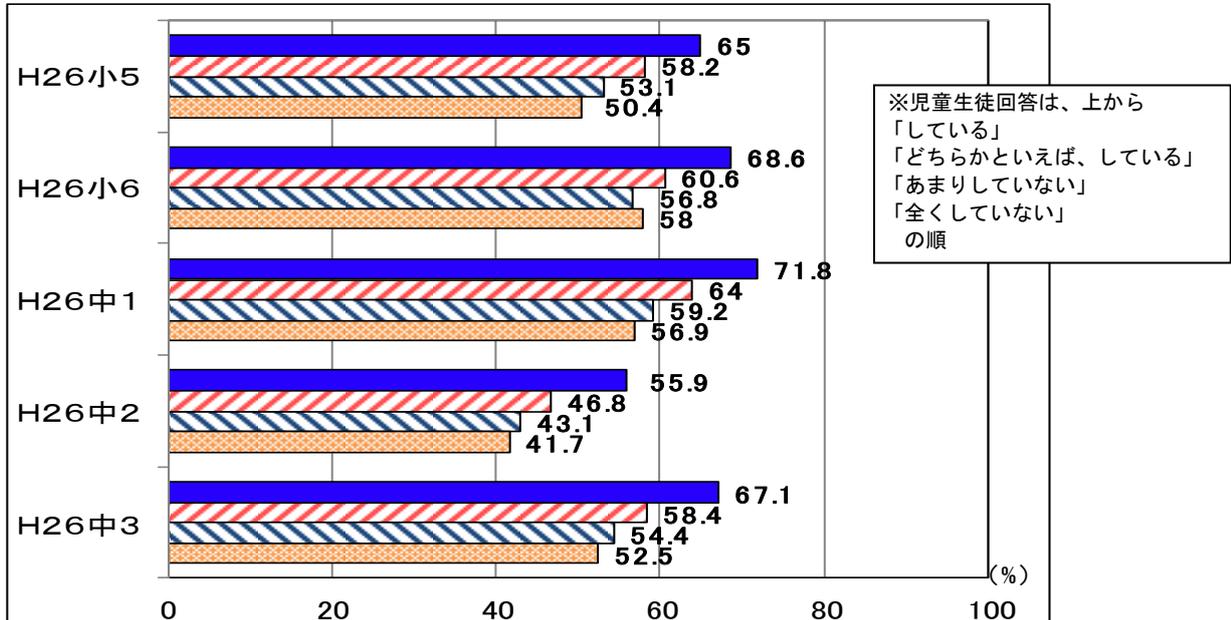


※児童生徒回答は、上から「午後9時より前」「午後9時以降、午後10時より前」「午後10時以降、午後11時より前」「午後11時以降、午前0時より前」「午前0時以降、午前1時より前 (小学校: 午前0時以降)」「午前1時以降 (中学校のみ)」の順

[グラフ 34-1] 朝食を毎日食べている 平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較

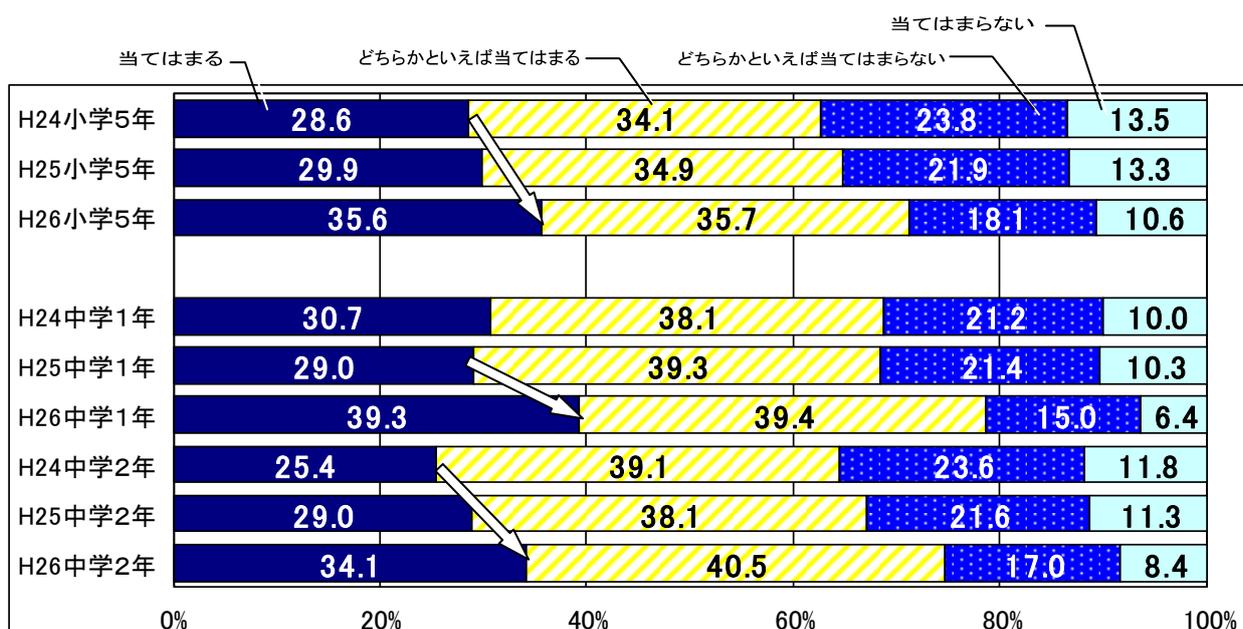


[グラフ 34-2] 「朝食を毎日食べている」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

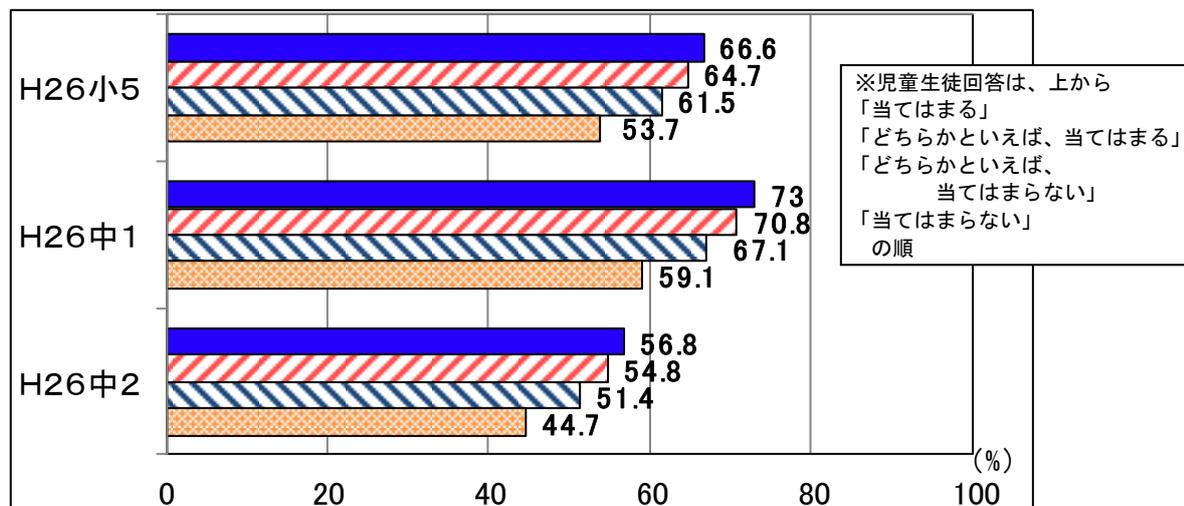


- 「同一学年」の経年比較において、全ての学年で「毎日朝食を食べている」と回答した児童生徒の割合が減少している。同様に、学年進行に伴い、「毎日朝食を食べている」と回答した児童生徒の割合が減る傾向にある。[グラフ 34-1]
- 正答率との相関関係についても、朝のスタートがきちんとできている児童生徒ほど、正答率が高い傾向がある。[グラフ 34-2]
 ※ 朝食を毎日食べているということは、朝、決まった時間に起きているということであり、そのためには、適度な時刻に就寝していることに他ならない。「早寝、早起き、朝ごはん」のスローガンどおり、基本的な生活習慣が身に付いていることが、学習の前提となる。

[グラフ 35-1] 新聞やテレビのニュースなどに関心がある
平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較

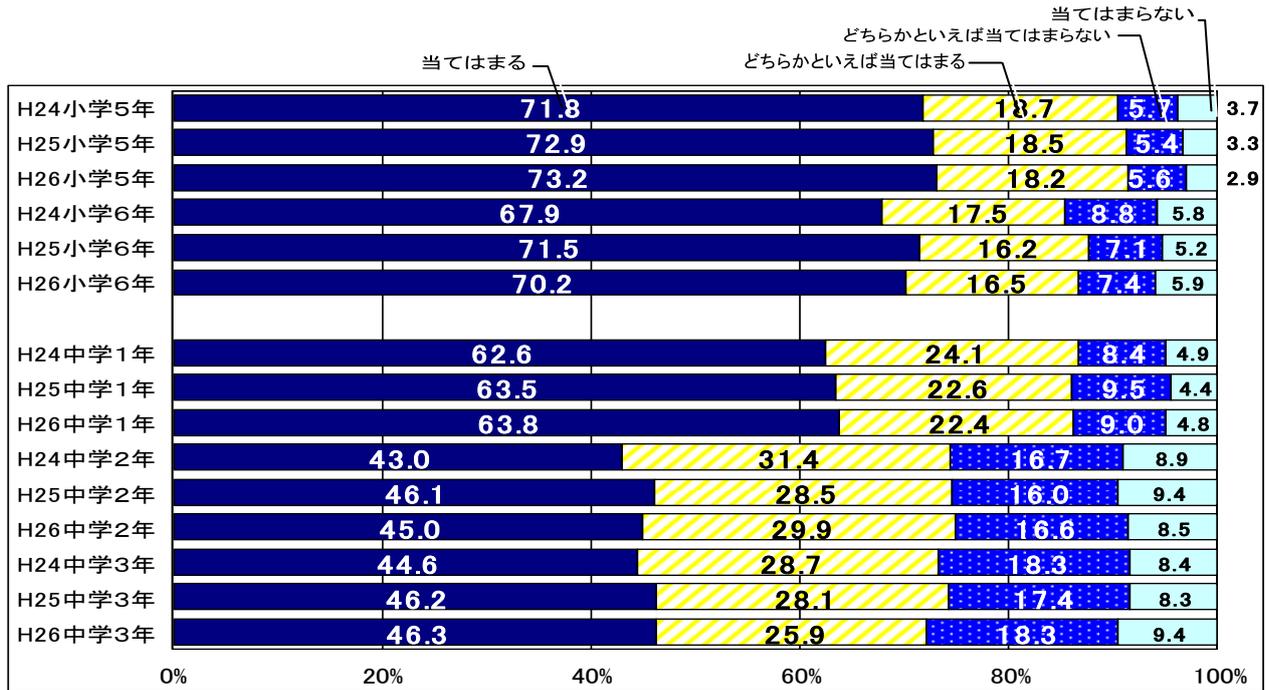


[グラフ 35-2] 「新聞やテレビのニュースなどに関心がある」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果

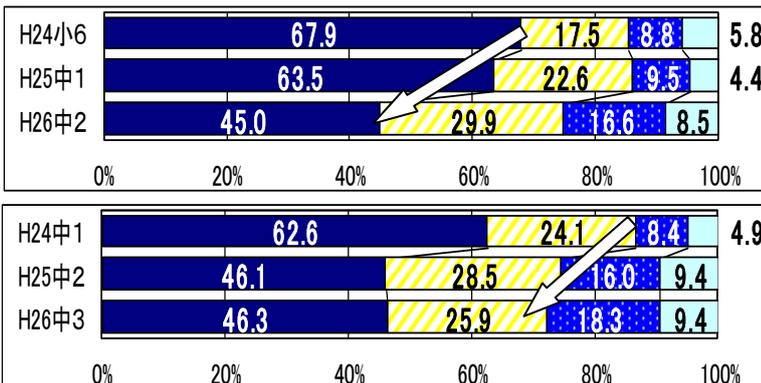


- 「同一学年」の経年比較において、どの学年も、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合が、増加している。同一児童生徒の変容をみると、年次進行に伴い、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と回答した児童生徒の割合が、増加している。授業などで、実際のニュース記事等を教材として活用したり、調べ学習の際の資料として準備したりしていることが、影響しているものと思われる。[グラフ 35-1]
- 「新聞やテレビのニュースなどに関心がある」という質問に対して、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が高い傾向にある。[グラフ 35-2]

[グラフ 36-1] 将来の夢や目標をもっている平成 24～26 年度「同一学年」の経年比較

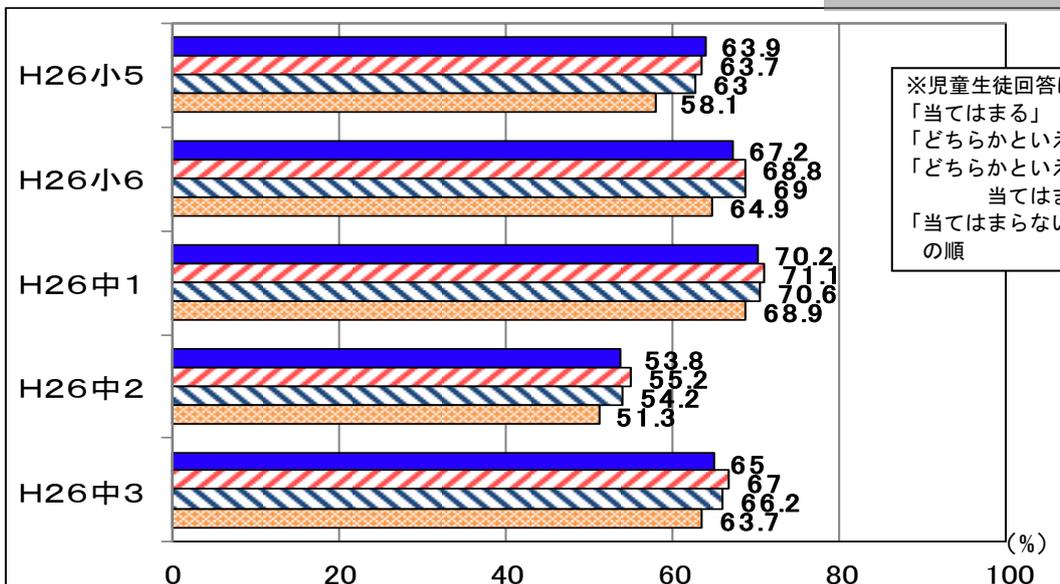


[グラフ 36-2] 将来の夢や目標をもっている平成 24～26 年度「同一児童生徒」の経年比



- ・ 「同一学年」の経年比較においては、特徴的な変化はみられない。[グラフ 36-1]
- ・ 「同一児童生徒」の経年比較をみると、年次進行に伴い、夢や目標をもっていると回答した児童生徒が減る傾向にある。[グラフ 36-2]
- ・ 正答率との相関関係についても、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童生徒の平均正答率が高い傾向にある。[グラフ 36-3]

[グラフ 36-3] 「将来の夢や目標をもっている」の質問に対する回答と教科(国語、算数・数学)平均正答率とのクロス集計結果



※児童生徒回答は、上から「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」「どちらかといえば、当てはまらない」「当てはまらない」の順

(5) 地域別の状況

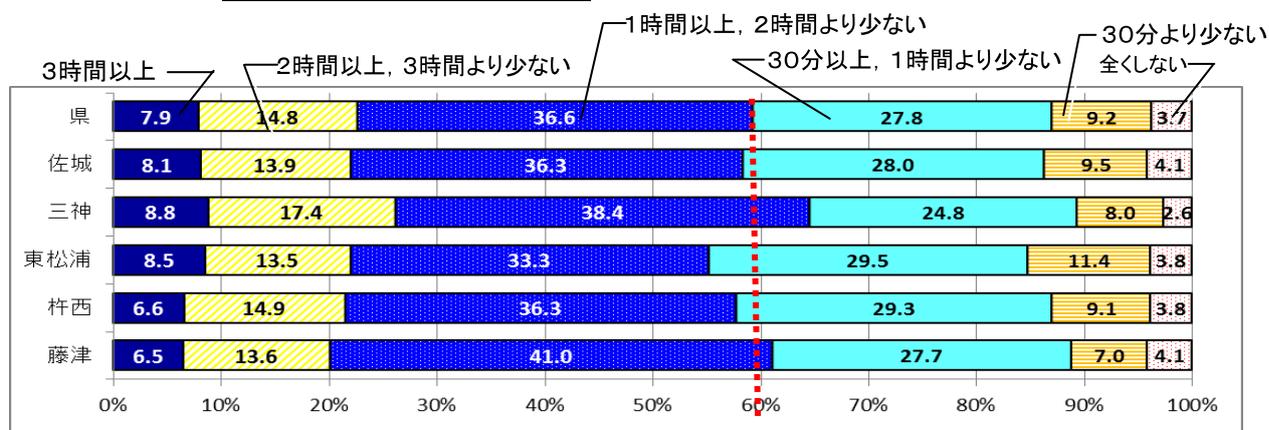
《児童生徒質問紙調査及び児童生徒意識調査》

① 家庭での学習について

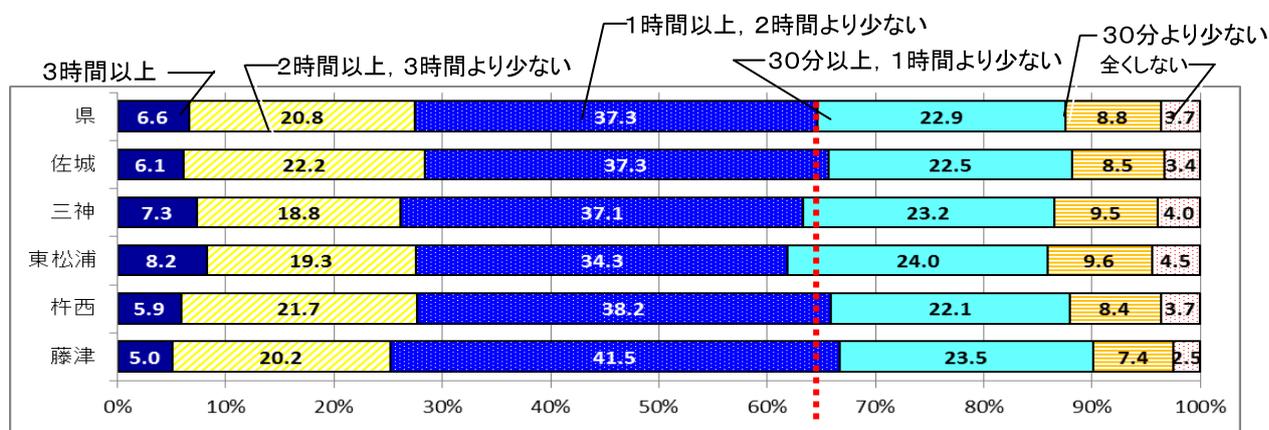
- 平日に家庭で1時間以上勉強している児童生徒の割合は、小学校では三神地域が、中学校では藤津地域の割合が高い。[グラフ 37]
- 学習塾で勉強していない児童生徒の割合は、小・中学校ともに藤津地域が高い。[グラフ 38]
- 「授業の予習」で「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童生徒の割合は、小学校では三神地域が高く、中学校では大きな差が見られない。[グラフ 39]
- 「授業の復習」で「している」「どちらかといえばしている」と答えた児童生徒の割合は、小学校では三神地域が高く、中学校では佐城地域・三神地域が高い [グラフ 40]

[グラフ 37] 学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間も含む)

【小学5・6年】1時間以上(県平均)59.3%

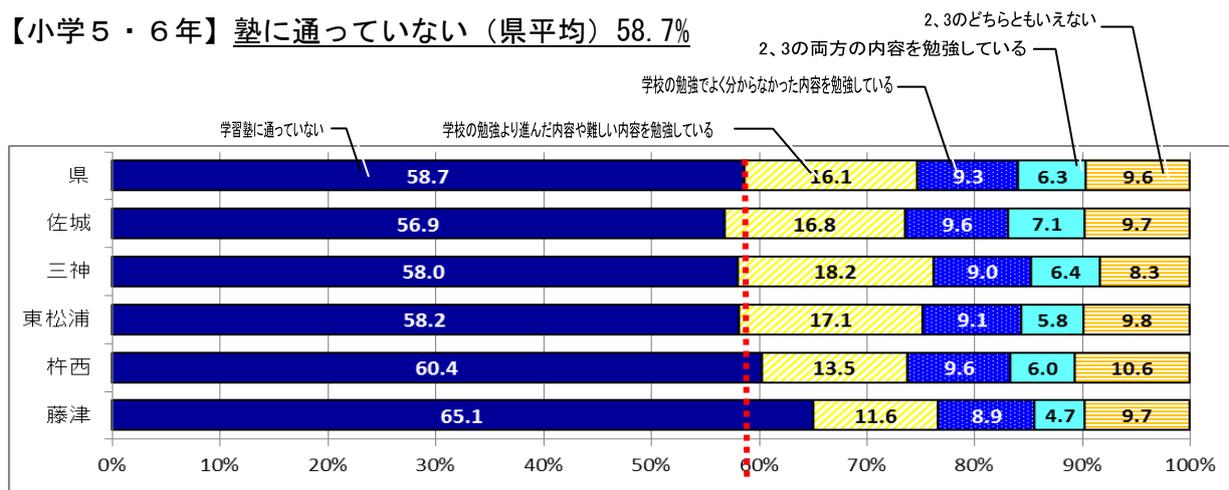


【中学1・2・3年】1時間以上(県平均)64.7%

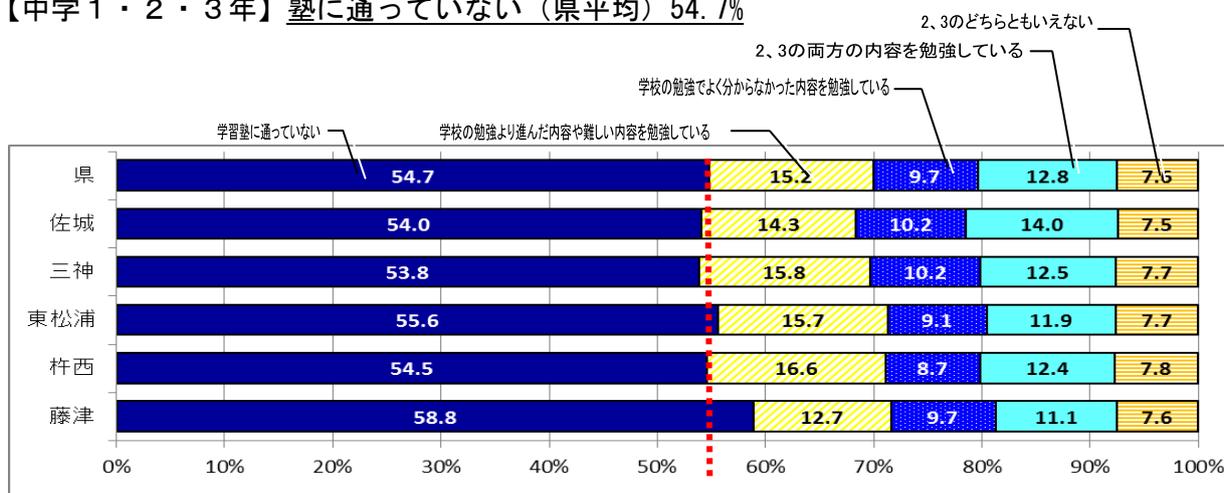


[グラフ 38] 学習塾(家庭教師を含む)で勉強をしていますか。

【小学5・6年】塾に通っていない(県平均) 58.7%

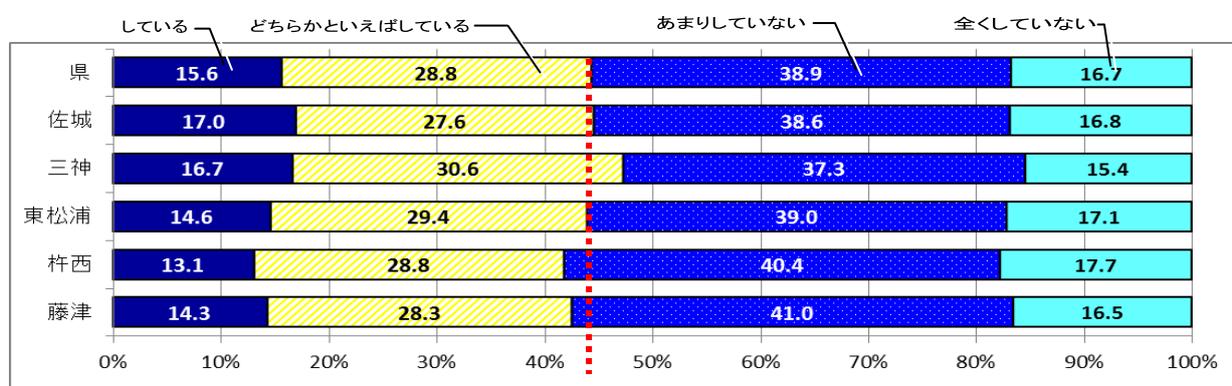


【中学1・2・3年】塾に通っていない(県平均) 54.7%

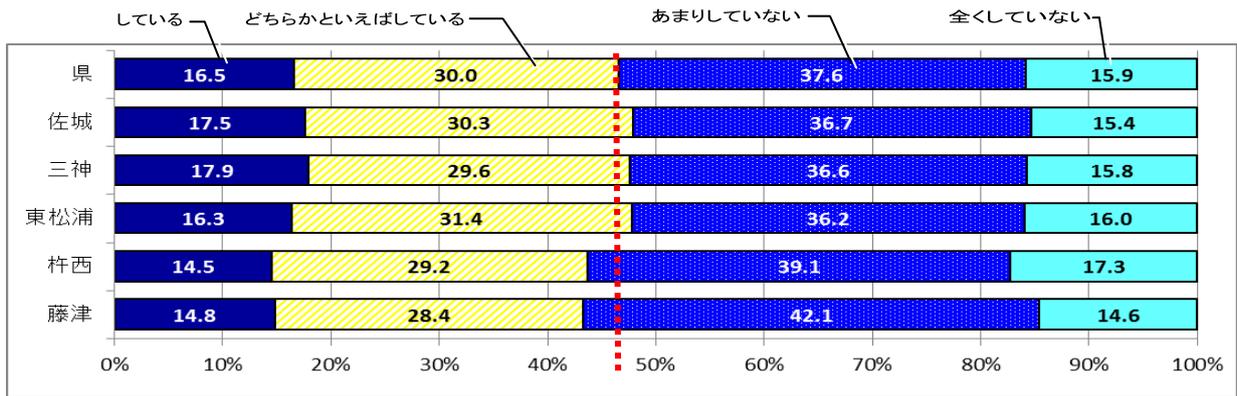


[グラフ 39] 学校の授業時間の予習をしている。

【小学5・6年】肯定的回答(県平均) 44.4%

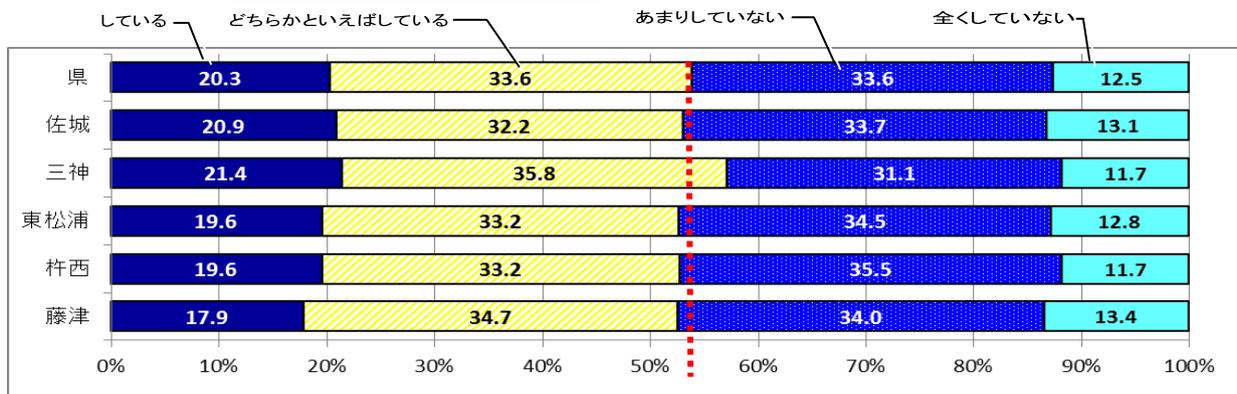


【中学1・2・3年】肯定的回答（県平均）46.5%

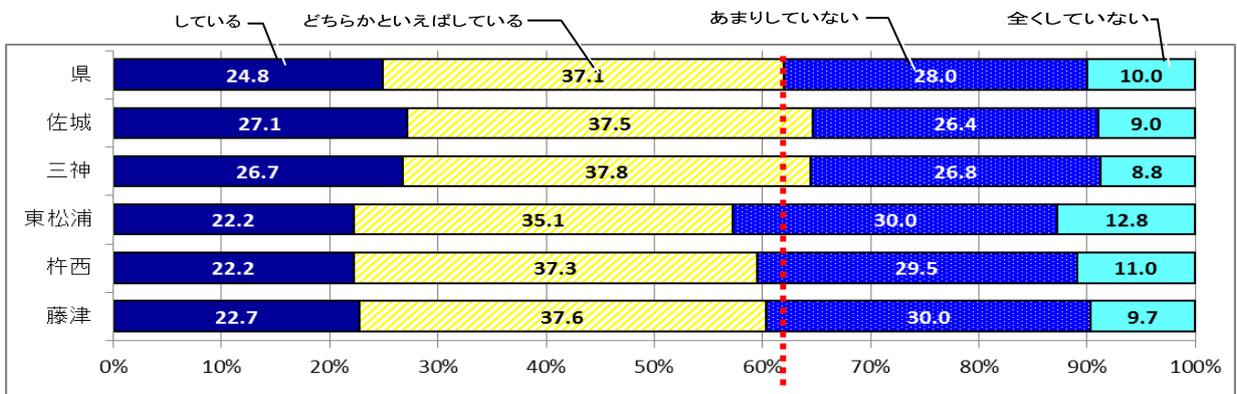


【グラフ40】 学校の授業時間の復習をしている。

【小学5・6年】肯定的回答（県平均）53.9%



【中学1・2・3年】肯定的回答（県平均）61.9%

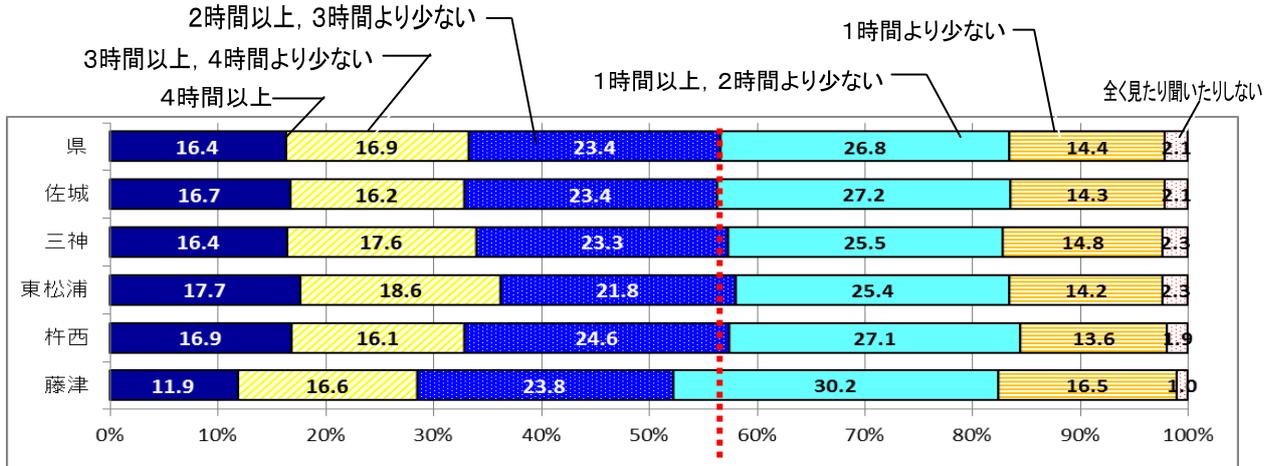


② 家庭での生活について

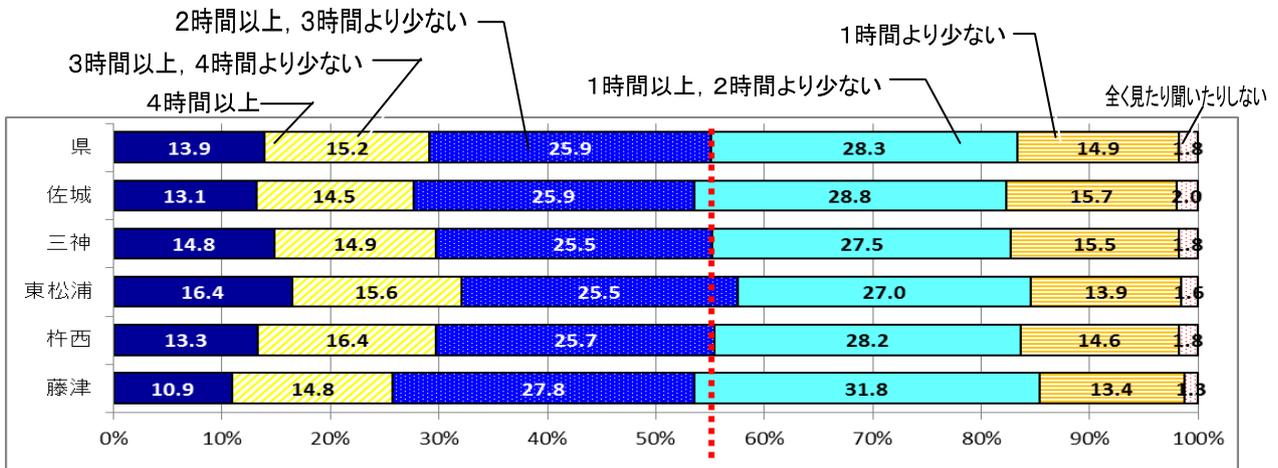
- 1日のテレビの視聴時間で2時間以上と答えた児童生徒の割合と、1日のゲームの時間で1時間以上と答えた児童生徒の割合は、小・中学校ともに地域差はほとんど見られないが、どちらも藤津地域で低い傾向にある。[グラフ41、42]

【グラフ 41】 1日あたりテレビやビデオ・DVDを視聴する時間(月～金曜日)

【小学5・6年】 2時間以上 (県平均) 56.7%

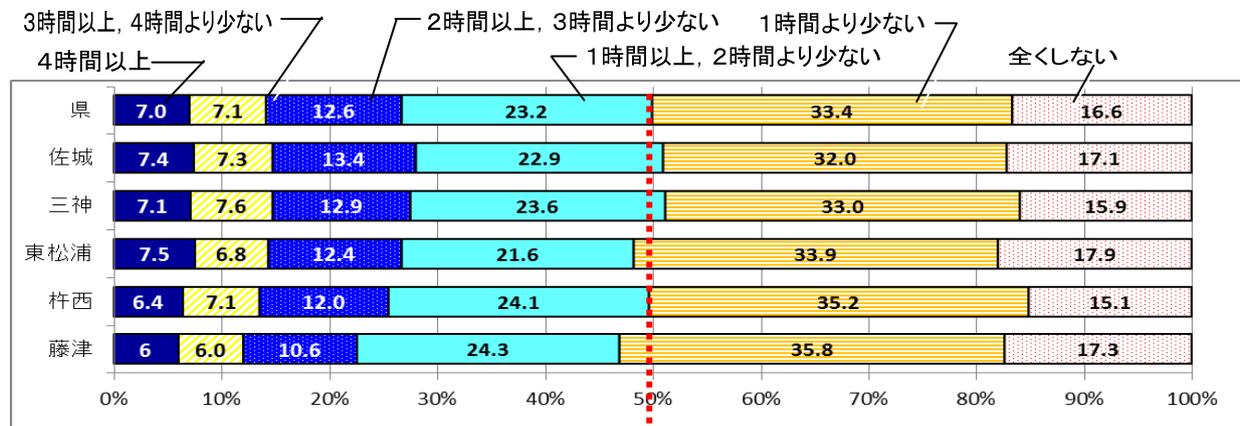


【中学1・2・3年】 2時間以上 (県平均) 55.0%

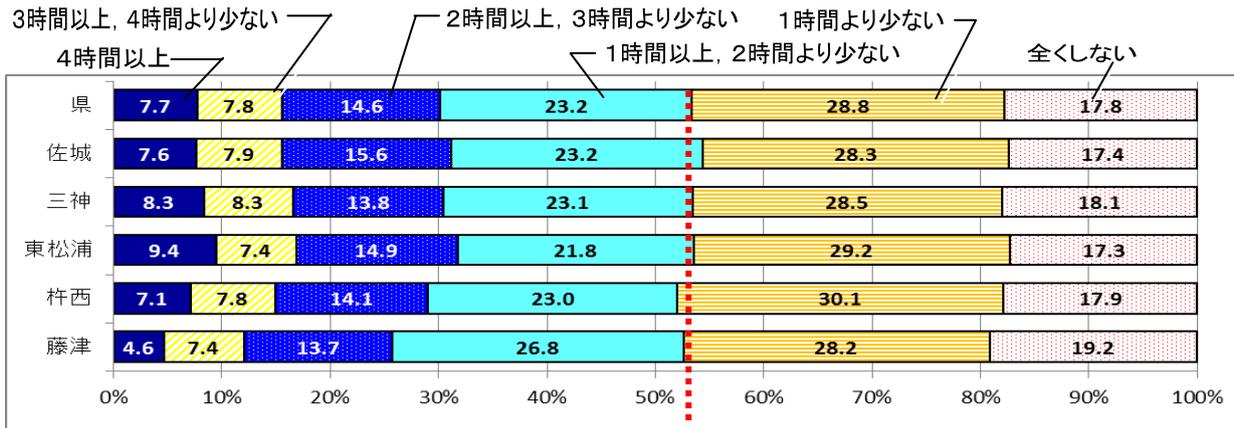


【グラフ 42】 1日あたりテレビゲームをする時間(月～金曜日)(コンピュータゲーム、携帯式のゲームを含む)

【小学5・6年】 1時間以上 (県平均) 49.9%



【中学1・2・3年】1時間以上（県平均）53.3%

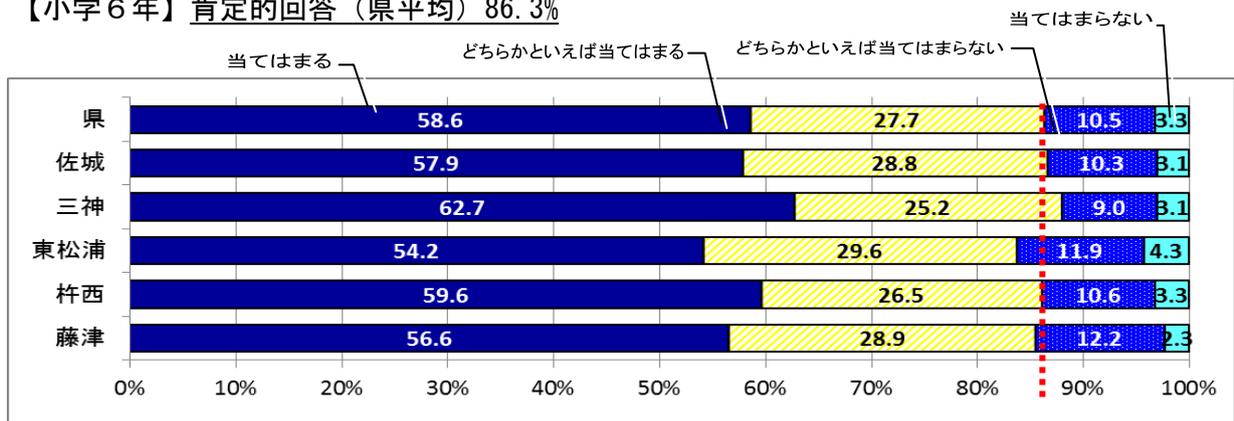


③ 学習活動について

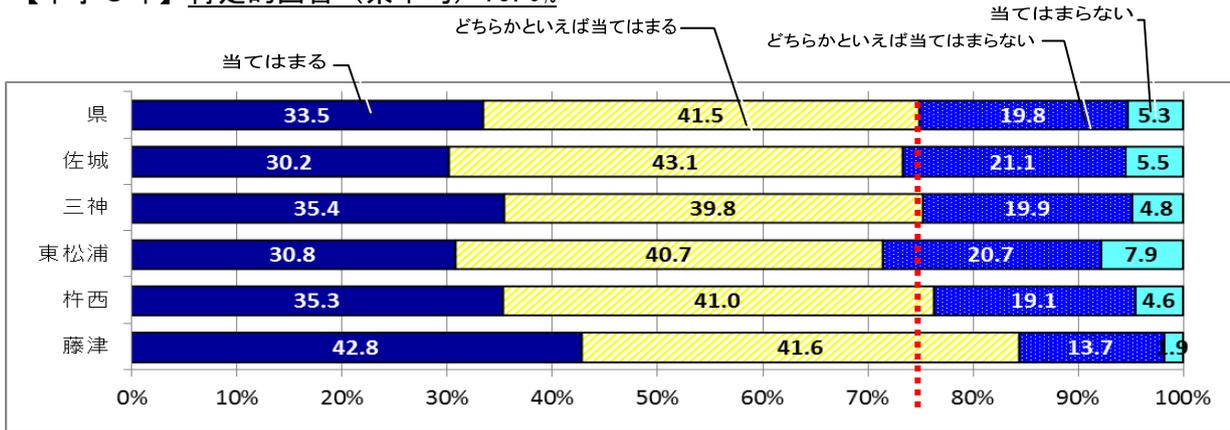
- 授業のはじめに目標（めあて・ねらい）が示されていたかについて、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小学校では地域差がほとんど見られない。中学校では藤津地域が高い。[グラフ 43]
- 授業の最後の振り返る活動について、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた児童生徒の割合は、小・中学校ともに地域差はほとんど見られないが、小学校では東松浦地域が低く、中学校では藤津地域が高い。[グラフ 44]
- 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることについて、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」と答えた児童生徒の割合は、小学校では東松浦地域が低く、中学校では地域差はほとんど見られない。[グラフ 45]
- 算数・数学で解き方や考え方が分かるようにノートに書くことについて、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」と答えた割合は小・中学校ともに地域差はほとんど見られないが、小学校では東松浦地域が低く、中学校では藤津地域が高い。[グラフ 46]

【グラフ 43】 授業のはじめに授業の目標（めあて・ねらい）が示されていたと思う。

【小学6年】肯定的回答（県平均）86.3%

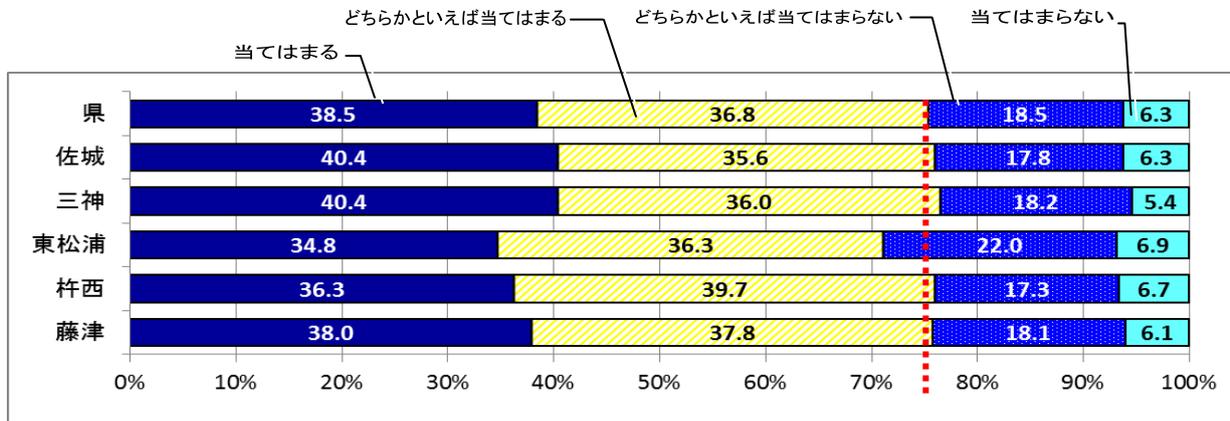


【中学3年】 肯定的回答（県平均）75.0%

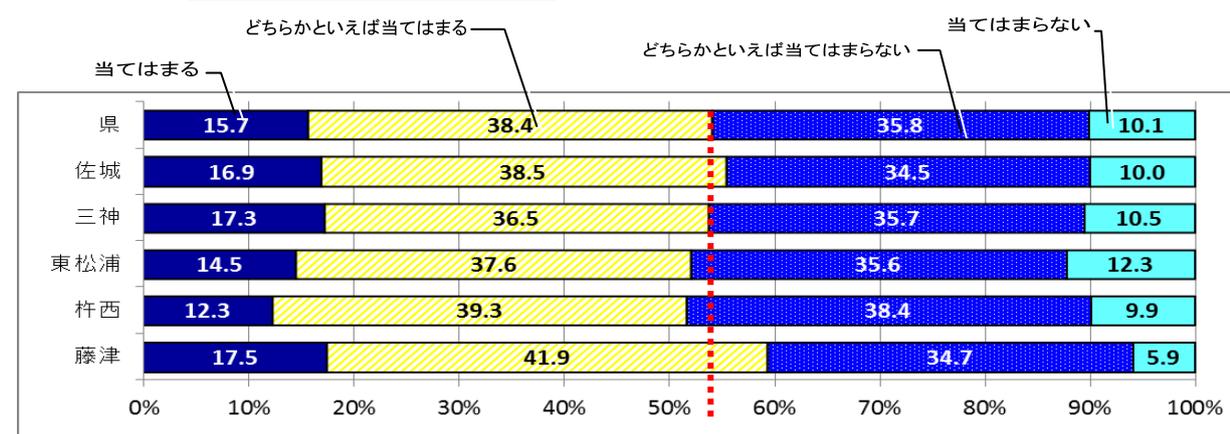


[グラフ 44] 授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う。

【小学6年】 肯定的回答（県平均）75.3%

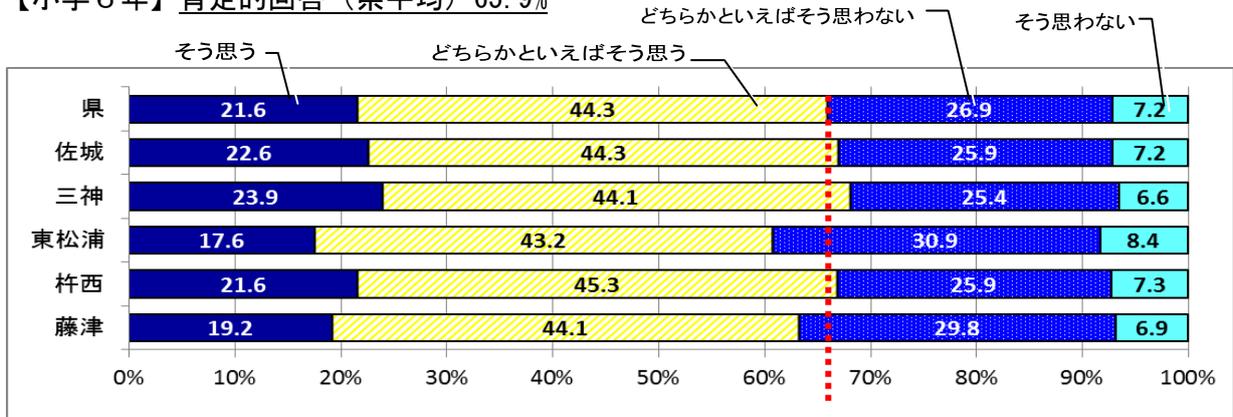


【中学3年】 肯定的回答（県平均）54.1%

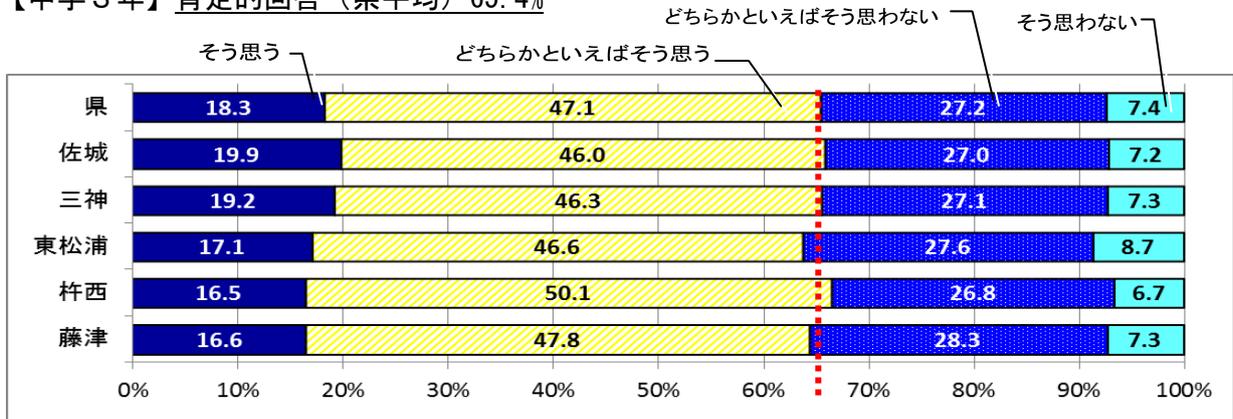


[グラフ 45] 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。

【小学6年】 肯定的回答（県平均）65.9%

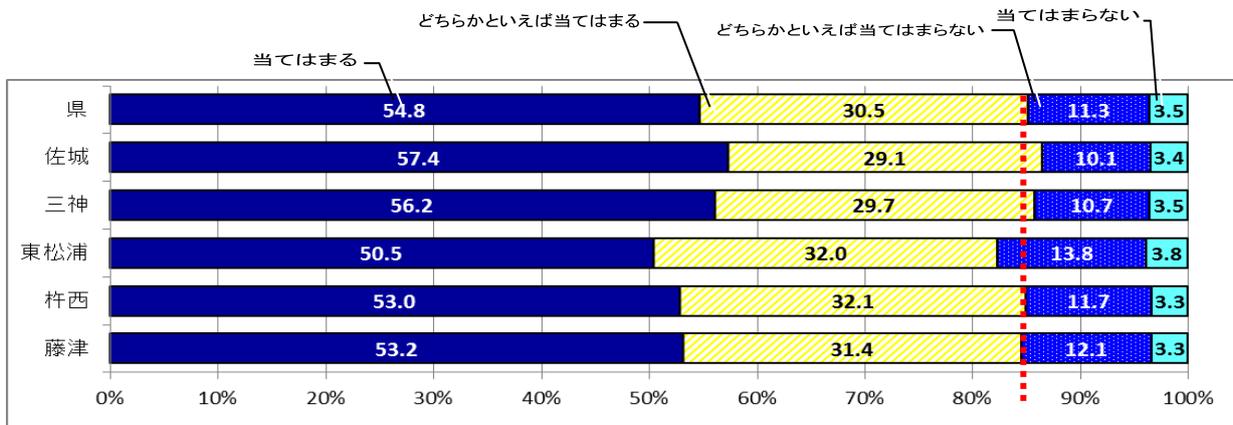


【中学3年】 肯定的回答（県平均）65.4%

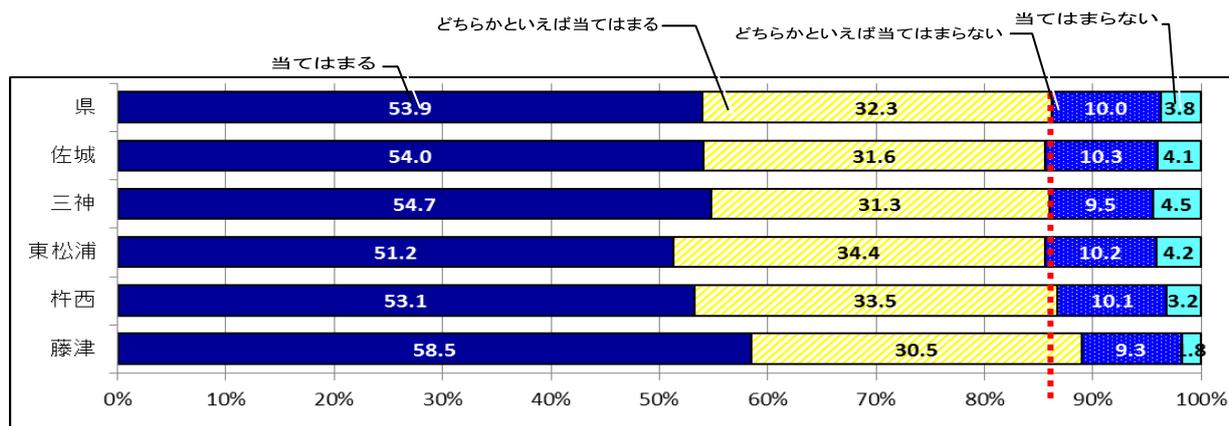


[グラフ 46] 算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。

【小学5・6年】 肯定的回答（県平均）85.3%



【中学1・2・3年】肯定的回答（県平均）86.2%



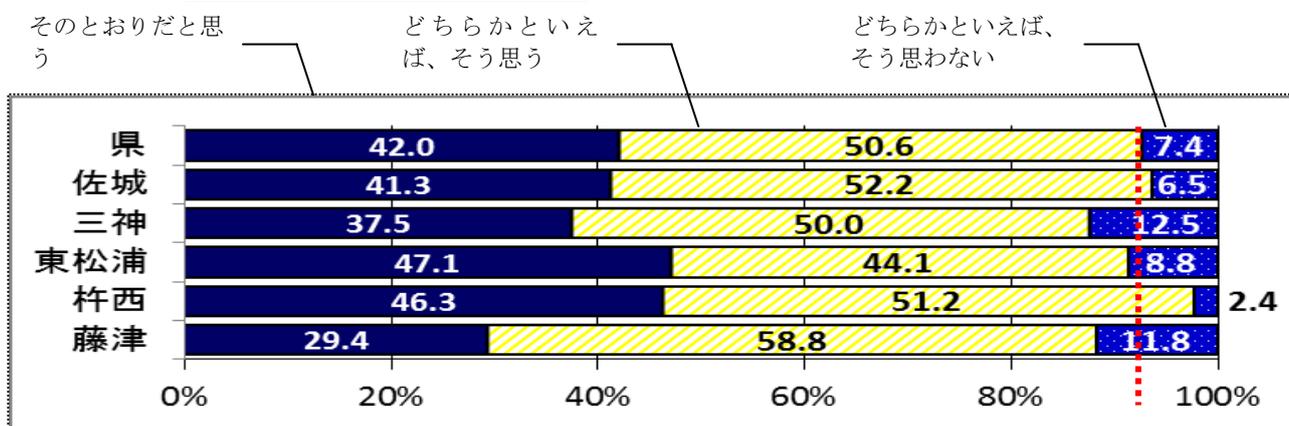
《学校質問紙調査》

① 児童生徒について

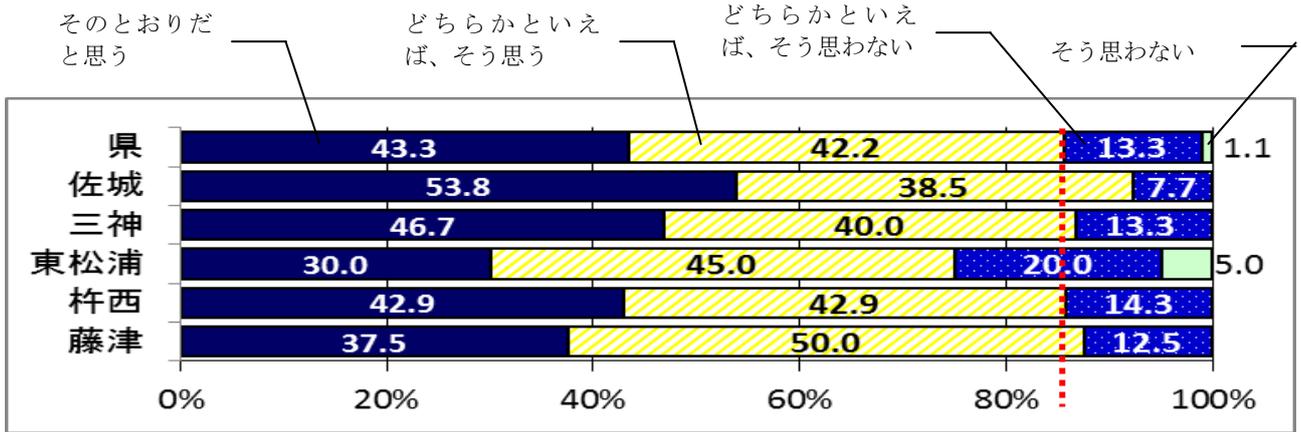
- 児童生徒が授業中の私語が少なく落ち着いていると回答した学校の割合は、小学校では杵西地域が高い。中学校では佐城地域が高く、東松浦地域が低い。[グラフ 47]
- 児童生徒は礼儀正しいと回答した学校の割合は、小学校では大きな差は見られないが、中学校では佐城地域・杵西地域が高く、東松浦地域が低い。[グラフ 48]
- 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができると回答した学校の割合は、小学校では大きな差は見られないが、中学校では三神地域が高い。[グラフ 49]
- 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるかと回答した学校の割合は、小学校では三神地域が高く、中学校では佐城地域が高い。[グラフ 50]

[グラフ 47] 児童生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いている。

【小学校】肯定的回答（県平均）92.6%

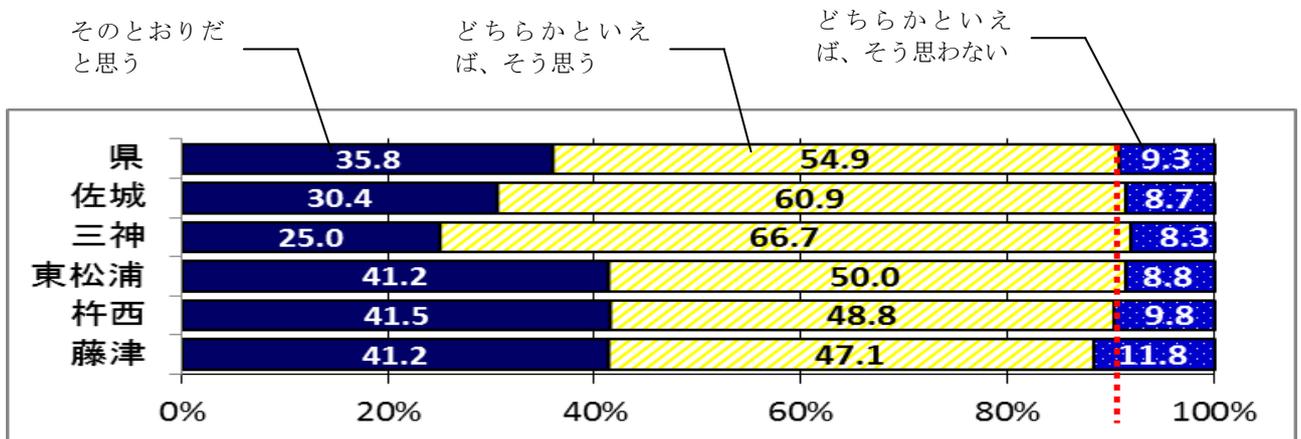


【中学校】 肯定的回答（県平均）85.5%

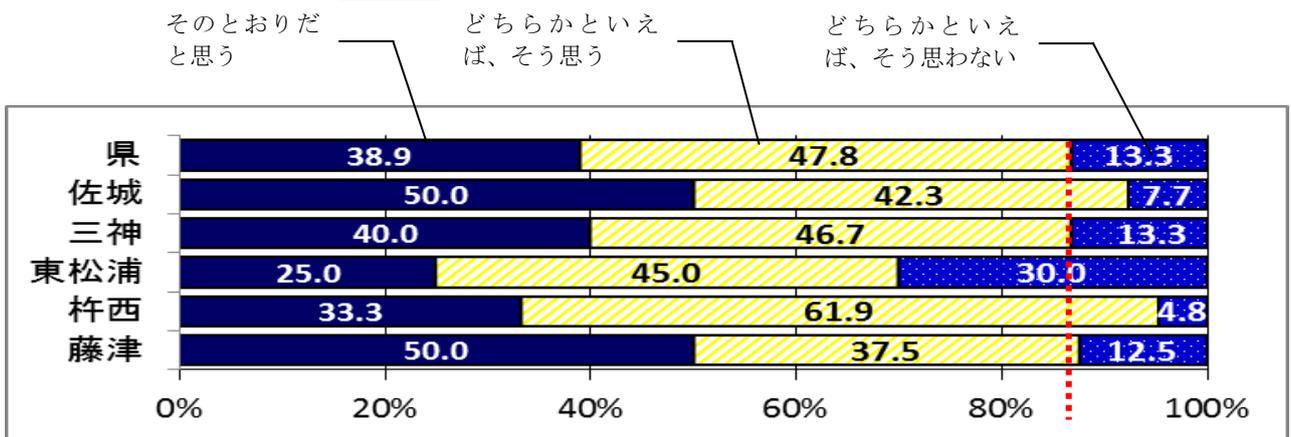


【グラフ 48】 児童生徒は礼儀正しい。

【小学校】 肯定的回答（県平均）90.7%

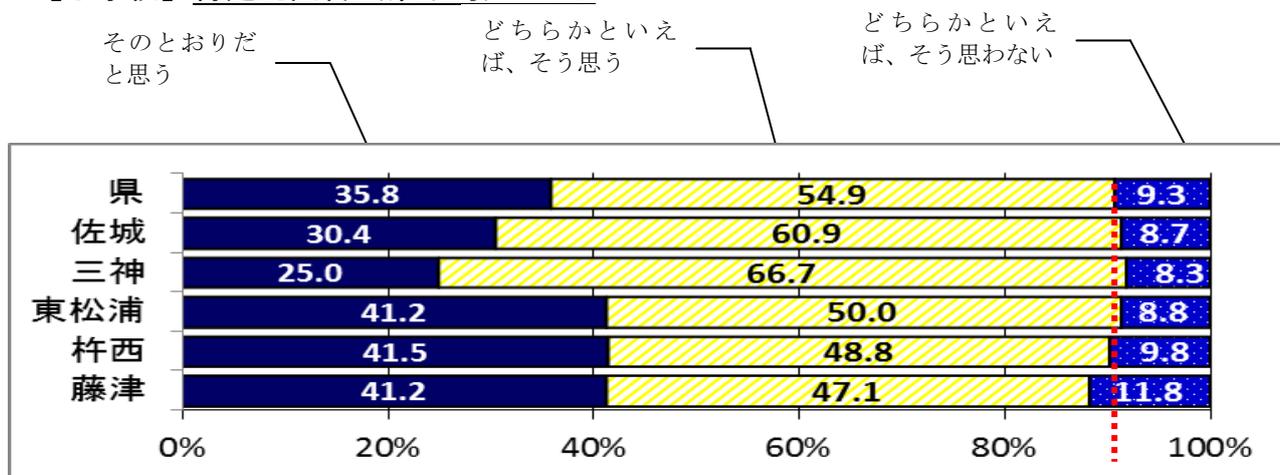


【中学校】 肯定的回答（県平均）86.7%

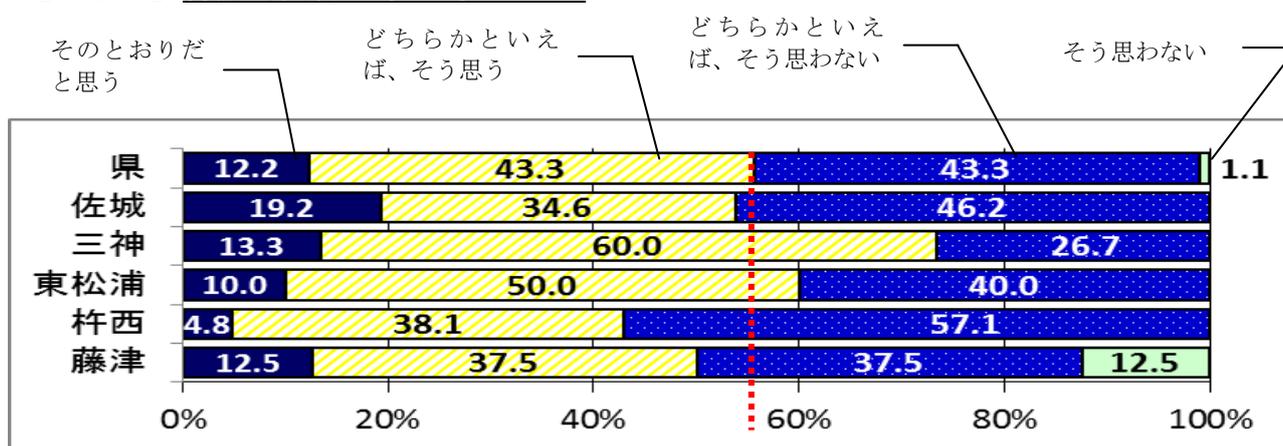


【グラフ 49】 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができる。

【小学校】 肯定的回答（県平均）90.7%

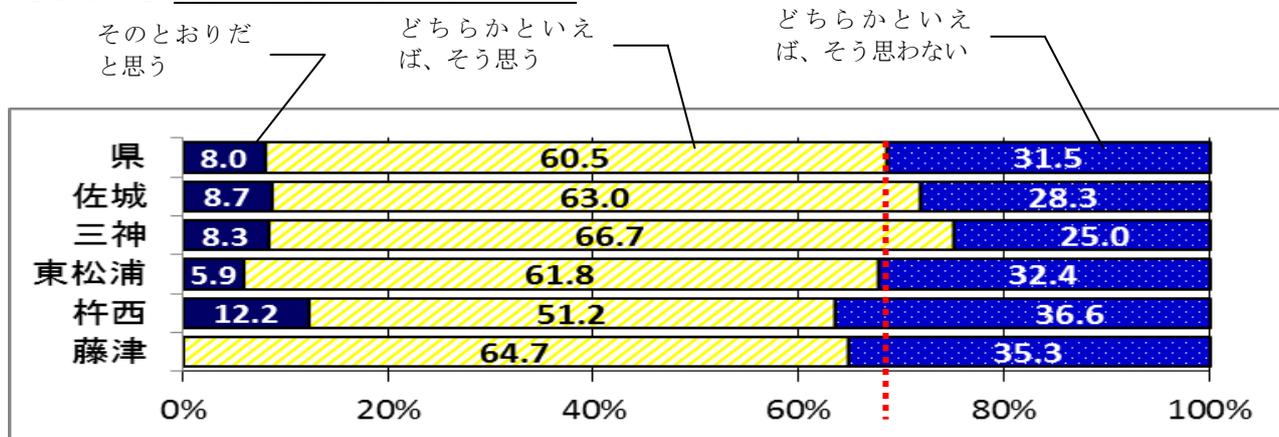


【中学校】 肯定的回答（県平均）55.5%

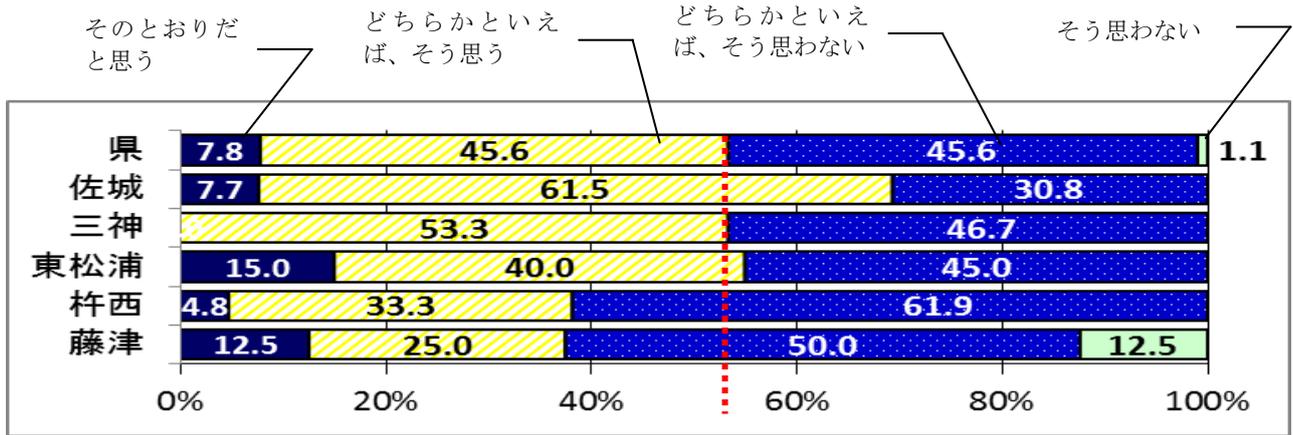


【グラフ 50】 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。

【小学校】 肯定的回答（県平均）68.5%



【中学校】 肯定的回答（県平均） 53.4%

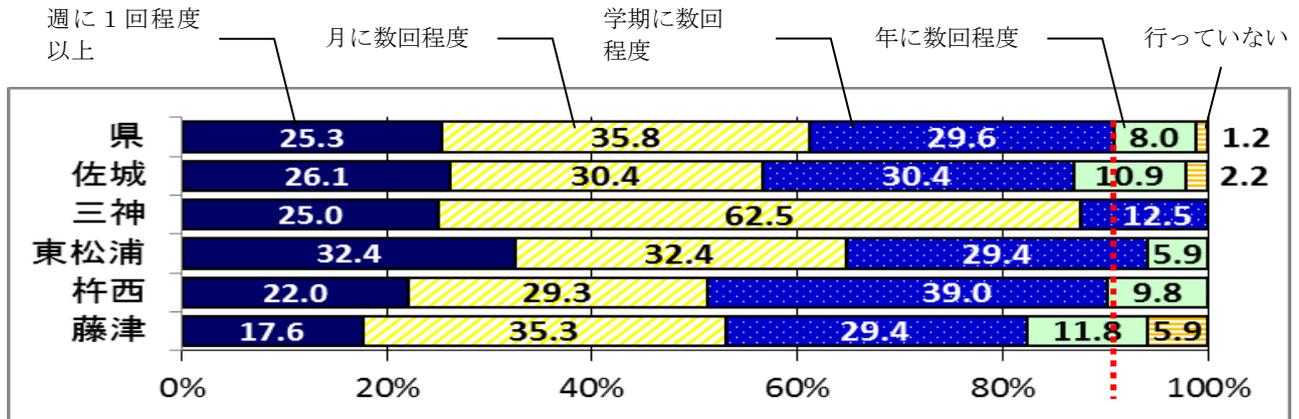


② 学力向上に向けた取組について

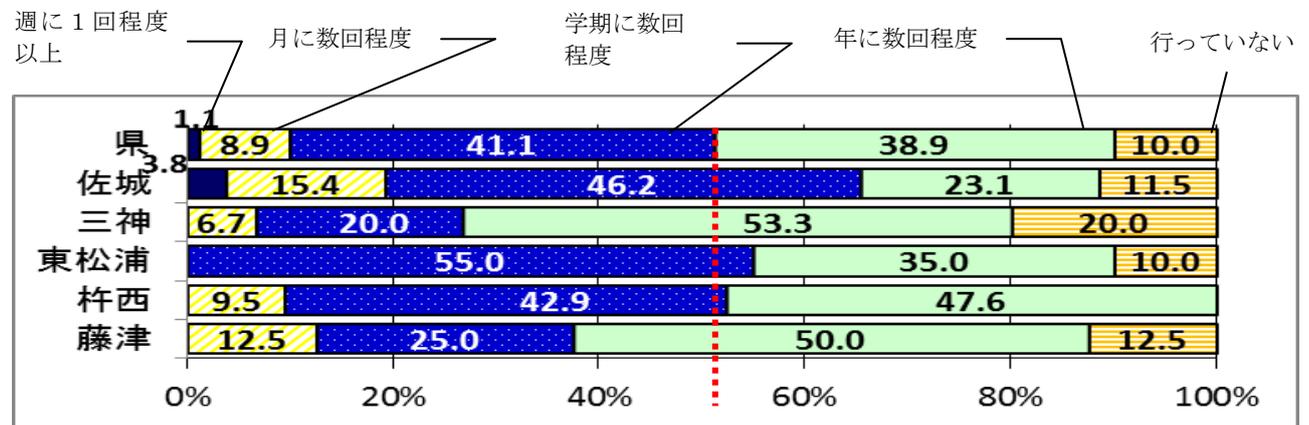
- 学校図書館を活用した授業を計画的（月に数回程度）行っていると回答した学校の割合は、小学校では三神地域が高く、中学校では、佐城地域が高い。[グラフ51]

[グラフ50] 学校図書館を活用した授業を計画的に行いましたか

【小学校】 学期に数回程度（県平均） 90.7%



【中学校】 学期に数回程度（県平均） 51.1%

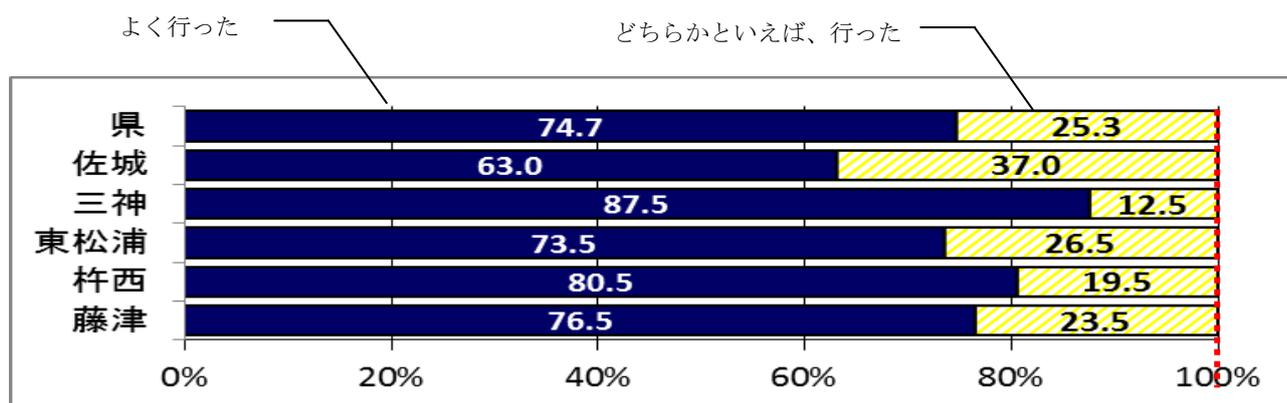


③ 指導方法・学習規律について

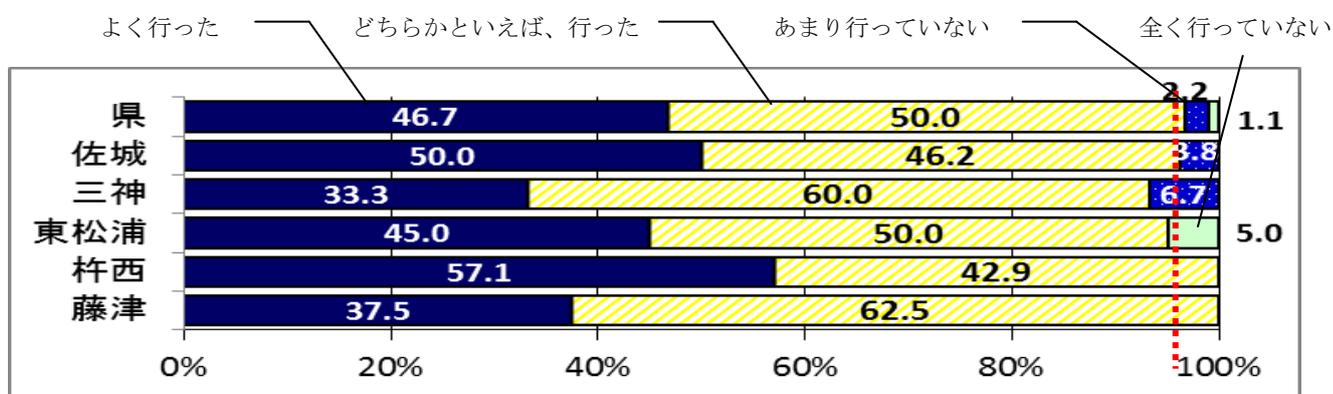
- 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れていると回答した学校の割合は、小学校では全ての学校であり、中学校では地域間の大きな差は見られず、高い傾向にある。[グラフ 52]
- 学級やグループで話し合う活動を授業などで行っていると回答した学校の割合は、小学校では地域間の大きな差は見られず、高い傾向にある。中学校では佐城地域・杵西地域が高く、藤津地域が低い。[グラフ 53]
- 児童生徒が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導をしていると回答した学校の割合は、小学校では三神地域が高く、中学校では佐城地域・東松浦地域が高い。[グラフ 54]

[グラフ 52] 授業の冒頭で目標（めあて・ねらい）を児童生徒に示す活動を計画的に取り入れている。

【小学校】肯定的回答（県平均）100%

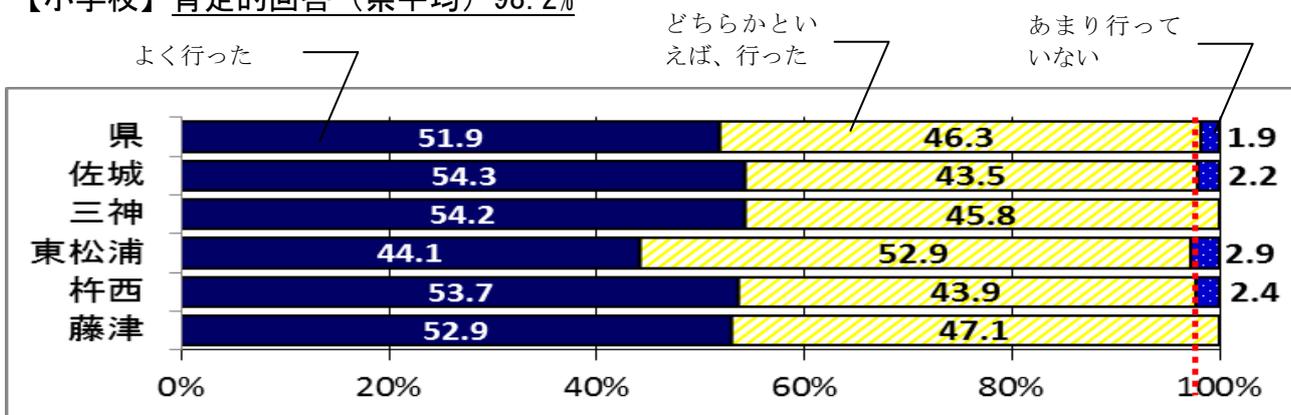


【中学校】肯定的回答（県平均）96.7%

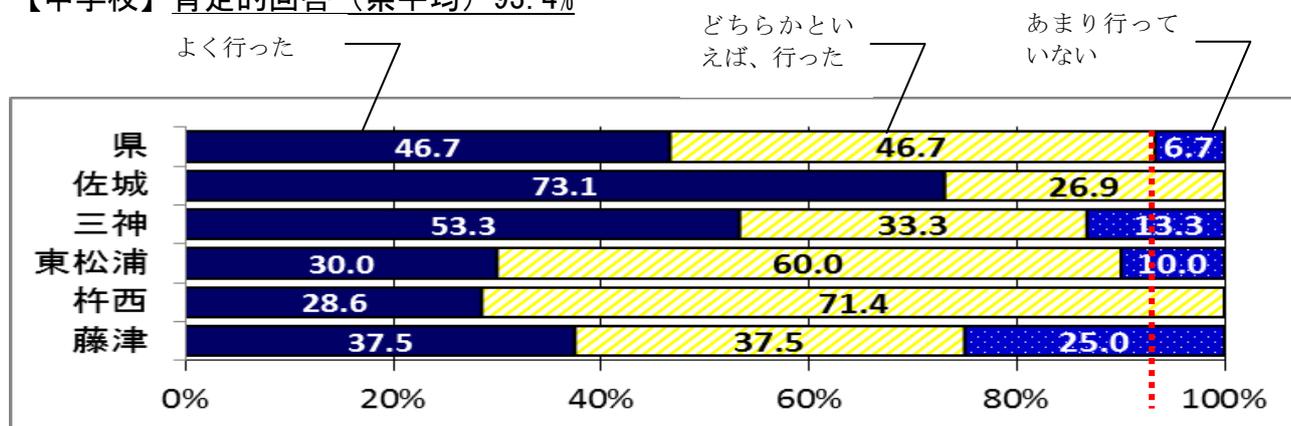


[グラフ 53] 学級やグループで話し合う活動を授業などで行っている。

【小学校】 肯定的回答（県平均）98.2%

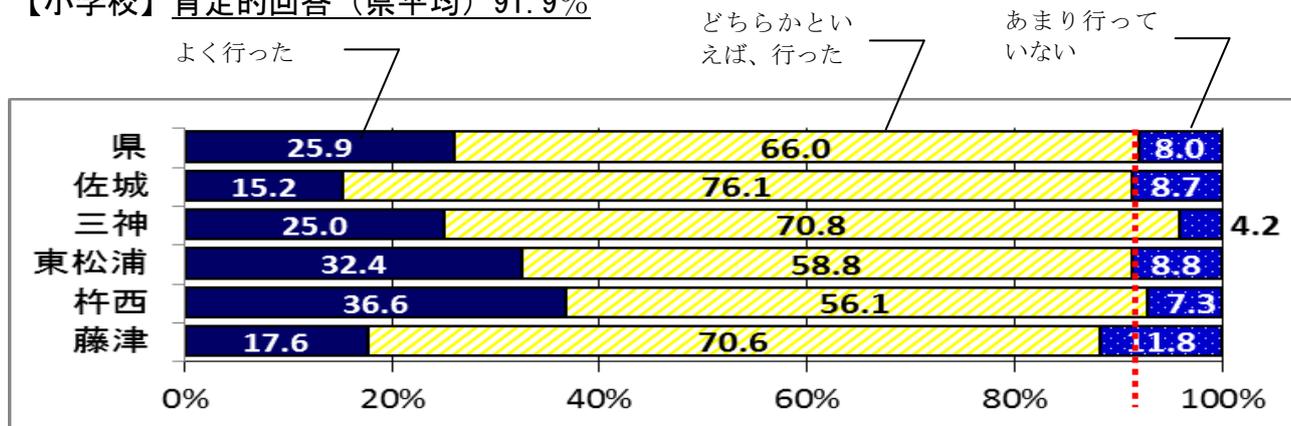


【中学校】 肯定的回答（県平均）93.4%

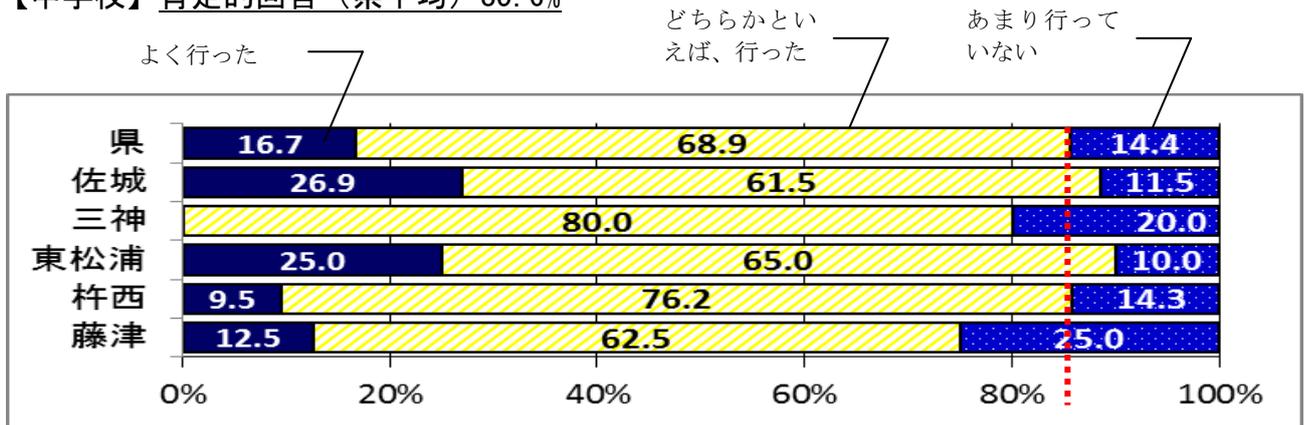


[グラフ 54] 児童生徒が自分で調べたことや考えたことをわかりやすく文章に書かせる指導をしている。

【小学校】 肯定的回答（県平均）91.9%



【中学校】 肯定的回答（県平均）85.6%

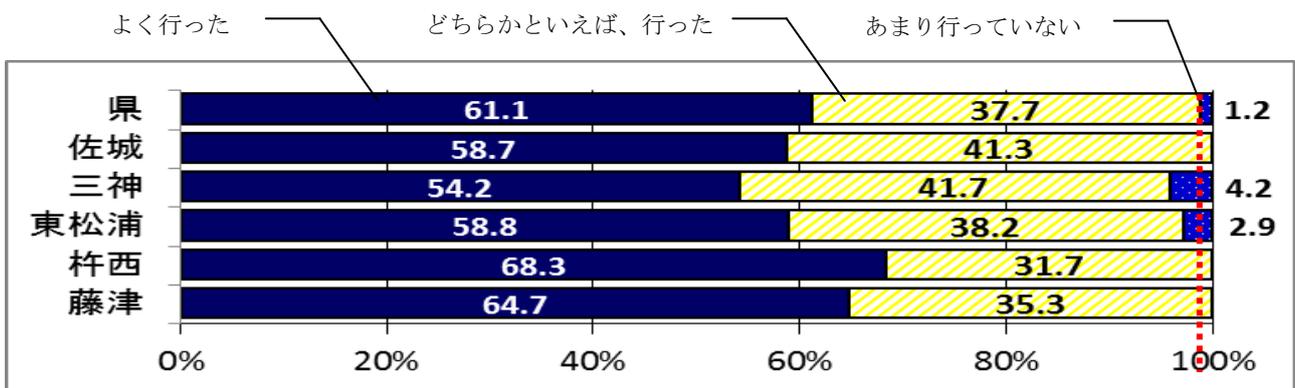


④ 家庭学習について

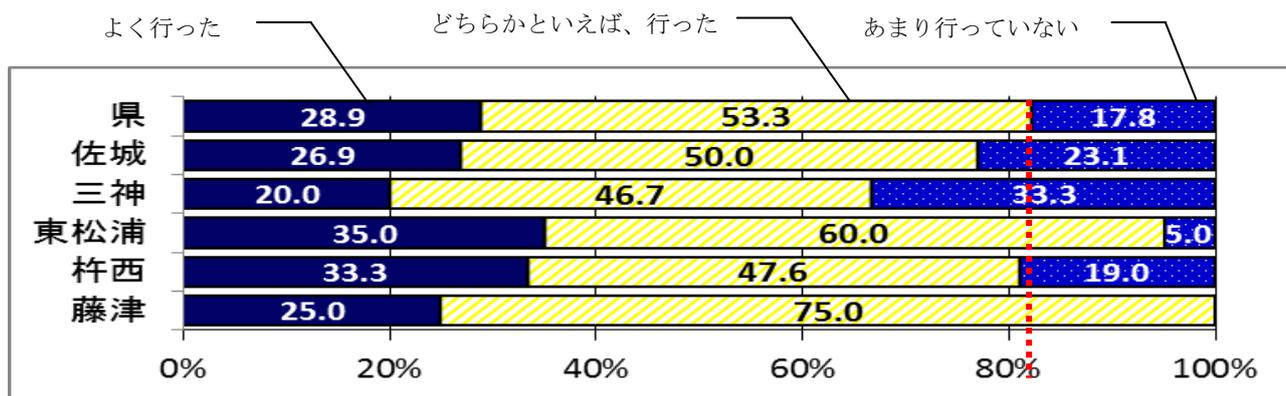
- 国語、算数・数学で、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行ったと回答した学校の割合は、小学校では地域間の大きな差は見られず高い傾向にある。中学校では、藤津地域・東松浦地域が高い。[グラフ 55]
- 国語、算数・数学で、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてくる課題を与えると回答した学校の割合は、小学校では藤津地域が高く、中学校では、杵西地域が高い。[グラフ 56]
- 国語、算数・数学で、家庭学習の課題の与え方について、校内教職員で共通理解を図っていると回答した学校の割合は、小学校では藤津地域・三神地域が高く、中学校では藤津地域・佐城地域が高い。[グラフ 57]

[グラフ 55] 国語、算数・数学で、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行った。

【小学校】 肯定的回答（県平均）98.8%

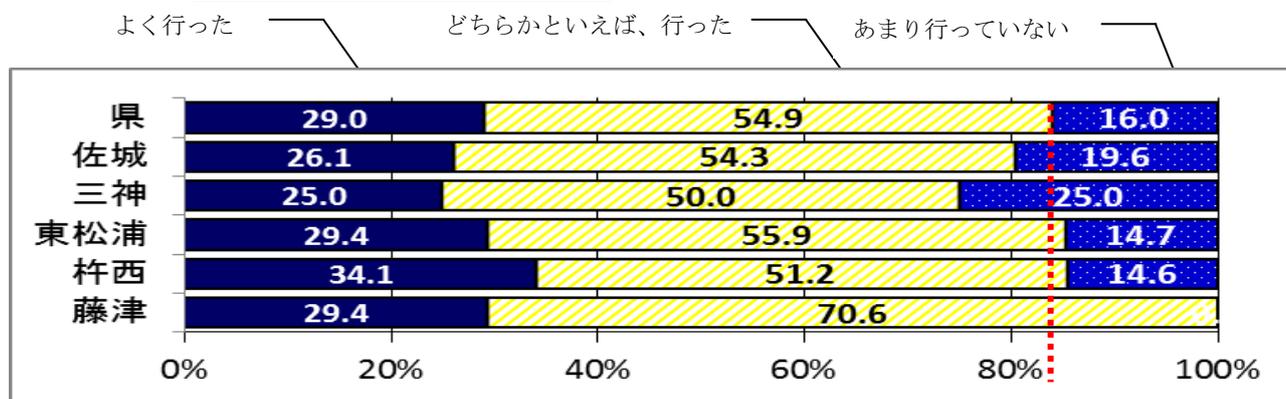


【中学校】 肯定的回答（県平均） 82.2%

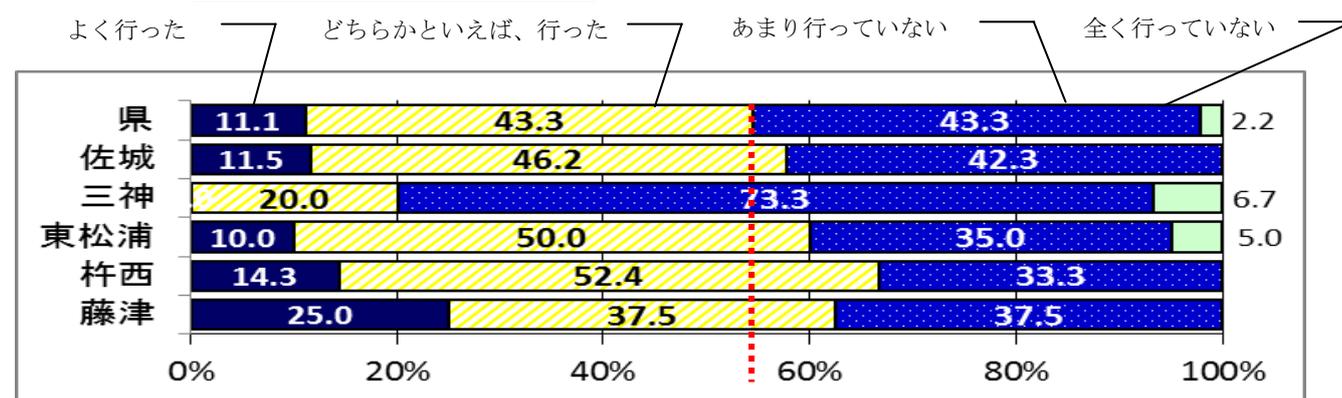


〔グラフ 56〕 国語、算数・数学で、家庭学習の取組として、調べたり文章を書いたりしてやる課題を与える。

【小学校】 肯定的回答（県平均） 83.9%

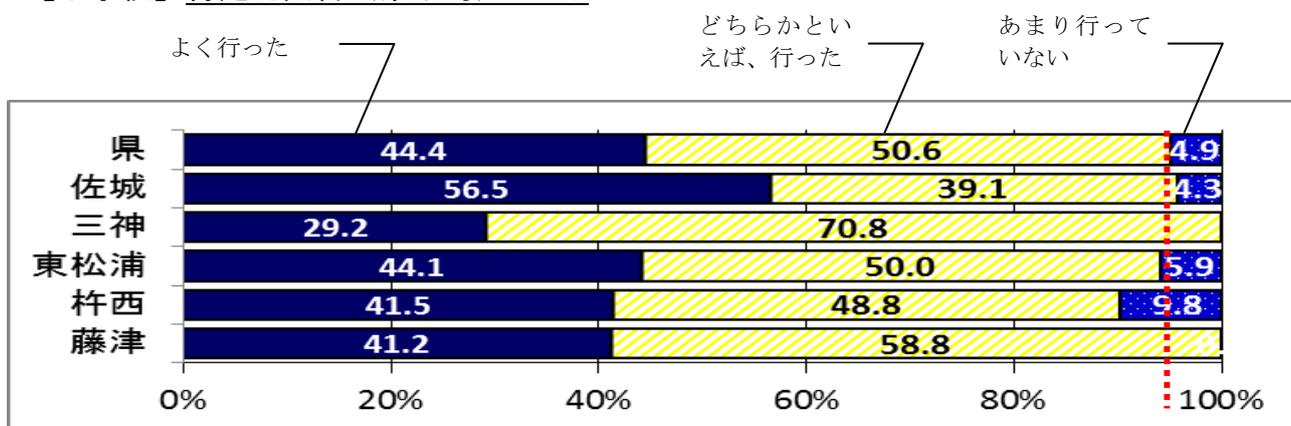


【中学校】 肯定的回答（県平均） 54.4%

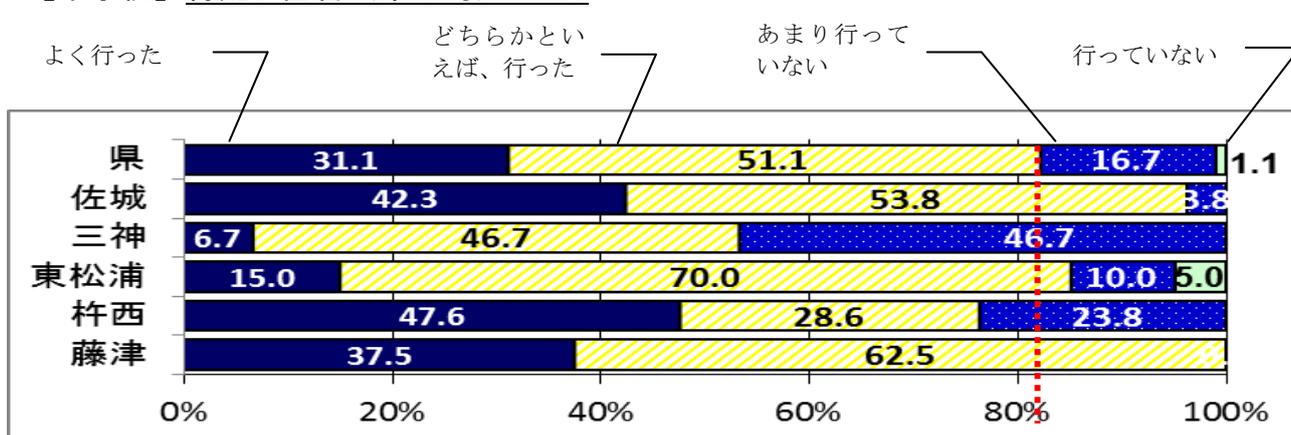


[グラフ 57] 国語、算数・数学で、家庭学習の課題の与え方について、校内教職員で共通理解を図る。

【小学校】 肯定的回答（県平均）95.0%



【中学校】 肯定的回答（県平均）82.1%

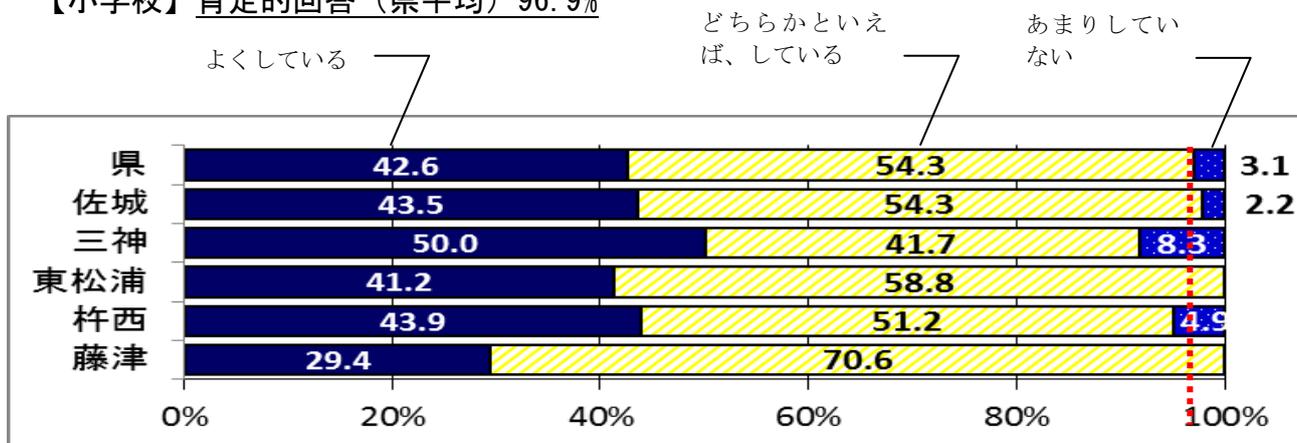


⑤ 教職員の取組について

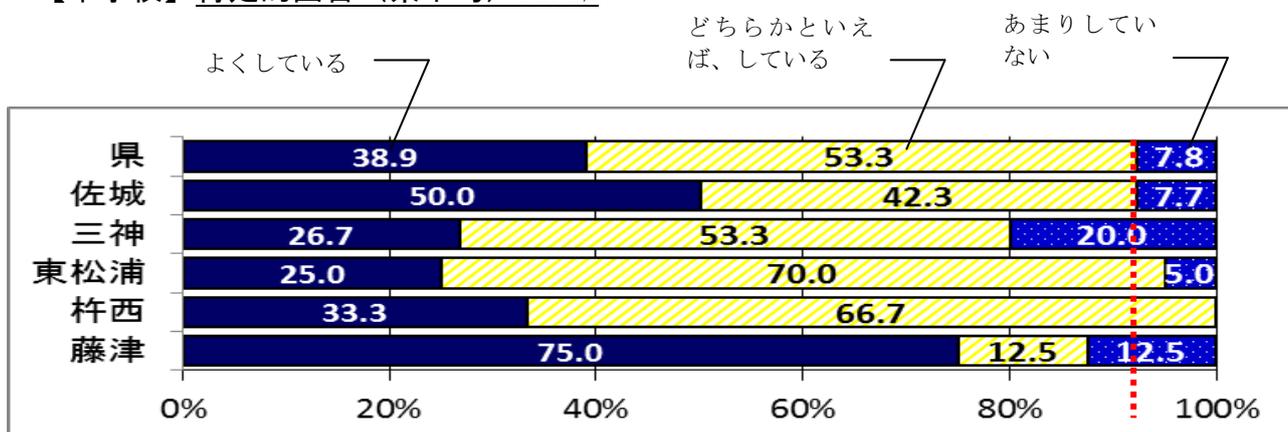
- 学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力していると回答した学校の割合は、小学校では地域間の大きな差は見られないが、中学校では杵西地域・東松浦地域が高い。[グラフ 58]
- 言語活動に重点を置いた指導計画を作成していると回答した学校の割合は、小学校では三神地域・杵西地域が高く、中学校では佐城地域が高い。[グラフ 59]
- 学級運営の状況や課題を全教職員で共有し、学校として組織的に取り組んでいると回答した学校の割合は、小学校では杵西地域・藤津地域が高く、中学校では、藤津地域が高い。[グラフ 60]

[グラフ 58] 学習指導と学習評価の計画の作成に当たっては、教職員同士が協力している。

【小学校】 肯定的回答（県平均）96.9%

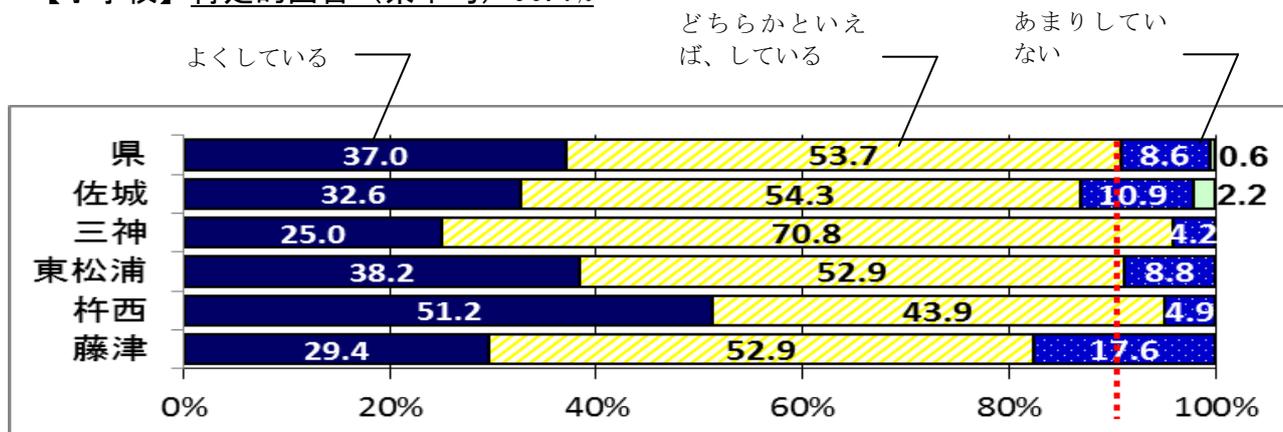


【中学校】 肯定的回答（県平均）92.2%

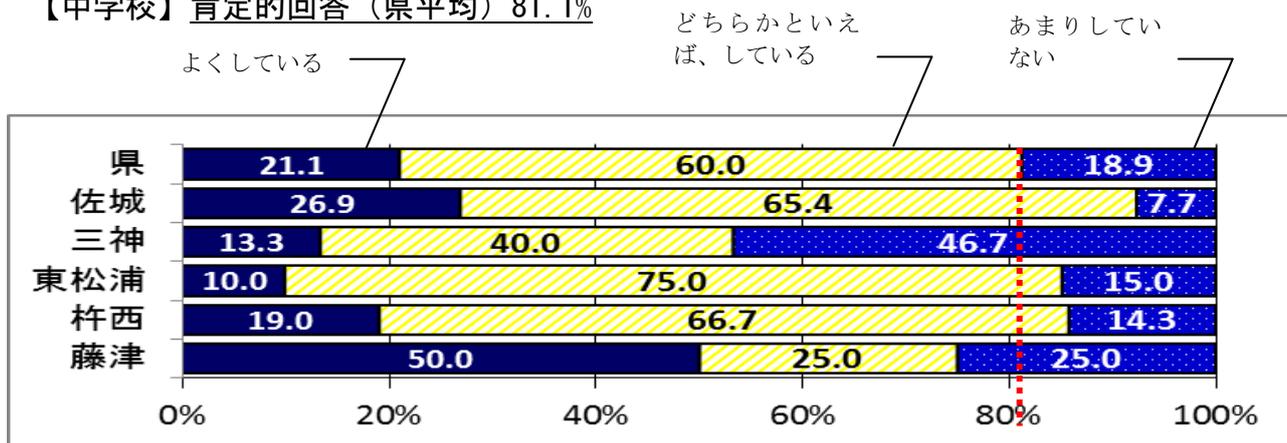


[グラフ 59] 言語活動に重点を置いた指導計画を作成している。

【小学校】 肯定的回答（県平均）90.7%

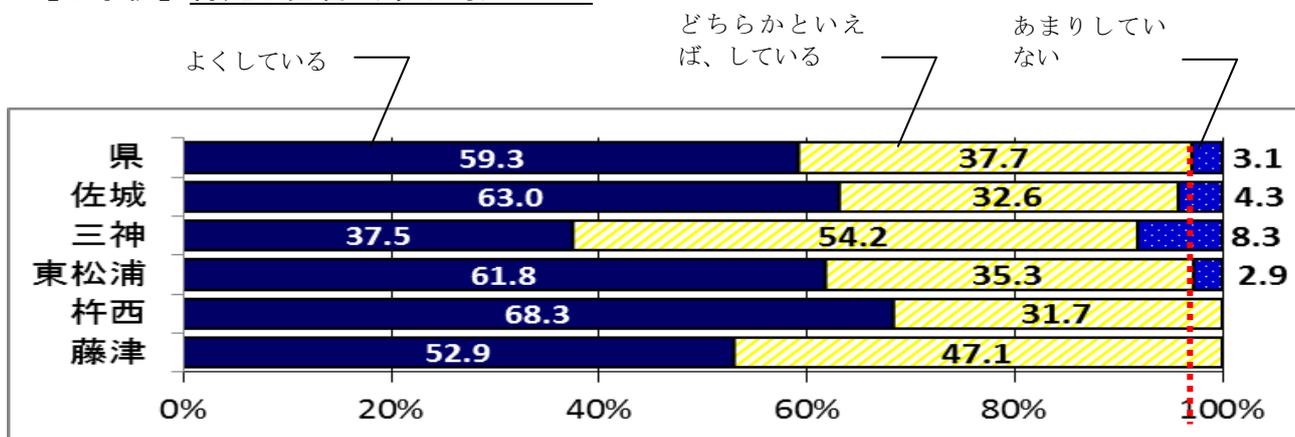


【中学校】 肯定的回答（県平均） 81.1%

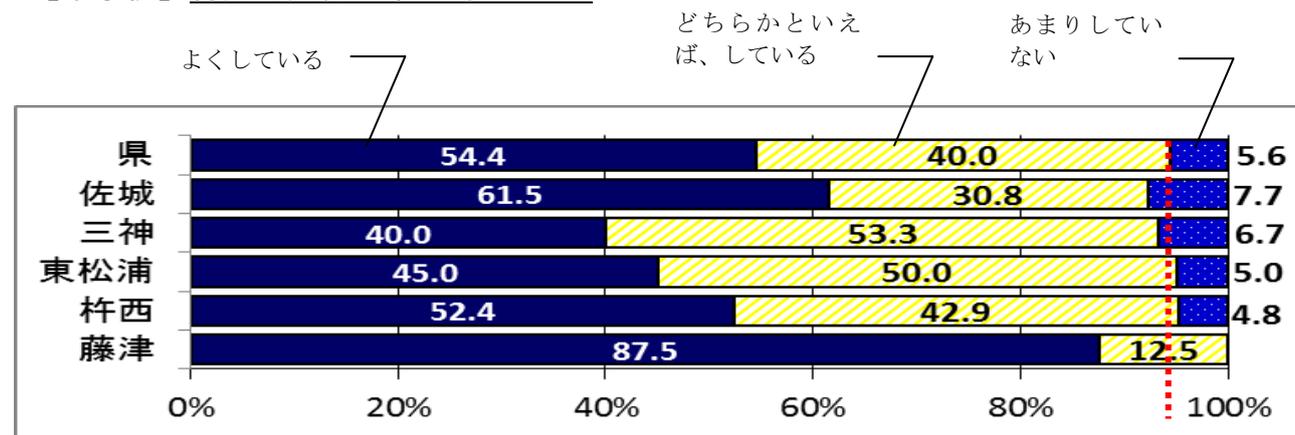


【グラフ59】 学級運営の状況や課題を全教職員で共有し、学校として組織的に取り組んでいる。

【小学校】 肯定的回答（県平均） 97.0%



【中学校】 肯定的回答（県平均） 94.4%



(6) 児童生徒意識調査からの指導改善のポイント

ア 授業への関心・理解度について

- ① 他教科や日常生活とのつながりを意識させる授業づくりを
「各教科の授業の内容はよく分かる」、「各教科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」の設問で、学年進行に伴い、肯定的な回答が減少傾向にあることから、児童生徒に有用感を持たせるための授業の工夫が必要である。
児童生徒が教科の学習を好きになる理由の1つに、各教科の学習が「他教科や日常生活に生かせる」「将来役立つ」などの有用感がある。そこで、学習課題(学習問題)を日常生活から設定したり、他教科において学習した内容を生かさせるような学習の場を設定したりして、学習したことが他教科や日常生活と結び付いていることを意識付けることが大切である。

イ 学習活動に関する意識について

- ① 自分の考えと他者の考えを比較する場の設定を
「授業中、自分の考えを発表する場がよくある」と意識している児童ほど正答率が高い傾向にあることから、意図的に、そのような学習活動を設定していく必要がある。
さらに、自分の考えを発表し交流する活動は、自分の考えと他者の考えとを比較する活動であり、児童生徒の思考力・判断力・表現力等を育成していく上で大切な活動である。考えを発表する場では、聞き手に相似点や相違点を考えながら聞かせたり、発表者に相似点や相違点を示しながら発表させたりするなどの工夫も大切である。
- ② 自分の考えを記述する活動を
教科の正答率から、自分の考えを書いたり発表したりすることに苦手意識のない児童生徒ほど、正答率が高い傾向にあることから、授業中はもちろんだが、宿題の内容においても工夫していく必要がある。
さらに、自分の考えを文章に書いて表現する活動は、自分の考えを整理することにつながるだけでなく、自分の考えを明確にする効果も期待できる。自分の考えを書き表すための指導を丁寧にしていくことが大切である。

ウ 家庭での学習について

- ① 家庭との連携を図り、家庭学習の定着を
小中学校いずれの校種においても、宿題の出し方については、具体的に指導している状況が分かる。半面、どのような内容を出すか、職員間で共通理解を張っているかという点については、小中学校の教師の間で意識の違いがみられた。また、児童生徒の宿題に対する意識も、若干ではあるが、低下している状況がある。
そこで、宿題の内容について、今一度校内で検討し、共有化を図るとともに、例えば、児童生徒やその保護者を対象とした宿題をしている状況についての意識調査を行い、その保護者に対して家庭での児童生徒の学習状況について考えてもらうなど、学校と保護者とが連携した取り組みを推進したい。

エ 学校生活、家庭生活に係る児童生徒の意識について

- ① 自分の考えと他者の考えを比較する場の設定を
「学校での生活は楽しい」と回答している児童生徒の割合が、近年減少傾向にある。「友達に会うのは楽しい」の設問についても同様である。このことから、友達との関係が、年々希薄になっている状況が分かる。友達同士が、互いに認め合ったり励まし合ったりすることは、互いの関係性を向上させる。関係性が向上し、学級での自分の存在が「安心できるもの」と感じることであれば、安心して学習に取り組めるようになる。つまり、その関係性が向上すれば、安心して学び合うことにつながるのである。そのため、学級経営を基盤とした授業づくりが大切である。
また、授業においては、体験的な活動を充実させ、達成感をもたせることも重要である。
- ② 家庭との連携を図り、計画的な過ごし方を
テレビやDVDを視聴する時間は減少傾向にあるが、ゲームをする時間、インターネットやメールのやり取りをする時間は逆に増加している。その分、家庭学習の時間が十分確保できていない児童生徒の割合が増えている。
家庭での過ごし方についても家庭学習と同様に、計画性をもたせる必要がある。その際、各学校においては、本調査結果などを有効に活用し、児童生徒及び保護者に、児童生徒の状況を十分に理解してもらうための具体的な手立てをとっていく必要がある。そのことが、児童生徒にこれまでの過ごし方を振り返らせると共に、保護者が、家庭でのよりよい過ごし方について考えさせることにつながる。特に、携帯電話、スマートフォンの所持率は年々増加の一途をたどっている。この点も含めて、保護者の啓発のための手立てを早急に検討しなければならない。